

若クハ沸湯ヲ以テ洗滌スヘシ

第三十條 病室内ニ用ヒタル什具及ヒ醫用器械等ハ稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十七)ヲ注キ然ル後沸湯ニテ洗滌スヘシ

第六 廁園溝渠等消毒法

第三十一條 患者ノ入りタル廁園ハ他人ノ入りヲ禁シ亞硫酸溶液(第十甲)或ハ硫酸鐵合劑(第五)ヲ注キ其瀉下物ハ速ニ之ヲ汲取り人家遠隔ノ地ニ搬送スヘシ而シテ其糞蓋ニハ復タ同様ノ消毒法ヲ行フヘシ

第三十二條 糞蓋及ヒ桶ノ破損シテ病毒滲漏ノ疑アルモノハ之ヲ掘除ケ其周圍ノ土ヲ掘取り濃厚石炭酸水(第一)或ハ亞硫酸溶液(第十甲)ヲ充分ニ灌注シ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却スヘシ

但消毒劑ノ量ハ其蓋中糞量五分一乃至三分一ニナルヘシ

第三十三條 若シ眠テ吐瀉物ヲ溝渠下水等ニ投棄スルコトアルハ充分ニ亞硫酸溶液(第十甲)或ハ硫酸鐵合劑(第六)ヲ注キ其汚泥ノ撈ヘ得ヘキモノハ之ヲ撈ヘテ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却スヘシ或ハ多量ノ水ヲ灌キテ疏通セシムヘシ

但本條ノ如キ場所ニ於テ既ニ病毒ヲ混入スルハ消毒法モ其功ヲ奏シ難ク終ニ増殖ヲ致サシムヘシ故ニ豫メ戒諭シテ眠テ之ニ投棄シ或ハ陰ニ投棄スル等ノ事ナカラシムルヲ要ス

實布哇利亞

實布哇利亞ハ一種ノ猛烈ナル傳染病ニシテ其毒ハ患者ノ痰唾涕汁等ニ含トリ又呼出スル所ノ空氣モ其毒ヲ包含スルヲ以テ之ニ觸ルハ老少ニ論ナク皆之ニ感スルモノナリ而シテ幼穉ノ者ハ之ニ罹ルト最モ多クシテ且ツ危險ナリトス抑シ此病毒ハ其發生時季ヲ擇ハス又風土ニ關涉スルコトナク不斷散在スルコトアリ又一時ニ廣ク流行スルコトアリ此症ハ必ス咽喉ニ發スルモノニシテ其部ノ壞爛ヲ致シ甚キモノハ須臾ニシテ斃ル故ニ從來喉風喉痺馬痺風纏喉風咽氣ト唱フルモノハ中亦往々之レ有リ此病ハ患者ニ觸接セサルモ尚ホ感染ノ恐アルモノニシテ且ツ其毒久ク消滅セサルカ故

ニ隔離消毒ノ方法ヲ忽ニスヘカラス

第一項 消毒法

第一條 此病流行ノ際ハ務テ一般消毒法ニ注意シ既ニ發病スルハ其室内ノ掃除ヲ怠ルヘカラス家具衣服等清潔ニシテ且ツ隔離法充分ナルルハ廣ク流行ニ至ラスシテ消熄スルヲ得ヘシ

第二項 攝生法

第二條 此病ハ殊ニ咽喉ヲ侵スモノニシテ既ニ些少ノ咽喉炎アルモノハ自カラ侵襲ヲ被リ易シ故ニ專ラ口内喉頭氣管等ノ炎症ヲ誘發スヘキ事件ヲ戒メ常ニ含漱スルヲ良トス

但其誘發スヘキ事件トハ頸圍ヲ温保セシモノ驟カニ寒冷ニ冒觸シ或ハ苛烈ノ飲食料ヲ用ヒ或ハ高談放歌シ或ハ切聲ヲシテ頻ニ號泣セシメ及ヒ小學校ニ於テ妄ニ高聲ヲ發シ讀書唱歌セシムル等ニシテ皆宜ク之ヲ戒シムヘシ

第三項 隔離法

第三條 醫師ノ實布哇利亞ト診斷スルハ其家ノ門戸ニ病名票ヲ貼附スヘシ

但患者治療或ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其病室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去ルヘシ

第四條 此病ハ患者ニ接觸シ或ハ患者ノ痰唾ニ汚染セル物品若クハ室内ノ空氣ヨリ傳染スルヲ以テ患者ハ速ニ之ヲ隔離シ看護人ノ外ハ漫ニ接近セシム可ラス殊ニ小兒ヲ遠サクヘシ

但室内ノ空氣ハ常ニ新鮮ナラシムルヲ要ス

第五條 病兒ハ健兒ト共ニ遊戲セシムヘカラス又學校等ニ行カシムヘカラス

第六條 病室内ニハ不用ノ衣服及ヒ器具ヲ置クヘカラス

第七條 患者ノ用フル所ノ飲食器及ヒ玩具等ハ他人ト共用スヘカラス

第八條 若シ其流行ノ勢ヒ盛ニシテ避病院ヲ要スルコトアルハ普通病院ヲ區隔シ或ハ相當ノ室屋ヲ以テ之ニ充ル等其便宜ニ任スヘシ

第八類ニ衛生

第九條 避病院ヲ設ルハ別ニ滑淨ナル居室ヲ設ケ患者死亡シタル片之ニ移スヘシ

但居室ハ親族ノ吊者ヲ入ルカ爲メ餘地ヲ設クヘシ

第十條 避病院ニ在ル患者ノ親戚又ハ別段ヲ交遊アル者看護ヲ爲サント望ム片ハ之ヲ許スヘシ但屢々交替スルハ許スヘカラス

第四項 消毒法

第十一條 此病毒ハ患者ノ痰唾及ヒ呼吸氣ハ涎汁等管之カ傳送物タリ故ニ此等ノ排泄物ニ汚染シタル物ハ必ス消毒法ヲ行フヘキモノトス

第十二條 消毒法ハ其物ニ從テ區別スルノ如シ

第一 患者及ヒ看護人等消毒法

第十三條 患者治療ノ後他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ著スヘシ看護人及ヒ避病院ノ醫師看護人死體取扱人等ノ他人ニ接スル片モ亦此法ニ從フヘシ

第十四條 自宅患者ヲ往診セル醫師及ヒ患者ノ家人ニシテ直接セサル者親戚朋友ノ一時見舞タル者等其室ヲ出ル片ハ必ス盥漱スヘシ

第二 死體及ヒ排泄物等消毒法

第十五條 死體ハ醫師確認ノ後速ニ棺内ニ歛メシムヘシ若シ濃厚石炭酸水(第一)ニ浸シタル綿ヲ以テ口鼻ヲ栓塞スルヲ得ハ最良トス

但死體ハ成タケ火葬スルヲ良トス

第十六條 痰唾及ヒ涎汁等ヲ拭ヒタル手巾及ヒ紙綿布ノ類ハ悉皆取集メ之ヲ燒却スヘシ

但水分剩多ニシテ燒盡シ難キ片ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ注キ人家遠隔ノ地ニ搬送シテ埋却スヘシ

第三 衣服臥具等消毒法

第十七條 衣服臥具ノ甚シク汚穢シタルモノハ之ヲ燒却スルヲ良トス其僅ニ穢レタルモノハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ注キ浸シ置ク一二十四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ且ツ洗滌シ日光ニ曝スヘシ或ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ以テ蒸蒸セシ後日光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第四 家屋船舶等消毒法

第十八條 此病毒ハ極テ頑強ニシテ善ク粗糲ナル物ニ附着スルカ故ニ最モ注意シテ下條ノ消毒法ヲ充分ニ行フヘシ  
第十九條 患者及ヒ死體ヲ置タル病室ノ疊席類ハ之ヲ柱ニ倚セ掛ケ戸棚等ヲ開放シ窓戸ヲ密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ蒸シ然ル後窓戸ヲ開キ疊席壁障等ニハ更ニ稀薄石炭酸水(第二)ヲ撒布シ或ハ之ヲ以テ拭淨シ其他棚架及ヒ板敷等ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及ヒ日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室居室及ヒ普通病院ヲ區隔セシ病室又ハ臨時假用セル家屋モ亦之ニ倣フヘシ

但亞硫酸ノ爲メニ其性質ヲ變化スルノ恐アルモノハ石炭酸蒸氣(第三)或ハ熱氣消毒法等ヲ撰用スヘシ

第五 什具運搬器等消毒法

第二十條 病室ニ用ヒタル什具飲食器及ヒ玩具等ノ甚シク汚穢シタルモノハ之ヲ燒却スヘシ其燒却スヘカラサルモノハ稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十甲)ヲ灌キ然ル後石鹼水又ハ沸湯ニテ洗淨スヘシ其洗フヘカラサルモノハ病室ニ消毒法ヲ行フノ際其内ニ排列シ(濕潤ニ堪フヘキモノハ之ヲ濕スヲ良トス)亞硫酸瓦斯(第九)或ハ石炭酸蒸氣(第三)ニテ一時蒸蒸スヘシ然ラサレハ室外へ出スヘカラス

第二十一條 患者ノ玩弄セシ圖書書籍ノ類ハ之ヲ播展シ石炭酸蒸氣(第三)或ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ蒸蒸スヘシ

第二十二條 患者及ヒ死體ヲ運搬セシ器具等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌注シ更ニ石鹼水若クハ沸湯ヲ以テ洗淨スヘシ

其貯舟ノ如キハ海水ヲ以テ洗フモ可ナリ

第二十三條 醫術器械等ノ木製及ヒ金屬製ニシテ病毒ニ接觸シタルモノ例ヘハ壓舌鏡ノ如キハ總テ稀薄石炭酸水(第二)

第八類 衛生

ヲ以テ洗フヘシ

發疹室扶私

發疹室扶私(英名泰扶私)ハ特異ノ揮發性傳染毒ニシテ飢饉熱軍陣疫囚獄熱等ノ稱アリ從來腐敗熱神經熱發疹熱温疫傷寒ト唱ヘシモノ、中ニモ亦此病アルト多シ其病タルヤ地方ヲ擱ハス氣候ニ關セズ流行スルト雖モ多クハ衆人群集大氣流通ノ不佳ナル所ニ萌動シ衣服身體ノ不潔或ハ飲食ノ不潔不足及ヒ過度ノ勞力露臥夜行其他身體ヲ衰弱セシムル事項ヲ誘因トシ傳染蔓延スルモノナリ其流行スルニ及テハ貴賤老幼ノ別ナク其誘因アルカ或ハ隔離法ノ行届サルヨリ倍々傳染ノ勢ヲ盛ニシ動モスルハ年ヲ亘リ消滅セサルコトアリ故ニ此病ノ豫防法ハ最モ忽ニスヘカヲサレモノトス

第一項 清潔法

第一條 發疹室扶私ノ病源ハ不潔穢隘空氣ノ汚濁ヨリ生スルモノナレハ其發現スルニ當テ囚獄兵營及ヒ製造所醫院棄兒院其他群集雜居稠密ノ場所ハ勿論一般ノ家屋タリモ掃除ニ怠ラス務テ清潔ニシテ且ツ空氣ヲ流通セシムヘシ最モ其身體ニ切ナル清潔法ヲ至要トシ日々沐浴シ衣服ノ洗濯ヲ怠ルヘカラス殊ニ病源ノ發生ヲ助クヘキ一切ノ汚穢物即チ厠固芥瀝溝渠等ノ掃除ニ注意ヲ加フヘシ

第二條 避病院病室ニ於テ用フル所ノ臥具ハ無色若クハ淡色ノモノヲ要スヘシ其汚染ノ見易キカ爲メナリ自宅療養ノ者モ亦同様ノ注意ヲ要スヘシ

第二項 攝生法

第三條 此病ニ感スルノ原因ハ各人多クハ之ヲ有スト雖モ就中飢饉ノ窮民軍陣ノ兵卒監獄ノ囚徒等ノ如キハ其居處及ヒ攝生ノ不潔ナルヨリ此病ニ罹ルモノ多シトス夫レ飢饉ノ時ニ當テハ攝生ノ事皆其宜キヲ得スト雖モ其最モ甚シキハ食物ノ不足ト不潔トニアリ故ニ衛生官吏ハ務テ其食品中成クテ滋養分多キモノヲ撰ヒ有害ノ物ヲ指示シテ之ヲ避ケシムヘシ

第四條 兵卒ノ軍陣ニ在ルルハ固ヨリ攝生ノ方ヲ講スルニ迫ナカルヘシト雖モ若シ一人發病スルルハ直チニ全軍ニ波及スルノ虞アルヲ以テ成ルルケケ無用ノ露臥過勞ヲ慎ミ且ツ飲料ノ良否ニ注意ヲ加フヘシ囚獄懲役場ノ如キハ流行ノ際殊ニ空氣ノ流通及ヒ其食物ニ注意ヲ加ヘ工役等モ過度ナラシメサルヲ要ス一旦病源ノ蔓延スルニ至テハ高貴家

富ノ人ト雖モ猶其傳染ヲ免ル、能ハス是各人其原因アルヲ避スルニ足ル故ニ此時ニ當テハ務テ身體ノ温度ヲ適宜ニ保持シ飲食ヲ攝シテ過度ノ勞力ヲ爲スヘカラス且ツ夜氣風雨等ノ感冒及ヒ身體ヲ衰弱セシムルノ諸件ヲ戒ムヘシ

第三項 隔離法

第五條 醫師發疹室扶私ト診斷シタルルハ直チニ其家ノ門戸ニ病名票ヲ貼附スヘシ

但患者治癒又ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去ルヘシ

第六條 發疹室扶私ハ其揮發性ニシテ患者ノ皮膚蒸發氣呼吸氣ヨリ發スルモノナレハ直チニ患者ニ接觸セサルモ尚ホ之ヲ感受スルコトアリ故ニ患者ノ身體ヲ以テ皆病源ナリト看做スヘシ又患者數名ヲ狹隘ノ一室ニ入ルルハ病源稠厚トナリ感染ノ勢益々烈ク此室内ニ入ルモノ忽チ其病源ヲ受ルノ恐アリ故ニ患者ハ速ニ之ヲ隔離シ且相當ノ廣室ニ移サハルヘカラス

第七條 病室ハ適宜ニ窓戸ヲ開キ換氣法ニ注意シ其内ノ空氣ヲ新鮮ナラシメ看護人ノ外必ス接近セシムヘカラス

第八條 家族中ニ於テモ看護人ヲ定メ止ムヲ得サル事故アルノ外他人ト交通ヲ絶チ又老幼等ハ成クテ速ニ他家へ避退セシムヘシ否ラサレハ皆ニ其害ヲ受ルノミナラス之カ媒介トナリ大ニ傳播スルノ恐アレハナリ

但家人ト雖モ要用アルノ外其室内ニ入ルヘカラス若シ外人ノ要用アリテ來ルルハ戶外ニ於テ之ヲ辨スヘシ且ツ看護人ハ成クケ更換スヘカラス是レ其揮發毒ノ衣服等ニ附着シテ廣ク他人ニ傳染スレハナリ

第九條 病室内ニハ不用ノ器具ヲ置クヘカラス殊ニ毛布ノ類ハ其病源ヲ包含シ易キカ故ニ必要ノ外決シテ之ヲ置クヘカラス

第十條 此病ハ死體ヨリモ尚ホ其病源ヲ發出シ以テ感染セシムルノ例少ナカラス故ニ死體ニハ速ニ消毒法ヲ行フヘシ

第八類 衛生

死體ニ沐浴セシメ或ハ屍傍ニ接近スル等ノ一ハ決シテ爲スヘカラス

第十一條 患者治癒死亡ノ後ハ病室ニ消毒法ヲ行ヒ數週間窓戶ヲ開放シ風氣ヲ流通スヘシ蓋シ消毒ノ後ト雖モ即チ室内ニ起臥スルハ傳染ノ恐キニアラサルカ故ナリ

第十二條 船舶中ニ此病ヲ發スル者アルハ速ニ其室ヲ異ニシ看護人ノ外交通ヲ絶ツ一尚ホ人家ニ於ルカ如クスヘシ但此病ハ動モスレハ衆人群集セル船室ニ發シ又船中飲食ノ不潔不足等其原因トナルカ故ニ若シ患者アラハ速ニ之ヲ隔離シ室内ノ清潔法ニ注意スヘシ

第十三條 製造所會社學校旅店等其他衆人群集ノ處ニ於テ發病セシ者アラハ成タケ速ニ之ヲ避病院ニ送ルヲ良トス若シ避病院ナク他ニ相當ノ空屋アラハ直チニ此ニ送致スヘシ然レモ其發病セシ所ノ室廣調ニシテ且ツ他人ト充分ニ隔離スルヲ得ハ必シモ他ニ送ルヲ要セサルヘシ

第十四條 避病院ノ位置ハ人家ニ接近セス且ツ恒風ノ上ニアラサル地ヲ撰ヒ必ス往來繁多ノ路傍等ニ置クヘカラス但其門前ニ高ク病名標識ヲ掲クヘシ

第十五條 避病院ノ建築ハ簡易ヲ旨トシ善美ヲ要セス是レ流行終熄ノ後燒却スルヲ良トスレハナリ

第十六條 避病院ノ病室ハ最も大ナルヲ要スル故ニ患者一人ニ二坪半ト見積リ其人數ノ概計ハ虎列刺第三十四條ニ載セタル割合ニ從ヒ之ヲ設クヘシ其他醫師所事務所看護人休息所並ニ簡易ニ蒸氣室等ヲ設クヘシ(虎列刺第三十六條參照)

第十七條 避病院ノ門側ニ輕易ナル風呂ヲ置キ看護人見舞人等退出ノ時必ス之ニ浴セシムルヲ良トス又病室ハ空氣ヲ流通セシメンカ爲メ窓戶ヲ開キ冬時ハ暖爐ヲ置キ其溫度ヲ適宜ニシテ空氣ノ代價ヲ助クヘシ

但患者退院者クハ死亡スルノ後ハ毎回其病室内ニ消毒法ヲ行フヘシ

第十八條 避病院ニハ清潔ナル屍室ヲ設ク患者若シ死亡シタルハ直チニ之ニ遷シ病室ニ置置クヘカラス

但其屍室ニハ親族ノ吊者ヲ入ルカ爲メ其餘地ヲ設クヘシ其吊者ハ成タケ速ニ米ルヘキ手續ヲ爲スヲ要ス此病ハ死體

モ亦發病ヲ逼フスルモノナレハ必ス久ク留置クヘカラス

第十九條 人家稀疎ノ村落ニ於テハ必スシモ避病院ヲ要セス若シ相當ノ空屋アラハ之ヲ假用シ或ハ苦井等ノ屋舎ヲ假設スルモ可ナリ

第二十條 尋常ノ病院ニハ決シテ此患者ヲ入ルヘカラス若シ院内ニ從來傳染病室ノ設アリテ充分ニ隔離消毒法ヲ行ヒ得ヘキノ目的アルモノハ入院ヲ許スヘシト雖モ尋常ノ病院ヲ區隔シ之ヲ用フヘカラス

第二十一條 避病院看護人ノ負數ハ重症ノ患者ニハ二人一人ヲ附シ輕症ノ者ニハ四人一人ヲ附シ其快復ニ趣ク者ニハ六人一人ヲ附スル割合ヲ以テ便宜斟酌シ且ツ晝夜交代セシムヘシ

但看護人ニハ其表記アル衣服ヲ着セシメ且ツ成タケ其人ヲ更換セシムヘカラス

第二十二條 避病院ニ在ル患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者看護ヲ爲サン一ヲ望ムルハ之ヲ許スヘシ但其看護人ハ多人數ヲササルヲ要シ且ツ屢々更替スルヲ許スヘカラス

第二十三條 避病院ニ携へ來リシ衣類手道具等ハ別室ニ置クヲ良トス

第二十四條 患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者來訪スルモ成タケ室内ニ入ルヲ許サ、ルヲ良トス

第二十五條 此病ハ揮發性ニシテ一時ニ衆人ヲ侵シ若シ一人發病スルハ其衣服等ニ附着セル病毒忽チ傳播シ大ニ流行ノ媒介トナルヲ以テ流行ノ際ニハ成タケ衆人群集スルノ事業ヲ禁止メ且ツ社寺參拜等ノ爲メ多人數旅行スルヲ禁止ルヲアルヘシ

第四項 消毒法

第二十六條 此病毒ハ患者及ヒ死者ノ身體ヨリ發シテ衣服臥具器具ハ勿論居室ノ疊席屏障等ニ至ルマテ盡ク附着シテ其病毒久ク潛匿スルモノナレハ病體及ヒ死體ニ近接セルモノハ都テ病毒ト同視シ消毒法ヲ行フヲ要ス

第二十七條 消毒法ハ其物ニ從テ區別スルヲ左ノ如シ

第一 患者及ヒ看護人等消毒法

第八類 衛生

第二十八條 患者治療ノ後始テ他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節等ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ着スヘシ看護人及ヒ患者死體運搬人並ニ避病院ノ醫師死體取扱人及ヒ船中ニテ患者ト同席セシ者等他人ト交通スル時モ亦此法ニ從フヘシ

第二十九條 自宅患者ヲ往診セシ醫師及ヒ患者ノ家人ニシテ直接セラル者親戚朋友ノ一時見舞タル者ハ成タケ石鹼水或ハ醋水ニテ顔面及ヒ手ヲ洗拭スヘシ

第三十條 死體及ヒ排泄物等消毒法  
第二 死體ハ充分ニ稀薄石炭酸水(第二)ニ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ速ニ棺内ニ歛ムヘシ但死體ハ成タケ之ヲ火葬スルヲ良トス

第三十一條 西洋形船舶航海中ニ死者アルハ速ニ濃厚石炭酸水(第一)ニ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ假ニ棺内ニ歛メ通常屍室或ハ船中適宜ノ場所ヲ見計ヒ此ニ入レ置キ時々濃厚石炭酸水(第一)ヲ灌注スヘシ但陸地ニ著スルハ速ニ其地方ノ警察官吏衛生委員ニ届出處分スヘシ

第三十二條 此病ハ必シモ排泄物ヨリ傳染セスト雖モ空氣ヲ汚スノ恐アルヲ以テ成タケ速ニ之ヲ取除ケ病室内ニ留置ヘカラス

第三 衣服臥具等消毒法

第三十三條 患者ノ久ク着シタル衣服臥具ノ汚垢ニ染ミタル者又ハ死體ニ直接シタル臥具避病院ニテ用ヒタル臥具蚊帳等ハ成タケ焼却スルヲ良トス其焼却ヲ憚ルヘキモノニシテ洗濯スヘキハ之ヲ桶ニ入レ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌キ浸シ置ク一二十四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ四五分時ヲ經ルノ後水ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スヘシ石炭酸等若シ缺乏スルハ熱湯中ニ入レ一時以上煮沸スヘシ

第三十四條 同前ノ品種ニシテ洗濯スヘカラサルモノハ亞硫酸瓦斯(第九)石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ蒸蒸シ或ハ熱氣消毒法ヲ行ヒシ後日光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第四 家屋船舶等消毒法

第三十五條 患者及ヒ死體ヲ置キタル室ノ鼻漏類ハ之ヲ柱若クハ壁ニ倚セ掛ケ戸棚等ヲ開放シ室内ニアリシ諸器具ハ之ヲ排列シ窓戸ヲ密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰シ然ル後窓戸ヲ開キ病室附著ノ恐アル柱板敷等ニ稀薄石炭酸水(第二)ヲ散布シ更ニ之ヲ拭淨シ其他器具ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及ヒ日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室及ヒ屍室モ亦之ニ倣フヘシ

但金銀器書畫其他彩色ヲ施セル物及ヒ絹帛等亞硫酸ノ爲メニ其色質ヲ變化スルノ恐アル者ハ初ニ之ヲ取除ケ別ニ石炭酸蒸氣(第三)或ハ熱氣消毒法等ヲ適宜採用スヘシ

第三十六條 患者アリタル西洋形船舶ハ其處置尋常ノ家屋ニ大異ナシト雖モ下等客室ニ至テハ衆多ノ乘客積荷ノ間ニ枕藉シ幾ント彼我ノ別ナキカ故ニ若シ其中ニ發病者アルハ満室ノ乘客積荷手荷物ハ皆病室ニ浸染シタル者ト看做シ乘客手荷物ハ上陸ノ時充分ニ消毒法ヲ行ヒ積荷ハ其儘其室ニ於テ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)或ハ品種ニヨリ石炭酸蒸氣(第三)ヲ薰スルノ後ニ非ザレハ陸揚スルヲ許サス

第三十七條 日本形小船ハ前條ヲ斟酌シテ消毒法ヲ行ヒ海水ヲ以テ普ク船身ヲ洗フヘシ

第三十八條 尋常家屋ヲ避病院ニ假用セシモノハ其病室トナセシ部分ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰シシ後稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ洒キ石鹼水ヲ以テ洗淨スヘシ

第三十九條 病室ハ不斷換氣法ニ注意スヘシ是亦多少消毒ノ効アルモノトス

第四十條 避病院ハ流行ノ後成タケ焼却スルヲ良トス否ラサレハ先ツ汚穢シタル板敷板壁及ヒ柱等ハ濃厚石炭酸水(第一)又ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ以テ充分ニ洗淨シ數日間開放シテ大氣ニ曝シ然ル後之ヲ取毀ツヘシ

第五 什具運搬等消毒法

第四十一條 病室ニ用ヒタル什具ハ總テ稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十)ヲ灌キ然ル後石鹼水又ハ沸湯ニテ洗淨スヘシ其洗フヘカラサルモノハ病室ニ消毒法ヲ行フノ際其内ニ排列シ(濕潤ニ堪フヘキモノハ之ヲ濕スヲ良ト

ス(亞硫酸瓦斯(第九)或ハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ一時間蒸蒸スヘシ  
第四十二條 書籍新聞紙ノ類病室ニアリタルハ之ヲ縮展シ石炭酸蒸氣(第三)若クハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ蒸スヘシ或  
ハ熱氣消毒法ヲ行フモ可ナリ

第四十三條 醫術器械及ヒ職人手道具其他木製金屬製陶製漆製ノ諸器類ハ總テ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗フヘシ

痘瘡

痘瘡ノ病毒ハ揮發性及ヒ固性傳染毒ニシテ全ク患者ノ身體ヨリ發出シ又ハ死體及ヒ痘瘡痘痂ニ直接シテ感染スルノミ  
ナラス其患者ニ接觸セシ衣服、臥具其他一切ノ物品ヨリモ傳染シ又其病室内ノ空氣塵埃モ之カ媒介トナリテ其病毒ヲ傳  
送スルモノトス

痘瘡ハ古來ヨリ全世界ニ發現シ殊ニ惡性流行スルハ其勢猖獗ニシテ無數ノ人衆ヲ害シ良醫モ亦手ヲ束テ其術ヲ施ス  
ヘカラサルアリ但人生一回此病ニ罹ルハ感受性ヲ脱離シ得ルヲ以テ英國ノ醫博士ジエンチル氏痘瘡接種ノ法ヲ發明  
セシ以還其善成スル者ハ復ク天然痘ニ感スルナシ故ニ此法行ハレテヨリ大ニ患者ノ數ヲ減シ偶々流行スルモ其病性劇  
惡ニ至ラス殆ント其性ヲ變スルニ至ルヲ証スルニ足ル是故ニ種痘ヲ普及スルハ全ク此病ヲ防盡スル所以ニシテ即チ豫  
防ノ第一トス

第一項 清潔法

第一條 此病ハ各人感受性ヲ具フル故ニ一般清潔法ヲ要スルモ他病ニ於テ緊要トスルカ如クナラス但患者ノ居室ヲ清  
潔ニシ痘瘡等ニ汚染セル衣服ヲ屢々更換シ周圍ノ塵埃ヲ掃除シ母テ他人ニ傳染スルヲ防クヲ要スルニアルノミ

第二項 攝生法

第二條 前條ニ載スルカ如ク牛痘ヲ接種シテ其原因ヲ脱盡スルハ復ク天然痘ニ感スルナシ然レモ一回種痘ヲ以テ足  
レトトスヘキニ非ス再三接種シ其善成ノ確證ヲ取ラサルヘカラス唯衣服飲食等ノ攝生ヲ以テ此病ノ侵襲ヲ豫防スヘ  
キニアラス

第三項 隔離法

第三條 醫師痘瘡ト診斷シタルハ直チニ其家ノ門戸ニ病名票ヲ貼附スヘシ  
但患者治癒又ハ死亡若クハ避病院ニ送致シ其病室ニ消毒法ヲ行ヒタル後ハ即チ其病名票ヲ去ルヘシ

第四條 痘瘡ノ毒ハ患者ノ身體又ハ其衣服、臥具等ヨリ傳染シ又患者ニ接近シタル者ノ衣服等ヨリモ傳染スルヲ以テ成  
クケ患者ニ接近シ又ハ患者ノ用ヒタル衣服器具等ニ觸ルヘカラス

第五條 自宅療養ノ患者ハ其室ヲ異ニシ看護人ノ外ハ成ク接近スヘカラス已ムヲ得ケル事故アルノ外ハ他人ト交通  
ヲ絶テ殊ニ未痘者ヲ近クヘカラス

第六條 家族中ニ於テモ看護人ヲ定メ其他要用了ル者ノ外成ク之ヲ室内ニ入ラシムヘカラス  
但看護人ハ既痘者ニ限ルヘシ

第七條 病室内不用ノ器具ハ勿論殊ニ不用ノ毛布等ヲ置クヘカラス

第八條 患者死亡ノ後其屍傍ニ接近シ并ニ死體ニ沐浴セシムル等ハ爲サヘルヲ畏トス

第九條 縱令輕症ナル患者ト雖モ落痂後一週日ヲ經ルニアラサレハ學校其他衆人聚集ノ場所ニ行カシムヘカラス

第十條 蚊蠅ハ好テ患者皮膚ニ聚リ頗ル病毒傳播ノ媒介トナスモノナレハ病床ニハ常ニ蚊帳ヲ張リ蚊蠅及ヒ其他ノ小  
蟲ヲモ防クヘシ

第十一條 病室ハ消毒ノ後ト雖モ數週間未痘者ヲ入ルヘカラス

但同室内ニ於テ若シ復ク此病ニ罹ル者アル時ハ此病室ヲ用フルモ妨ケナシ

第十二條 西洋形船舶航海中若シ發病者アルハ其室ヲ異ニシ看護人ノ外他人ト交通ヲ絶ツテ猶ホ人家ニ於ケルカゴ  
トクスヘシ

第十三條 製造所會社學校旅店等ニ在テ發病シ引取人ナキ者并ニ狹隘不潔ノ地ニ雜居スル者等ニシテ看護消毒法行届  
カス病毒ノ傳播ヲ防キ難キ者ハ之ヲ避病院ニ送ルヘシ若シ避病院アラサルハ適當ノ空屋ニ移シテ之ヲ隔離スヘシ

第八類 衛生

第十四條 避病院ノ位置ハ人家ニ近接セス且ツ恆風ノ上ニアラサル地ヲ撰ヒ必ス往來繁多ノ路傍等ニ設クヘカラス  
 但其門前ニ高ク病名標旗ヲ掲クヘシ  
 第十五條 避病院ヲ新ニ構造スルハ空氣ノ流通ヲ主トシ善美ヲ要セス其牀ヲ高クシ窓戸ヲ大ニシ且ツ板壁ヲ用ヒ  
 テ洗淨ニ便ニシ其家根ハ板葺葺等一時ノ便ニ任シテ可ナリ且ツ其病室ハ大ナルヲ要スルヲ以テ凡患者一人ニ  
 坪半ト見積リ之ヲ建設スヘシ  
 第十六條 避病院ノ病室ハ重症輕症ノ患者ヲ區別シテ之ヲ分隔シニ坪半ニ患者一人ヲ置クヲ常トシ縱令腐溼スルトモ  
 一坪若クハ二坪半ニ一人ノ割合ヨリ狭クスヘカラス  
 但此他醫師詰所事務所看護人休息所等便宜ニ之ヲ設ケ且ツ簡易ノ煎蒸室ヲ設クヘシ  
 第十七條 避病院ノ門側ニハ輕易ナル風呂ヲ設ケ看護人見舞人等外出ノ時入浴ノ用ニ供スヘシ  
 第十八條 避病院ハ窓戸ヲ開大ニシ空氣ヲ流通セシメ冬時ハ暖爐ヲ置キ室内ノ溫度ヲ適宜ニシ空氣ノ代謝ヲ助クヘシ  
 但病室ハ患者治癒死亡ノ後毎回消毒法ヲ施スヘシ  
 第十九條 避病院ニハ別ニ滑淨ナル屍室ヲ設ク患者若シ死亡シタルハ直チニ此ニ移スヘシ  
 但屍室ハ親族ノ用者ヲ入ルカ爲メ其餘地ヲ設クヘシ且ツ其用者ハ成ク速ニ來ルノ手續ヲナスヲ要ス  
 第二十條 尋常病院ニハ決シテ此患者ヲ入ルヘカラス若シ院内ニ從來傳染病室ノ設ケアリテ充分ニ隔離消毒法ヲ行  
 ヒ得ヘキノ目的アルモノハ入院ヲ許スヘシト雖モ尋常ノ病院ヲ區隔シテ之ヲ用フヘカラス  
 第二十一條 人家稀疎ノ村落ニ於テハ必シモ避病院ヲ設ルヲ要セス若シ相當ノ空屋アラハ假ニ之ヲ用フヘシ  
 第二十二條 避病院看護人ノ員數ハ重症ノ患者ニハ一人ニ一人ヲ附シ輕症ノ者ニハ三人ニ一人ヲ附スル割合ヲ以テ便  
 宜斟酌シ且ツ晝夜交代セシムヘシ  
 但看護人ハ既痘者ニ限ルヘシ且ツ其表記アル衣服ヲ著セシメ成ク其人ヲ更換セシムヘカラス  
 第二十三條 避病院ニ在ル患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者看護ヲ爲シテ望ムルハ既痘者ニ限リ之ヲ許スヘシ但屢

々更替スルヲ許スヘカラス

第二十四條 患者ノ親族等一時見舞ヲ爲サント請フハ之ヲ許スト雖モ成ク屢々スヘカラス其出ル時ニハ必ス充分  
 ノ消毒法ヲ施スヘシ

第二十五條 流行ノ勢猛烈ナルハ祭禮劇場等衆人群集ヲ禁止メ學校モ成ク之ヲ閉ツルヲ良トス

第四項 消毒法

第二十六條 此病毒ハ膿漿痲痘呼吸津唾及ヒ死體ヨリ傳染シ又患者ノ衣服臥具其他患者ニ接觸セシ器具及ヒ居室等  
 ヨリモ傳染スルカ故ニ甚シク汚染セシモノハ成ク焼却スヘシ

第二十七條 消毒法ハ其物ニ從テ區別スルヲ左ノ如シ

第一 患者及ヒ看護人等消毒法

第二十八條 患者治癒後一週日ヲ經テ初テ他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用テ全  
 身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ著スヘシ看護人及ヒ患者屍體運搬人並ニ避病院ノ醫師死體取扱人  
 等ノ他人ニ交接スルハ亦此法ニ從フヘシ

第二十九條 自宅患者ヲ往診セル醫師及ヒ患者ノ家人ニシテ直接セサル者親戚朋友ノ一時見舞タル者等ハ石鹼水或ハ  
 醋水ニテ顔面及ヒ手ヲ洗フヘシ

第二 死體及ヒ排泄物等消毒法

第三十條 死體ハ充分ニ稀薄石炭酸水(第二)ヲ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ速ニ棺内ニ納ムヘシ

第三十一條 死體ハ成ク火葬セシムルヲ良トス埋葬シタルモノハ其病毒數十年ヲ經ルモ消滅セサルモノトス

第三十二條 西洋形船舶航海中ニ死者アルハ速ニ濃厚石炭酸水(第一)ニ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ假  
 ニ棺内ニ納メ通常屍室以ハ船中適宜ノ場所ヲ見計ヒ此ニ入レ置キ時々濃厚石炭酸水(第一)ヲ灌注スヘシ  
 但陸地ニ著スルハ速ニ其地方ノ警察官吏衛生委員ニ届出處分スヘシ

第三十三條 落痴及ヒ病室ノ塵埃又ハ患者ニ觸レタル綿布紙等ノ斷片ニ至ル迄時々收拾シテ之ヲ燒却スヘシ

第三 衣服臥具等消毒法

第三十四條 患者ノ欠ク用ヒタル衣服臥具及ヒ避病院ニ用ヒタル蚊帳ノ甚シク病毒ニ浸染シタル者并ニ避病院ノ臥具疊褥等ハ之ヲ燒却スヘシ

第三十五條 患者ノ若シタル衣服臥具及ヒ手巾蚊帳等又ハ死體ニ著セシ衣服等ノ洗濯ニ堪フヘキモノハ之ヲ桶ニ入レ稀薄石炭酸水(第二)ヲ濯キ浸レ置ク一二十四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ四五分時ヲ經ルノ後水ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スヘシ石炭酸等若シ缺乏スルハ熱湯中ニ入レ一時以上之ヲ煮沸スヘシ其洗濯ニ堪ヘサルモノハ其品種ニヨリ亞硫酸瓦斯(第九)若クハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ薰蒸シ或ハ熱氣消毒法ヲ行ヒシ後日光及ヒ大氣ニ曝スヘシ

第三十六條 避病院ノ醫師看護人及ヒ死體運搬人等ノ衣服ニ施スヘキ消毒法ハ前條ニ同シ

第四 家庭船舶等消毒法

第三十七條 患者及ヒ死體ヲ置キタル室ノ疊褥類ハ之ヲ柱若クハ壁ニ倚セ掛ケ戸棚等ヲ開放シ室内ニアリシ諸器具ハ之ヲ排列シ窓戸ヲ密閉シ六時乃至八時間間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰シ然ル後窓戸ヲ開キ病毒附著ノ恐アル柱板敷等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ撒布シ更ニ之ヲ拭淨シ其他ノ器具ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及ヒ日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室及ヒ屍室モ亦之ニ倣フヘシ

但金銀器毒蝕其他彩色ヲ施セル物及ヒ絹帛等亞硫酸ノ爲メニ其性質ヲ變化スルノ恐アル者ハ初二之ヲ取除ケ別ニ石炭酸蒸氣(第三)或ハ熱氣消毒法等ヲ適宜採用スヘシ

第三十八條 患者アリタル西洋形船舶ハ其處置尋常ノ家庭ニ大異ナシト雖モ下等客室ニ至テハ衆多ノ乘客積荷ノ間ニ枕藉シ幾ト彼我ノ別ナキカ故ニ若シ其中ニ發病者アルハ船室ノ乘客積荷手荷物ハ皆病毒ニ浸染シタル者ト看做シ乘客手荷物ハ上陸ノ時充分ニ消毒法ヲ行ヒ積荷ハ其儘其室ニ於テ六時乃至八時間間亞硫酸瓦斯(第九)或ハ品種ニヨリ石炭酸蒸氣(第三)ヲ薰スルノ後ニ非レハ陸揚スルヲ許サス

第三十九條 日本形小船ハ前條ヲ斟酌シテ消毒法ヲ行ヒ海水ヲ以テ船身ヲ洗淨スヘシ

第四十條 避病院或ハ便宜ニヨリ他ノ空屋ヲ借用セシモノハ其病室ニ供セシ部分ニ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰シ後稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十七)ヲ注キ石鹼水ヲ以テ洗淨スヘシ

但消毒ノ後モ數週間其内ニ入ルヘカラス且ツ空氣ヲ流通セシムヘシ

第四十一條 病室ハ不斷換氣法ニ注意スヘシ是亦多少消毒ノ効アルモノトス

第四十二條 臨時假設ノ避病院ニシテ其保存スヘカラサルモノハ流行炮ノ後之ヲ取毀ツヘシ尤モ其前汚穢シタル板敷板壁及ヒ柱等ハ濃厚石炭酸水(第一)又ハ亞硫酸溶液(第十甲)ヲ以テ充分ニ洗淨シ數日間開放シテ大氣ニ曝スヘシ

第五 什具運搬器等消毒法

第四十三條 避病院ニ搬ヘ來リシ手道具玩具等ハ治療若クハ死亡ノ後亞硫酸瓦斯(第九)薰蒸法ヲ行ハサレハ之ヲ出スヘカラス

第四十四條 患者及ヒ死體ヲ運搬セシ器具等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌注シ更ニ石鹼水若クハ沸湯ヲ以テ洗淨スヘシ其貯舟ノ如キハ海水ヲ以テ洗フモ可ナリ

第四十五條 病室ニ用ヒタル什具玩具ハ總テ稀薄石炭酸水(第二)或ハ亞硫酸溶液(第十七)ヲ濯キ然ル後石鹼水又ハ沸湯ニテ洗淨スヘシ其洗フヘカラスモノハ病室ニ消毒法ヲ行フノ際其内ニ排列シ(濕潤ニ堪フヘキモノハ之ヲ濕スヲ良トス)亞硫酸瓦斯(第九)或ハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ一時之間ヲ薰蒸スヘシ

第四十六條 患者ノ玩弄シタル圖書畫報新聞紙ノ類ハ之ヲ縮展シ石炭酸蒸氣(第三)若クハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰蒸スヘシ或ハ熱氣消毒法ヲ行フモ可ナリ

第四十七條 醫術器械及ヒ木製金屬製陶製漆製等ノ諸器ニシテ病毒ニ觸レタルモノハ總テ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗フヘシ

○傳染病豫防心得書附錄種痘施術心得書 明治十八年三月二十四日 內務省甲第九號警視廳府廳へ達



明治十三年九月廿七日第三拾六號傳染病豫防心得書附録トシテ種痘術心得書左ノ通追加候條此旨相違候事

種痘術心得書

種痘術ヲ施ス者ハ種痘ノ適合接種ノ方法痘苗採收及貯蓄ノ法善感不善感ノ鑑別種痘ノ注意等ヲ詳知セサル可カラズ其要左ノ如シ

第一 種痘ノ適否

第一條 種痘ハ左ニ掲クル者ニハ施サヘルヲ可トス

- 一 生後七十日ヲ經サル者
- 二 種痘ノ爲ニ一時増進スヘキ病患アル者
- 三 丹毒流行ノ土地ニ居住スル者
- 四 蔓延性ノ皮膚病アル者
- 五 熱性病ニ罹リ居ル者

第二條 種痘ニ適スル時期ハ春(三月四月五月)秋(九月十月十一月)二季ヲ以テ最良トス然レモ四季共ニ之ヲ施シテ妨

ナシ

第二 接種ノ方法

第三條 種痘ヲ施スハ上膊三稜筋抵ニ於テ各々三針乃至五針體質等ニ隨フトシ各針ノ距離曲尺五分以上ニシテ種痘ノ量

輪互ニ密接セサル様注意スヘシ

第四條 施術ニ先チ針尖ヲ拭淨シ一時ニ數人ニ接種スルハ一人毎ニ之ヲ拭淨スヘシ

第五條 良性ナル痘漿ヲ採リテ移種スルヲ確實ノ良法トスレモ此法ヲ行フニ能ハサルハ貯蓄ノ痘苗ニ成ルヘク新鮮ナル者ヲ撰ヒ用フヘシ但加皮ハ用ヒサルヲ可トス

第三 痘苗採收及貯蓄ノ法

第六條 痘苗ハ左ニ掲クル者ヨリ採收スヘカラス

一 痘疱ノ成形過度及過大ノ者 發覺非常ニ大ナル者 痘緣又ハ最部ニ水泡ヲ生スル者 痘疱非常ニ隆起シテ澄明ノ漿液ヲ漏出スル者 一種ノ疑フヘキ色例ヘハ紅藍色ヲ呈セルカ如キ者

但此等ノ異常痘疱ノ近傍ニ在ル正痘モ亦同シ

二 痘漿ノ血液ヲ混セル者 痘ノ中央ニ在ル痘漿ノ腐敗ニ向ントスル者 痘疱ノ已ニ化膿ニ傾キシ者爬搔又ハ摩擦ノ爲ニ痘疱破潰セシ者

三 梅毒腺病及ヒ皮膚病ニ罹リ居ル者 營養不良ノ者

四 丹毒ヲ併發セル者 經過不整ニシテ善感ノ疑アル者 參觀スヘシ

五 天然痘ヲ經タル者 再三種ノ者

第七條 痘漿ヲ採ルハ通常接種後第八日二十四時間ヲ以テ一ヲ以テ佳トスト唯時候ノ寒暖及各人ノ性質ニ隨ヒ第七日

又ハ第九日ヲ以テ適度トスルヲアリ痘疱ハ善感良性ノ者ニシテ其包含セル所ノ漿液ハ渾濁セス粘稠露滴ノ如クナルヘシ

第八條 痘漿ヲ採ルニハ痘疱ノ中心ヲ避テ痘面ヨリ斜ニ淺刺シ深ク刺シテ出血セシムヘカラス

第九條 發痘一顯ナル者ノ痘疱ハ其漿液ヲ採ルヘカラス又數顯アルモ其一顯ハ傷クヘカラス

第十條 痘苗ヲ貯蓄シテ接種ノ用ニ供セントスルニハ硝子板間ニ貯ヘテ密封シ又ハ硝子製毛細管ニ吸入セシメテ其兩端ヲ固封シ日光及寒熱ノ劇度ヲ避ケ貯フヘシ(痘苗ノ貯蓄法甚宜シキヲ得ルハ五箇月間充分ノ効力アリ)

第四 善感不善感ノ鑑別

第十一條 種痘ノ善感不善感ヲ鑑別スルニハ左ノ各項ヲ以テ要點ト爲ス

- 一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メシヤ否
- 二 痘疱常形ニシテ其大サ及硬サハ皮下皮上共ニ同一ナルヤ否

第八類 衛生

- 三 紅暈ハ常形ナルヤ否
  - 四 經過整然トシテ其時期ヲ誤ラサルヤ否
  - 五 第八日ニ至リテ微熱ヲ發スルヤ或ハ然ラサルモ其他ノ徵候ヲ呈スルヤ否
  - 六 痂皮ハ暗褐色又ハ黒色ニシテ其厚サ及硬サハ常度ナルヤ否
- 第十二條 種痘善感ノ徵候ハ左ノ經過ニ就キテ知ルヘシ  
 接種後第一日第二日ノ間ハ他ノ刺傷ニ異ナルト無シ施術後針痕ノ周圍ニ淡紅色ノ小暈ヲ發スレトモ暫時ニシテ消失ス(或ハ此暈ヲ見サルコトアリ)
- 第三日ニハ針痕ノ部ニ小ナル紅點ヲ生シ試ニ指頭ヲ以テ之ニ觸ルレハ稍々隆起セルヲ覺ユ(經過緩慢ナル者ハ第四日第五日ニ至リ始テ此紅點ヲ生スルコト有リ)
  - 第四日ニハ紅色ニシテ硬ク且ツ隆起セル圓形若クハ橢圓形ノ小結節ヲ生ス
  - 第五日ニハ結節細小ノ水泡ト爲リ其周圍ニ狭キ紅暈ヲ見ル
  - 第六日ニハ水泡稍々増大シ其邊緣隆起シテ泡ノ中央ニハ陷凹ヲ呈シ泡中ニハ稀薄透明ニシテ稍々帶藍色ナル液ヲ充實シ周圍ノ紅暈稍々増大ス
  - 第七日ニハ諸症益々増進ス
  - 第八日ニハ水泡全ク成形ス其大サハ豆大ニシテ周圍ハ微腫シ微シク疼痛アリ泡中ノ液ハ倍々充實シ紅暈亦著シク増大ス此期ニ當リ(或ハ此期以前)微熱ヲ發シ或ハ全ク熱候ナク顔面ハ蒼白色ヲ呈スルコトアリ又腋下ニ疼痛ヲ覺ユ水脈腺腫起スルコト有リ
  - 第九日ニハ紅暈更ニ増大シ其色澤モ亦加ル
  - 第十日ニハ液液化膿シテ白濁或ハ黃色ノ濃稠液ト爲リ泡ノ中央稍々凸隆ス然レモ其形必ス扁圓ナリ
  - 第十二日ニ至ルマテハ水泡其形狀ヲ變スルコト無ク此日ヨリ收斂ヲ始メ泡ノ中央ヨリ邊緣ニ向ヒテ次第ニ乾固シ漸ク

- 褐色ニ變レ周圍ノ紅暈モ亦漸ク消退ス  
 爾後暗褐色又ハ黒色ニシテ堅實ナル厚痂ヲ結ヒ初ハ皮膚ニ緊著シテ容易ニ剝離セズ結痂後八日乃至十日ニ至リ始テ剝脫ス其剝脫ノ後ニ遺セル痂痕ハ圓形又ハ橢圓形ニシテ淺キ凹窩ヲ爲シ其窩内ニハ更ニ數多ノ小凹點ヲ呈ス但一回種痘セシ者ニ再三種シテ感染スルコトアルモ其痂痕小ニシテ七八日間ニ至ク經過スルヲ常トス
- 第十三條 種痘不善感ノ諸徵ハ左ノ如シ
- 一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メ常形ニ違セス直ニ廣ク蔓延セル炎症ヲ發シ皮下ニ硬キヲ覺ヘスノ紅暈ハ不整形ナリ痘泡ハ速ニ化膿シ其隆起ノ狀或ハ半球形或ハ圓錐形ト爲リ乾固スレハ黃色ニシテ鬆疎ナル痂皮ヲ結フ(時トノ第二日後ニ成形ヲ始ムル者レモ其經過總テ不整形ナルヲ以テ自ラ善感ノ者ト區別スルヲ得ヘシ又不善感ノ者ト雖モ腋下ニ疼痛ヲ覺ユ微熱ヲ發スルコト無キニ非ス)
  - 二 接種後第一日ニ大ナル赤白ノ泡ヲ生シ速ニ潰液ヲ充實シ上皮破レテ膿面ヲ呈シ或ハ濕潤セル淡色ノ痂皮ト爲ルヲ見ル
  - 三 紅暈速ニ増大シテ腫起シ或ハ遂ニ潰瘍ニ陥ル
  - 四 第八日ニ至リテ水泡相合シテ一大潰瘍ト爲リ或ハ一面ノ痂皮ヲ結ヒ其潰瘍又ハ痂皮ノ周圍ニハ廣ク赤色ヲ呈ス
  - 五 痂皮剝脫ノ後ニ遺セル痂痕ハ深ク不整形ヲ呈シ其底面平滑ナリ
- 第五 種痘ノ注意
- 第十四條 初種ノ不善感ハ痘苗ノ不真ナルカ或ハ其人一時ノ不感性ヲ有セルニ因ル者ナルカ故更ニ三四週ノ後善感ナル痘苗ヲ撰ヒテ再ヒ接種スヘシ
  - 第十五條 種痘ヲ施スニ當リテハ併發症ヲ防キ殊ニ天然痘流行ノ際ニハ接種後第八日ニ至ルマテハ嚴ニ其感染ヲ防禦スヘシ然レモ受痘者已ニ暗ニ天然痘ニ感染シ其潜伏期ニ於テ接種スルコト間々之アリ
  - 第十六條 天然痘流行シ種痘ヲ猶豫ス可カラサル際ニハ第一條各項ニ掲グル者ト雖熱性病ヲ除クノ外ハ總テ接種スヘシ

第二十三號布  
第八十六號四  
符號二掲ク

第十七條 種痘中ハ寒冷ヲ避ケシメ成ルヘク清潔ノ空氣中ニ居ラシムヘシ平常慣習セル食物等ハ總テ禁忌スルニ及ハ  
ス又別ニ醫藥ヲ要セス

○傳染病豫防心得書ニ據リ調製シタル消毒藥販賣方 明治十八年一月廿八日  
內務省甲第貳號警視廳府縣へ達  
傳染病豫防消毒法之儀ハ追々相違置候處明治十三年當省乙第三拾六號ヲ以テ更ニ豫防心得書相違候ニ付テハ從前之豫防  
法ハ總テ消滅ニ屬シ候條右邊ニ據リ調製シタル消毒藥ハ同年第貳拾三號布告ニ準據シ販賣セシムヘキ儀ト可心得此旨  
相違候事

○消毒檢查方法施設方 明治九年四月五日  
內務省乙第拾五號府縣へ達

傳染病毒ノ最酷厲ナルモノハ梅毒ヨリ甚シキモノ無之其禍源ハ専ラ娼妓賣淫ニ起因スレハ豫防ノ法ハ娼妓徵發檢査ノ  
外無之娼妓賣淫敷差許候場所ハ必檢査方法施設可致處其方法モ無之取締不十分ノ向モ不眇哉之趣右ハ衛生上最緊要之  
事ニ付篤ク注意致シ速ニ方法施設取締行届候條可致此旨相違候事

但從來施行致居未タ不届出分并ニ自今施設候分共方法取締當省へ可申出事

○傳染病豫防救治ニ備使スル醫師以下感染及死亡手當規則 明治十年十二月一日  
第八拾九號府縣へ達

流行病豫防救治ノ爲諸官廳ニ於テ該事ニ服從セシムル屬ノ醫師檢疫委員并ニ地方公立病院醫師其他從事ノ者該病毒ニ  
感染及ヒ死亡候節ハ本年ヨリ左ノ規則ニ照準シ處分可致此旨相違候事

但本文手當金ノ儀省便ハ經費金ノ内府縣ハ豫備金ノ内ヲ以テ繰替仕拂置退テ大藏省へ受取方可申出事

流行病豫防救治ニ備使スル醫師以下感染及死亡手當規則

第一條 凡流行病アル節諸官廳ニ於テ豫防救治ノ方法ヲ施行スル爲メ備使スル醫師檢疫委員 官員ニテ委員トナル者  
人并地方公立病院醫師其他人夫等該病毒ニ感染及ヒ死亡スルモノハ此規則ニ照ラシ手當金ヲ給スヘシ

第二條 手當金ヲ分テ療養埋葬及ヒ遺族扶助ノ三種ニ分テ給スルモノハ此規則ニ照ラシ手當金ヲ給スヘシ

第三條 手當金ノ差等ハ其月給ノ多寡ニ因リテ之ヲ定ム則チ貳百圓以上百五十圓以上百圓以上七拾圓以上五十圓以上  
貳拾圓以上拾圓以上拾圓未満トナシ等級ニ應シテ支給スヘシ

但日給ノ者ハ一ヶ月ヲ平均三十日ト看做シ該日數ニ乘シテ本條月給ノ等差ニ準スヘシ

第四條 療治料ハ自宅ニ於テ治療スルモノニ一日ニ付壹圓ヲ給シ其官公立病院ニ入ルモノハ適宜官費ヲ以テ支給スヘシ

第五條 遺族扶助料ハ戶主ニシテ家族ナキ者及ビ戶主ニアラスシテ妻子ナキ者ハ給セス尤死者戶主ニアラス且妻子女  
キ者ト雖モ其死者ニ依リ活計ヲ營ミ米タル遺族(一戶籍内ニアルモノ)アレハ之ヲ給スヘシ

第六條 埋葬料ヲ給スルニ獨身ニシテ且親戚ナキ者ハ病院或ハ同僚或ハ隔戸長ニ下付スヘシ

第七條 流行病ノ節雇入ルノ醫師ノ月給ハ明治八年第四十九號達ノ通タルヘシト雖モ現ニ拾五圓以上ノ給料ヲ以て使府  
縣公立病院ニ從事スル醫師ヲ臨時該流行病ノ治療ニ任スルモノ并ニ虎列刺病ノ節拾五圓以上ヲ以て雇タル檢疫委員ハ  
此規則ノ表面ニ照シテ給スヘシ

手當表

月給	給等	給等	療治料	埋葬料	扶助料
貳百圓以上	一等	一等	一日ニ付壹圓	五十圓	貳百五十圓
百五十圓以上	二等	二等	同	四十圓	貳百圓
百圓以上	三等	三等	同	三十圓	百五十圓
七拾圓以上	四等	四等	同	三十圓	百貳拾五圓

第八類 衛生

五拾圓以上	五等	同	貳拾五圓	百圓
貳拾圓以上	六等	同	貳拾圓	八拾圓
拾圓以上	七等	同	拾五圓	六拾圓
拾圓未滿	八等	同	拾圓	四拾圓

### 沿革要領

明治三年四月廿四日布告ヲ以テ種痘施行方ヲ府藩廳ニ令ス○四年十月文部省布達ヲ以テ大學東  
 校ニ於テ種痘免狀并痘苗分與手續ヲ定ム○七年十月文部省第貳拾七號布達ヲ以テ種痘規則ヲ定  
 ム○八年四月第四十九號達ヲ以テ惡疫流行ノ節貧困ノ者救助概則ヲ定ム○九年四月內務省甲第八號布達ヲ以  
 テ七年文部省第二十七號布達種痘規則ヲ廢シ更ニ種痘規則ヲ定ム○九年五月內務省甲第十六號布達ヲ以テ天  
 然痘預防規則ヲ定ム○十二年六月第廿三號布告ヲ以テ虎列刺病預防假規則ヲ定ム○同年八月第三十二號布告  
 ヲ以テ前令ヲ更正ス○十三年七月第三十四號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ更ニ傳染病預防規則ヲ定ム○十四年四月第  
 三十號達ヲ以テ八年第四十九號達ヲ廢シ流行病ノ節貧民救濟ニ係ル費用ハ地方稅衛生費ヲ以テ支弁セシム○  
 十六年二月第八號達ヲ以テ前令ヲ改正シ傳染病ニ罹リ身元赤貧ニシテ資力ナキ者ハ發病地ノ地方稅中衛生費ヲ  
 以テ支弁セシム○十八年十一月第三十四號布告ヲ以テ種痘規則ヲ制定シ九年內務省甲第八號及甲第十六號布  
 達ヲ廢ス

### 第五十九

### 虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶檢查規則

明治十五年六月二十三日  
 第三拾壹號布告

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶檢查規則左ノ通制定ス

#### 虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶檢查規則

第一條 凡ソ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶ハ檢疫官ノ檢查ヲ受ケ其記名セル許可ノ證書  
 ヲ得タル後ニ非レハ他港ニ進港シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸並ニ積荷  
 ノ陸揚ヲ爲ス可カラズ

第二條 其船中該病患者又ハ該病死者ナキトキハ檢疫官直チニ其船舶ノ他港ニ進航シ陸地  
 又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸並積荷ノ陸揚ヲ爲スノ許可ヲ與フ可シ

但檢疫官ニ於テ必用ト認ムルトキハ其船舶ヲ四十八時間以内其指定スル場所ニ碇泊セ  
 シメ十分ノ消毒法ヲ施スコトヲ得十八年第廿九號布告以テ但書ヲ追加ス

第三條 若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルトキハ檢疫官其船舶ヲ陸地及ヒ他船ニ傳  
 染ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシム可シ

該病患者ハ之ヲ避病院若クハ其住居若クハ其他檢疫官ノ適當ト認ムル場所ニ送致ス可シ  
 其死者ハ若シ緣故人ノ望アル地方官所定ノ場所ニ火葬シ若クハ十分ノ消毒法ヲ施シタル  
 後之ヲ埋葬スヘシ

前項ノ手續ヲ終リ檢疫官ハ其乗組人船客ニ十分ナル消毒法ヲ施シタル後上陸ノ許可ヲ  
 與ヘ其船舶及傳染ノ虞アリト認ムル積荷ニ十分ナル消毒法ヲ施シタル後其船舶ノ他港  
 ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及積荷ヲ陸揚スルノ許可ヲ與フ可シ

第四條 此規則ニ違背シタル者若クハ此規則ノ執行ヲ妨害シタル者ハ刑法ニ依テ之ヲ處分スヘシ

第五條 此規則施行始終ノ期日並ニ場所ハ其都度内務卿ヨリ之ヲ指定ス可シ  
右奉 勅旨布告候事

○虎列刺病流行ノ際檢疫所設置取計方 明治十三年三月十六日 内務省第七九號(東京警視本署)府縣へ達

○虎列刺病流行ノ際内地ニ於テ海陸ノ檢疫所ヲ設ケ行旅船客ヲ抑留候儀ハ經伺之上可取計儀ト心得此旨相達候事

○虎列刺病流行地方ヨリ古着及襪襪輸送ヲ禁ス 明治十八年九月十四日 内務省甲第三拾壹號警視廳府縣へ達

○虎列刺病流行ノ際ニ於テハ其流行地方ヨリ古着及ヒ襪襪ヲ他ノ健康地ニ輸送スルコトヲ禁止スヘシ此旨相達候事

沿革要領

明治十二年七月第廿八號布告ヲ以テ海陸虎列刺病傳染預防規則ヲ定ム○同年第廿九號布告ヲ以テ前令ヲ更正シ檢疫停船規則ト改稱ス○十五年六月第三十一號布告ヲ以テ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則ヲ制定ス

第六十 人家稠密ノ場所ニ於テ豢養ヲ禁ス 明治六年五月十五日 第百六拾三號布告

方今牛豚類ノ牧畜盛ニ行ハレ候處温暑ノ時ニ方テハ其臭氣人身ノ健康ヲ害スルノミナラス近來獸類ノ傳染病流行往々人生ノ傷害ヲ醸シ候ニ付自今三府市街ノ區内ハ勿論各地一般人家稠密ノ場所ニテ豢養ノ儀堅ク禁止候條右區内ニ於テ從前營業ノ者ハ布令到達ノ日ヨリ三十五日以内ヲ以テ郊外便宜ノ地ニ立退豢養可致事

但東京府下朱引内ハ假令草野空間ノ地下雖ニ豢養不相成候尤乳汁搾取ノタメ豢養候ハ被差許候得共不潔臭穢ノ儀モ有之候ヘハ詮議ノ上可令取拂事

○豢養制限斟酌方 明治七年一月九日 大藏省第三號達  
昨明治六年第百六十三號ヲ以テ公布相成候趣者尋人命保護ノタメ市街等人家稠密ノ地ニテ豢養候ヲ制限候答ニ候條山村僻邑等ハ實地適宜ニ斟酌可致此旨相達候事

第六十一 醫師免許規則 明治十六年十月二十二日 第三拾五號布告

醫師免許規則別冊ノ通製定シ明治十七年一月一日ヨリ施行ス

但明治十五年二月第四號布達同年八月第三拾九號布告ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス  
右奉 勅旨布告候事

(別冊)

醫師免許規則

第一條 醫師ハ醫術開業試驗ヲ受ケ内務卿ヨリ開業免狀ヲ得タル者トス

但此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ證ハ仍ホ其効アリトス

第二條 開業免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツ

ヘシ

第三條 官立及府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願

出ツルトキハ内務卿ハ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第四條 外國ノ大學醫學部若クハ醫學校ニ於テ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ醫術開業免許ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ内務卿ハ其證書ヲ審査シ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第五條 醫師ニ乏キ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ニヨリ内務卿ハ醫術開業試験ヲ經サル者ト雖モ其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第六條 開業免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ムヘシ

第七條 開業免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ醫籍ニ登録シ時々之ヲ公告スヘシ

第八條 開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニ由リ免狀ノ書換ヲ願フ者ハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツヘシ

第九條 開業免狀ノ書換ヲ願フ者ハ免狀下付ノ節手数料金壹圓ヲ納ムヘシ

第十條 醫師廢業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免狀ヲ内務省ニ返納スヘシ

第十一條 醫師其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行為アルトキハ中央衛生會ノ審議ヲ經内務卿ニ於テ其業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

但其事開業免狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖トモ本條ニ準シ處分スルコトアルヘシ

第十二條 前條ニ據リ醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ地方廳ニ於テ直チニ其開業

免狀ヲ取上ケ之ヲ内務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停業シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書シ廳印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ

第十三條 内務卿ハ醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖トモ本人ノ行狀ヲ勘査シ中央衛生會ノ審議ヲ經特ニ其禁止ヲ解クコトアルヘシ

○醫師開業職規則 明治十六年十月二十三日  
第三拾四號布達  
令第三十五號ヲ以テ醫師免許規則布告相成候ニ付醫術開業試驗規則別冊ノ通リ相定メ明治十七年二月一日ヨリ施行ス

但明治十二年二月内務省甲第三號布達ハ同日ヨリ廢止ス  
右布達候申

(別冊)

醫術開業試驗規則

第一條 醫術ヲ開業セントスル者ハ此規則ニ據リ試験ヲ受クヘシ

第二條 内務卿ハ毎年二回醫術開業試験ヲ舉行スヘシ但試験ヲ舉行スヘキ地方及ヒ試験期日ハ六ヶ月前之ヲ内務卿ヨリ告示スヘシ

第三條 内務卿ハ醫術開業試験ヲ舉行スル毎ニ官立及ヒ府縣立醫學校病院ニ從事スル者又ハ地方ニ於テ學術名望アル醫師理化學者等ヲ選ヒ試験委員ヲ命スヘシ

但齒科醫術開業試験ニ於テハ齒科醫者名ヲ試驗委員ニ加フルコトアルヘシ

第四條 内務卿ハ主事者ヲ派遣シ試験一切ノ事ヲ監督整理セシムヘシ

第五條 醫術開業試験ハ之ヲ二期ニ分チ前期試験後期試験トス前後二期ノ試験ヲ同時ニ受クルコトヲ得ス

第八類 衛生

但齒科醫術開業試驗ハ全科一時ニ受クルモノトス  
第六條 試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

前期試驗科目

- 第一 物理學
- 第二 化學
- 第三 解剖學
- 第四 生理學

後期試驗科目

- 第一 外科學
- 第二 內科學
- 第三 藥物學
- 第四 眼科學
- 第五 產科學
- 第六 臨床實驗

第七條 齒科試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 第一 齒科解剖及生理
- 第二 齒科病理及治療
- 第三 齒科用藥品
- 第四 齒科用器械
- 第五 實地試驗

第八條 前期試驗ハ一ヶ年半年以上後期試驗ハ更ニ一ヶ年半年以上修學セシ者ニ非レハ之ヲ受クルコトヲ得ス  
但齒科醫術開業試驗ハ二ヶ年以上修學セシ者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス  
十七年第二號布達

第九條 前期試驗ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ修學ノ履歷書ヲ副ヘ後期試驗ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ履歷書及前期試驗及第ノ證書ヲ副ヘ毎年六月十二日中地方廳ニ差出スヘシ地方廳ハ翌月五日迄ニ其書類ヲ取纏メ內務省ニ進達スルモノトス

但履歷書ニハ其師若クハ他ノ開業醫師二名以上ノ保證アルヲ要ス

第十條 地方廳ニ於テ試驗出願者中醫學ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アリト認ムル者アルトキハ之ヲ內務省ニ具狀ス

ハシ內務省ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經其情狀ニ因リ期限ヲ定メ試驗ヲ許サハルコトアルヘシ

第十一條 試驗問題ハ試驗主事者試驗委員協議ノ上之ヲ撰定シ試驗場ニ臨ミ受験人ヲシテ筆答セシムヘシ  
但時宜ニヨリ口答セシムルコトアルヘシ

第十二條 試驗主事者ハ試驗終ルノ後試驗委員ト與ニ其成績ヲ評定シ及第シタル者ニハ直チニ及第證書ヲ與フヘシ  
但及第證書ニハ試驗主事者試驗委員連署スヘシ

第十三條 試驗ニ落第シタル者ハ半年ヲ終ルニ非レハ再試験ヲ請フコトヲ得ス

第十四條 醫術開業試驗ヲ受クル者ハ試驗開始ノ前日迄ニ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

前期試驗手数料 金三圓

後期試驗手数料 金五圓

齒科試驗手数料 金五圓

第十五條 受験中疾病及ヒ其他ノ事故アリテ試験ヲ中止シ又ハ落第シタル者ト雖モ前條ノ手数料ヲ返付セス

○試驗ヲ要セスシテ醫師ノ免狀ヲ受與スヘキ者格例  
明治十六年十一月十七日  
內務省第七號府縣令

本年第三拾五號布告醫師免許規則第三條ニ據リ試験ヲ要セス免狀ヲ授與スヘキ者ハ東京大學及ヒ左ノ條件ヲ具ヘ當省ノ特許ヲ得タル醫學校ノ卒業證書ヲ有スル者ニ限リ候條右ニ適應スル醫學校有之候向ハ其校則教則及教員履歷書生徒員數其他學校ニ關スル一切ノ書類取纏メ豫メ當省ヘ稟議スヘシ此旨相達候事

但明治十五年大政官第四號布達ニ依リ既ニ特許ヲ得タル向ハ此際更ニ稟議ニ及ハス

一 三名以上ノ醫學士(歐米ノ大學校ニ於テ卒業シタルモノ等)ヲ以テ教諭ニ充ツルモノ

一 生徒ノ員數ニ相當セル助教ヲ置クモノ

一 四年以上ノ學期ヲ定メ教則并ニ試驗法ノ完備スルモノ

一 生徒ノ實地演習ヲ爲スヘキ病院アルモノ

第八類 衛生

一 開械標本ノ具備スルモノ

○醫師開業受験人心得ヲ定ム 明治十六年十二月十日 內務省甲第貳拾六號告示

今般太政官第三拾四號ヲ以テ醫術開業試驗規則布達相成候ニ付右受験人心得左ノ通相定候條此旨告示候事

受験人心得

第一條 醫術開業試驗ハ覺有ヨリ告示シタル試驗舉行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受ケルコトヲ得ヘシ

第二條 醫術開業試驗ヲ受ケント欲スル者ハ本年第三拾四號布達醫術開業試驗規則第九條ニ準據シ其願書ヲ居住ノ地

方處へ差出スヘシ

第三條 前條許可ノ指令ヲ受ケタル者ハ覺有ヨリ告示シタル期限迄ニ試驗舉行ノ地ニ着シ宿所氏名ヲ其地方廳へ届出

ツヘシ

第四條 試驗手数料ハ試驗舉行ノ前日迄ニ醫術開業試驗場へ相納ムヘシ

第五條 試驗場ノ取締上不都合ト認ムヘキ所爲アル者ハ主事者ヨリ退場セシムルコトアルヘシ

第六條 試驗中一科以上欠席スル者ハ其期ノ試験ヲ終フルコトヲ得ス 十七年甲第三十五號 省達ヲ以テ全條改正

願書式

醫術開業試驗願

住所(寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)

族籍

氏名

年月生

私儀何年何月何地ニ於テ醫術開業前期(後期) 齒科ナレハ醫術ノ上齒科ノ二字ヲ加ヘ前期後期ノ四字ヲ除ク 試驗相受度別紙書類相添此段奉願候也

年月日

右 氏名 印

十八年內務省  
甲第廿七號達  
ニ依リ衛生委員  
員ノ項ハ消滅ス

內務卿宛

戶長氏名印  
衛生委員氏名印

○從來開業ノ醫師ハ試験ヲ要セス鑑札等ヲ附與セシム 明治十年八月十六日 內務省第七拾六號府廳へ達

昨明治九年當省第七號ヲ以テ醫師試験ノ儀相達從來開業ノ者ハ試験ヲ要セス地方限リ鑑札等ヲ與ヘ新舊ヲ區分シ以テ醫術改進ノ基礎相立候處維新以來該術ヲ以諸官廳及地方公立病院ニ奉職從事シ主トシ醫術若クハ教授ノ任ニ當リタル者ハ志願ニヨリ試験ヲ不須直ニ免狀可交付候條左ノ箇條ニ照觀シ本人ノ願書及履歷書ニ答應ノ添書ヲ付シ可申出此旨相達候事

但自今官立醫學校ニ於テ卒業證書ヲ得シモノ、外ハ總テ成規ノ試験ヲ遂ケ候儀ト可相心得事

一 內務省警視病院醫員及ヒ舊警視廳醫員

但藥局專任ノモノハ此例ニアラス以下之ニ倣ヘ

一 陸軍省軍醫副及軍醫試補以上

一 海軍省軍醫副以上

一 文部省及舊大學東校少得業生及ヒ醫學教官下醫當直醫以上並同省直轄諸學校醫員 皇領醫道掛種痘 簡掛ハ之ヲ除ク

一 司法省及舊矯正醫員

一 宮内省六等侍醫以上及舊少典醫舊補少侍醫以上

一 關拓使病院醫員

一 府縣病院及地方公立病院當直醫以上

○從前府縣廳ニ於テ下付シタル醫術開業ノ證ヲ所持スル者ハ更ニ免狀ヲ授與ス 明治十七年 一月二十一日 內務省第七拾四號府廳へ達

日

第八類 衛生



從前府縣廳ニ於テ下付シタル醫術開業許可ノ證ヲ所持スル者ハ令般更ニ當省ニ於テ免狀授與可致候條此旨相違候事

○入齒齒抜口中療治接骨等營業ノ者開業及鑑札渡方 明治十八年三月二十三日 內務省甲第七號府縣へ達

入齒齒抜口中療治接骨等營業者ハ明治十六年十月第三拾四號布達ニ據リ醫術開業試驗ヲ經ルニ非サレハ新規開業不相成候條從來之營業者ハ此際各地方廳ニ於テ鑑札ヲ付與シ相當之取締法相立可申此旨相違候事

但既ニ取締法相設居候向ハ更ニ本分ノ手續ヲ爲スニ及ハス

○鍼灸術營業者取締方 明治十八年三月二十五日 內務省甲第七號府縣へ達

鍼灸術營業者之儀ハ從來開業之者并ニ新規開業セントスル者ハ自今出願セシメ其修業履歴ヲ檢シ相當ト認ムルトキハ差許不苦其取締方之儀ハ便宜相設可申此旨相違候事

但既ニ營業差許タルモノハ更ニ出願セシムルニ及ハス

○醫師患者死亡届 明治九年二月五日 內務省第七拾三號各縣へ達

管内醫師施治ノ患者死亡スル時ハ左ノ書式ニ準シ遺漏ナク區戶長ヲ經テ管廳へ爲届出半ケ年宛取纏メ八月ヲ限リ當省へ可差出此旨相違候事 十六年七月廿八號ヲ以テ屆書ハ當省へ差出スニ不及旨ヲ達ス又戶長ノ下(若クハ醫務取締)トアレハ(醫務取締)ハ十二年七月廿六號省達ニ依リ消滅ニ付除去ス 死亡届料紙半紙ニツ折

十六年七月廿八號省達ヲ以テ死亡届ハ當省へ差出スニ不及旨ヲ示ス

病名 年號月日死

何府何國何郡何村(九年七月百三十九) 何某父母兄弟妻子 何某何職 姓 名 年餘

右ハ私施治ノ患者ニ候處死去候間此段御届申上候也 年號月日

何府何大區何小區何町番地 醫師 姓 名 印

何縣令 何某殿

本年二月十三號達(三府へ)同月八日相違候(死亡届ノ儀往々書式ニ照準セス職業ヲ記載セサル書面有之元來死亡届ハ土地下職業ニ原ツケル疾病ニ異同多少アルヲ查出シ豫防法講究ノ用ニ供候條向後例へハ大工ハ大工鍛冶ハ鍛冶其他總テ本人ノ職業ヲ記載スヘク此旨更ニ相違候事 九年十月廿七日 內務省第七百貳拾四號府縣へ達

但シ例へハ大工ノ家族モ他業ヲ營業者ハ本人ノ職業ヲ記載シ若シ本人無業ナレハ無業ト記シ候儀ト可相心得事

○患者死亡届差出順序 明治九年四月一日 內務省第七拾四號各縣へ達

當省本年七月十三號ヲ以テ患者死亡届ノ儀相違候處右屆書差出方順序醫師ヨリ直チニ差出候テハ數醫ノ施療ヲ受ケケル患者死亡ノ節醫師各自届出重複シ或ハ互ニ職ヲ合等閑相成候儀モ可生ニ付主任ノ醫師ハ必ス屆書ヲ死者ノ家人ニ付與ヘスク家人ハ必ス之レヲ請求シテ該病家ヨリ區戶長ニ爲届出候條可取計此旨更ニ相違候事 同上戶長ノ下(或ハ醫務取締)ノ五字ヲ除ク

●同指令

●醫師開業規則ノ儀ニ付三重縣ヨリ內務省へ電報伺 十六年十月廿九日

第三十五號布告醫師規則第一條但書開業ノ証トハ縣限リ與ヘタル鑑札モ此内ニ含當スル義カ

指令 伺之通 十六年十一月二日

●本年第三拾五號布告(醫師免許規則)ノ儀ニ付廣島縣ヨリ內務省へ伺 十六年十一月二日

本年第三拾五號布告醫師免許規則第三條ハ同第三拾四號公達醫術開業試驗規則第六條ノ科目ヲ教授セル縣立醫學校ノ卒業証書ヲ得タル者ハ試験ヲ要セス免狀下付ノ旨趣ナル哉

指令 十六年十一月十三日

醫師免許規則第三條ニ於テ試験ヲ要セス免狀授與ノ條讀ニ及フヘキ者ハ特ニ當省ノ許可ヲ得タル學校ノ卒業生ニ限ルヘシ

●内務卿ヨリ醫術開業試験規則第八條ノ件ニ付參事院議長へ質義并回答 十六年十一月一日  
 醫術開業試験規則第八條ニ於テ前期試験ハ一ケ年半後期試験ハ更ニ一ケ年半以上修學セシモノニアラサレハ云々ト有之右更ニ一ケ年半トハ前期試験ヲ受ケタルヨリ計算スル儀ニ無之前修學ノ一ケ年半ヨリ又更ニ一ケ年半修學スルコトニシテ即チ就學ヨリ通算シテ三年ヲ經シ以上ハ試験差許可申義ト相心得候へ共爲念此段及御質義候也  
 右回答 十六年十一月八日

●醫術開業試験規則之儀ニ付埼玉縣ヨリ内務省へ伺 十六年十月三十一日  
 本月一日付曾問醫術開業試験規則第八條ノ件ハ見解ノ通右及回答候也

●醫術開業試験規則之儀ニ付山梨縣ヨリ内務省へ伺 十六年十一月二日  
 本年十月第三拾四號布達醫術開業試験規則第六條ニ於テ試験科目前後二期ニ區別有之其科目中眼科産科等モ刻記有之儀ニ付後來眼科産科等特ニ其一科之試験ヲ以テ専門開業許可之儀ハ御開屆難相成儀トハ存候得共同則第七條ニ於テ齒科醫ノミ獨専門開業許可相成候様相見聊疑團相生シ候ニ付相伺候也  
 指令 十六年十一月十九日

●醫師免許規則中ノ儀ニ付山梨縣ヨリ内務省へ伺 十六年十一月二日  
 同之趣齒科醫術ニ限リ専門開業差許候儀ト可心得申

●醫師免許規則第一條但書ニ此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ証ハ仍ホ其効アリトスト有之右ハ從前御省ノ試驗ヲ經成ハ試驗ヲ須ヒス免狀御下付ノ者ハ勿論明治九年御省乙第五號御達ニ依リ照限免許致シ候從來開業ノ醫師ヲモ總テ包括シタル儀ト相心得可然哉  
 前項ノ如ク從前照限ノ免許候モノモ仍ホ其効アリトスルハ若此等ノ者其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルハ規則第十一條ノ旨ニ準シ照令ニ於テ適宜處分致シ可然哉  
 指令 十六年十一月廿一日

第一項 伺之通

●醫術試験規則ニ付愛知縣ヨリ内務省へ伺 十六年十一月十五日  
 本年大政官第三拾四號布達ニ依リ醫術試験ヲ願出ル者ノ年齢ニ制限ハ無之候哉  
 指令 十六年十一月廿八日

●醫師免許規則及醫術開業試験規則中疑義ノ廉島根縣伺 十六年十一月六日  
 本年第三拾五號布告醫師免許規則及本年第三拾四號布達醫術開業試験規則中左ノ項目疑義ニ涉リ決疑候間至急何分御指令相成度此段相伺候也

●醫師免許規則ノ部  
 一第一條但書ニ此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ証ハ仍ホ其効アリトスト有之候處右ハ本縣限リ履歷ニ依リ許可セシ開業免許証モ含當スル儀ト心得可然哉又ハ御省ヨリ交付相成免許証而已ニ止ル儀ニ候哉  
 一第三條中官立及府縣立醫學校トハ客年文部省第四號達醫學校通知甲乙兩種ノ醫學校ヲ指稱スル儀ニ候哉

●醫術開業試験規則ノ部  
 一第八條ノ場合ニ於テ三ケ年以上醫學ヲ修メ居モノ前期試験ヲ及第シ更ニ後期試験ヲ受ケ度モノハ則チ三ケ年以上修學セシ故ヲ以テ更ニ一ケ年半ヲ經過セサルモ出願可然哉又ハ前期試験及第ノ上一ケ年半修學スルモノニ非レハ不相成儀ニ候哉  
 一内外産眼科等其機科専門開業願出度モノアルモ爾後一切不相成儀ト心得ヘクヤ  
 一第四條主事者ヲ派遣シ試験一切ノ事ヲ監督整理セシムヘシト有之候處右試験場ニ係ル費用ハ別ニ御省ヨリ御支辨相成候儀ニ候哉

指令 十六年十一月三十日

第一項 前段何之通

第二項 本年當省し第四十六號達ノ通心得ヘシ

第三項 前段何之通

第四項五項 何之通

●醫師免許規則之儀ニ付長崎縣ヨリ内務省ヘ伺 十六年十一月七日

第壹條今般第三拾五號布告醫師免許規則第三條第四條ニ該ルモノハ出願ニハ別途修學履歷書ハ要セサル儀ニ可有之哉

第二條同上第五條ニヨリ假開業免狀ヲ得タル者他縣或ハ管内ト雖モ他郡區ヘ轉籍寄留之場合ハ免狀返納セシムヘキ儀ニ可有之哉

但當縣管内ニシテ轉任ノ場所醫師ニ乏シキ地方ナレハ本文ノ限リニ無之儀ト心得可然哉

第三條假開業免狀御授與之者ヨリハ規則第六條及ヒ第九條ノ手数料ハ上納ニ不及儀ニ候哉

第四條規則第十壹條ニ該ルモノアルキハ客年月坤衝第五九五號御訓示之通り相心得可然哉  
右相伺候也

指令 十六年十二月三日

第壹條第四條何之通

第二條免許區域外ニ轉居スルモノハ何之通

但書ノ儀ハ其都度具申スヘシ

第三條手数料上納セシムヘシ

●醫術試驗規則之儀ニ付東京府ヨリ内務省ヘ伺 十六年十二月十七日

本年大政官第三十四號布達醫術開業試驗規則第九條ニ據レハ後期試驗ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ履歷書及前期試

驗及第ノ證書ヲ副ヘ云々ト有之候處改正前ノ試驗規則ニ據リ内科外科眼科產科等各専門ヲ試驗及第シ既ニ右ノ免許狀ヲ所持シ後期試驗志願ノ者ハ再ヒ前期試驗ヲ要セス直チニ後期試驗御許可相成候事トハ存候得共爲念此段相伺候也

指令 同之通 十六年十二月廿四日

●醫師開業免許規則之儀ニ付秋田縣ヨリ内務省ヘ伺 十六年十一月廿七日

今般大政官第三十五號ヲ以テ醫師開業免許規則公布相成候ニ付左ノ件々相伺候

第一條 規則第一條但書此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ証ハ仍ホ其効アリトスト有之然ルニ從來開業醫ニシテ是マテ廢業シ儀札付與セサルモノ更ニ復業願出其証確實ナルモノハ令后ト雖モ本縣限リ開業差許不苦儀ト心得可然哉

第二條 規則第五條醫師ニ乏シキ地云々ハ一府縣管内ヲ指示セラレ候儀ニ可有之哉或ハ一管内例之ハ甲地方ニ醫師アルモシ地方ハ山間遠隔ニ僻在シ醫師ニ乏シク患者醫療ヲ得ルニ苦ム等ノ實況アルモノハ是又本條ニ據リ具狀スルヲ得ル儀ト心得可然哉

第三條 死亡又ハ廢業者開業免狀ノ儀昨十五年三月廿五日同全四月廿六日御指令ニ依リ該免狀ハ本廳ヘ返納セシメ候上裏面ヘ死亡或ハ廢業ノ旨ヲ明記シ廳印ヲ捺シ下付致置候處規則第十條ノ趣モ有之候得共當縣地ノ如キハ幾ニ具狀ノ通り醫師缺乏事ヲ其子弟ヲ勸勵スルノ一端正相成候儀ニ付自今ト雖モ前御指令ニ據リ取計度候條如何相心得可然哉

第四條 規則第十二條醫業停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月間停止シタル旨ヲ開業免狀ニ取書云々ト有之右ハ左ノ書式ヲ以テ取書取計可然哉

(免狀取書樣式略之)

指令 十七年二月廿五日

第一條 十六年第三十四號布達ニ依リ更ニ試験ヲ受シムヘシ

第二條 後段之場合ニ限ルヘシ

第三條 難閉届

第四條 伺之通

●醫師免許規則之儀ニ付群馬縣ヨリ内務省ヘ伺 十六年十二月十八日

第一條 今般第三十五號布告醫師免許規則中第五條ニ依リ醫術開業免狀ヲ得シ者アリシ地方ヘ他ヨリ醫師轉任ス  
ト雖モ三四名ノ多キニ達セサル以上ハ縱令同村内タリトモ假免狀所有ノ醫師其儘開業罷在不善儀ニ候哉

第二條 管内醫師ニ乏シキ地方區域制限ハ豫テ本縣限相定メ置別段御省ヘ伺又ハ御届ニハ不及儀ニ候哉

指令 十七年二月廿六日

第一條第二條トモ其都度伺出ツヘシ

●醫師免許規則之儀ニ付佐賀縣ヨリ内務省ヘ伺 十六年十二月十一日

第三拾四號布告醫師免許規則中疑團之廉々左ニ相伺候也

第一條 規則第五條ニ醫師ニ乏シキ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ニ依リ醫術開業試驗ヲ經サル者ト雖モ其履歷ニヨ  
リ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシト有之其履歷トハ三ヶ年以上醫學ヲ修業シタル實蹟ヲ有シ其師若クハ他ノ開  
業醫師ニ從米開業醫師モ準之

第二條 規則第八條ニ開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニ由リ免狀ノ書留ヲ願フモノ云々トアリ該免狀ハ  
本籍縣内ニ限リ他縣轉籍等ノ者ハ必ス書留ヲ要セシムヘク儀ニ有之候哉

第三條 規則第六條第九條ノ手数料ハ其時々或ハ一ヶ月取廻メ御省ヘ送納スヘキ哉

指令 十七年三月廿五日

第一條 修學年限及保證ノ制限ナシ

第二條 他府縣轉籍者ハ書換セシムヘシ

第三條 本年當省ニ第十七號達ノ通心得ヘシ

●藥舖醫師兼業之儀ニ付福井縣ヨリ内務省ヘ伺 十六年五月十一日

台テ御省免狀所持又ハ限限許可シタル藥舖ニシテ醫學修業ノ上成規ニ據リ醫術開業出願候節試験問題請求候ハ、  
御交付可相成ハ勿論ト信認仕候而シテ試験成績合格者ヘ開業免狀交付セラレシ上ハ右醫師從前藥舖業相兼業スルモ  
固ヨリ醫師試験規則其他ニ嫌忌之明文無之限リハ別ニ妨ケ無之儀ト相心得可然哉

指令 伺之通 十七年四月十一日

●醫師兼業之儀ニ付埼玉縣ヨリ内務省ヘ伺 十七年四月十九日

醫師ニシテ藥舖兼業不相成儀ハ各縣伺御指令等ニモ相見候就テハ藥種商ト雖モ同様兼業不相成儀ニ候哉

指令 十七年四月三十日

伺之趣藥種商兼業不善義ト可心得申

●醫術開業免狀授與之儀ニ付宮城縣ヨリ内務省ヘ伺 十六年十二月二十四日

御省ニ第四拾七號ヲ以テ明治十年御省ニ第七拾六號達以後奉職ノ者ト雖モ該達ニ比準スヘキモノハ志願ニ依リ直ニ  
醫術開業免狀御授與可相成旨御達相成候付テハ縣立避病院醫當醫員ノ如キハ勿論該達ニ比準スルヲ得ヘキ儀ト存候

處縣立病院附屬驅梅院醫當醫員及郡區醫員ノ如キモ縣令ノ命スル處ニシテ地方稅賦金等ヨリ俸給々與致置候儀ニモ  
有之且地方衛生會員中醫業ヲ以テ撰拔セラレタルモノハ俸給ハ給與不致ト雖モ同様縣令ヨリ命シ置候ニ就テハ是亦  
ク該達ニ比準スルヲ得候儀ト相心得可然哉

指令 十七年五月二十日

醫術開業免狀授與ノ儀伺書ニ掲載スル種類ノモノハ總テ許可ノ限リニアラス

●秋田縣ヨリ醫術開業後期試驗願ノ儀ニ付内務省衛生局ヘ照會 十七年六月廿六日

醫術開業後期試驗出願ノ者ハ前期試驗及第ノ證書ヲ相添願出ヘキ成規ニ候處右ハ一身ノ榮譽ヲ證スルモノニシテ長ク保存致度旨願出之者有之事情尤モノ次第ニ候條本證書ハ當廳ニ於テ調査ノ上其寫ヲ以進達致不苦儀ニ可有之哉

回答 十七年七月五日

本月廿六日附醫術開業後期試驗出願ノ節前期試驗及第ノ證書寫ヲ添ヘ差出スモ苦シカラス 十八年三月二十八日

●入齒々抜口中療治接骨等營業者取締御達中疑義ノ麻宮城縣ヨリ內務省ヘ伺

第一條 入齒々抜口中療治接骨等營業者トアルハ右四業ノ外ニ鍼灸按摩等ノ者ヲモ含蓋セラルハヤ

第二條 從來口科又ハ整骨科ノ者明治十六年十二月御省シ第五十號御達ニ據リ醫籍編入進達ノ上御省ヨリ免狀下附

ノ者ヲ除キ其他右ノ如キ營業ヲ爲ス者ノ取締相立候儀卜心得可然哉

第三條 營業鑑札ハ廳費ヨリ支辨スヘキ又ハ地方稅ヨリ支辨スヘキモノナルヤ

第四條 從來ノ營業者ハ此際各地方廳ニ於テ鑑札ヲ附與シ云々トアレハ從來ノ營業者出願期限ハ地方廳ニ於テ適宜

相定可然哉

指令 十八年四月二十日

第一條 鍼灸按摩ハ含蓋セズ

但鍼灸ハ明治十八年當省甲第十號達ノ通可心得按摩ハ其廳ノ見込ニ任セ適宜取締相設候儀ハ苦シカラス

第二條 後段同ノ通

第三條 後段同ノ通

●沿革要領

明治四年十月文部省布達ヲ以テ大學東校ニ種痘局ヲ設ケ種痘醫ニ免狀ヲ與ヘ並痘苗分與方ヲ定ム○五年九月文部省第廿九號達ヲ以テ東校ノ免狀ヲ得タル種痘醫ヨリ投術セラレタル者ハ其

管轄廳限リ投術ヲ免狀セシム○七年十月文部省第廿七號布達ヲ以テ種痘規則ヲ定メ施行免狀ヲ附與ス○九年一月內務省第七五號達ヲ以テ醫師試驗法ヲ定メ新ニ開業スル者ハ府縣ニ於テ試驗ノ上免狀ヲ授與セシム○同

年四月內務省甲第八號布達ヲ以テ文部省制定ノ種痘規則ヲ廢シ更ニ種痘規則ヲ定ム○十年八月內務省第七十六號達ヲ以テ維新以來官廳及地方公立病院ニ醫術ヲ以テ奉附從事セシ者ハ試驗ヲ須ス免狀ヲ渡サシム○十二年二月內務省甲第三號布達ヲ以テ九年第七五號達中醫師試驗科目等ノ規則ヲ定メ該規則ニ抵觸セル指令等ヲ廢止ス○十五年二月第四號布達ヲ以テ自今文部省ノ認可ヲ得タル醫學校卒業生ハ試驗ヲ要セス開業免狀ヲ下付ス○同年三月內務省第七十四號達ヲ以テ從來開業醫ノ子第ニシテ助手ト成リ醫業ヲ以テ家名相續ノ者ニ限リ試驗ヲ要セス開業許可ノ證ヲ付與スルヲ許ス○同年四月內務省第七十六號達ヲ以テ前令開業醫ノ子第ニ開業許可ノ證ヲ付與スルハ本年八月申限トシ右期限後ハ一切之ヲ許サス○同年八月第三十九號布達ヲ以テ醫師醫業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ其業ヲ停止シ又ハ之ヲ禁ス○十六年十月第三十五號布達ヲ以テ醫師免狀規則ヲ制定シ十五年第四號布達同年第三十九號布達ヲ廢ス○同月第三十四號布達ヲ以テ醫師開業試驗規則ヲ定メ十二年內務省甲第三號布達ヲ廢ス

第六十二 賣藥規則 明治十年一月二十日

第七號布告

別冊

賣藥規則

第一章

第一條 此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥浴劑散藥煎藥等ヲ調製シ效能書ヲ附シ販賣スルモノヲ云フ十年第八十九號布告ヲ以テ全條改正

第八類 衛生

十五年第五拾  
賣藥布告ヲ以  
テ賣藥印紙稅  
則ヲ定ム(第  
九十二)

第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量功能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ十一年第二十七號布告ヲ以テ(管轄廳)ノ下ハ字ヲ削ル

但免許ヲ受ケタル者ニケ所以上ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ十五年第五十二號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス

第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラヌ取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サ、ルヘシ十一年第二十七號布告ヲ以テ(內務省)ヲ(管轄廳)ト改メ(毒藥)ノ下(劇藥)ノ二字ヲ加フ

第四條 第八條ニ記シタル期限中藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スル者其由ヲ届出査鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持ノ免許鑑札寫及ヒ營業者ト取結ヒタル約定書トヲ添ヘ其管轄廳ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ十年第八十九號布告ヲ以テ全條改正シ十一年第廿七號布告ヲ以テ鑑札ヲ受クヘシノ下十三字ヲ削リ(ク)ノ一字ヲ加フ

第六條 賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲クヘシ

第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント欲スルハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持スヘシ

第八條 營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此期限ヲ過キ尙免許ヲ得ント欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第九條 第八條ニ記シタル期限中第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スル時ハ新鑑札記載ノ月ヲ以テ二期ノ初月トナスヘシ

第十條 免許期限内ト雖ヒ其製藥第二條ニ掲クル處ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗惡ニスル等ノコアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコアルヘシ十一年第二十七號布告ヲ以テ(有害)ヲ改メ(有毒)ニ改ム

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラレ、時ハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス

第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳ヘ届出再ヒ之ヲ願受クヘシ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ雙方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ

第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣者免許期限内其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳ヘ鑑札名前書換ヲ請フヘシ十年第八十九號布告ヲ以テ全條改正

第十五條 賣藥營業者廢業シ若シクハ禁止セラレタルハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸鑑札ヲ返納スヘシ

第二章

第十六條 賣藥營業者ハ左ノ通税金並鑑札料ヲ上納スヘシ十四年第廿六號布告ヲ以テ(賣藥)ノ下(及ヒ請賣者)ノ五字ヲ削リ(右鑑札料)ノ次(賣藥請賣鑑札料)及ヒ(賣藥行商鑑札料)ノ二項ヲ削ル

賣藥營業稅

藥劑一方ニ付一ヶ年

金貳圓

右鑑札料

藥劑一方ニ付一枚

金二十錢

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ税金并鑑札料ヲ納ムヘシ  
十五年第五十二號布告  
ヲ以テ但書ヲ追加ス

第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ

第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ七月三十一日限り後半年分ハ翌年一月三十一日限り鑑札料ハ其都度並ニ管轄廳ニ上納スヘシ

第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分ヲ納ムヘシ

但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限り月割ヲ以テ税金ヲ納メシムヘシ  
第十一年  
七號布告ヲ以テ(有  
毒)ヲ(有害)ニ改ム

第二章

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過キタル鑑札ヲ以テ請賣スル者及ヒ無鑑札

十年第十六號  
ヲ以テ第三章  
罰則ハ來ルル  
月一日ヨリ施  
行ノ旨ヲ布告  
ス

ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付十圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十二條 免許ヲ受ケシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ術惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付十圓以上二十五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付二十五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ  
十四年第十六號布告ヲ以テ(營業者)ノ下三十八字ヲ追加ス

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ偽造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付五十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其罰金ノ半高ヲ與フヘシ

○賣藥取扱手續

明治十年三月十二日  
內務省第三拾貳號府縣へ達  
本年一月大政官第七號賣藥規則公布相成候ニ付テハ左ノ手續書及書式雛形ニ照準取扱可申此旨相違候事  
一一昨明治八年七月以降當省ニ於テ下附賣藥鑑札ハ追テ相違候迄免許發賣共當分書替爲願出ニ不及規則公布後相渡候鑑札同様相心得ヘシ

第八類 衛生

十四年內  
十五號通  
テ請賣行  
鑑札料及  
製札費ノ  
別除ス

一前條ノ鑑札所持ノモノ營業免許年季ハ其鑑札ニ記載ノ月ヨリ起算スヘシ尤税金ノ儀ハ本年分ヨリ徴收スヘキニ付昨九年マテノ分ハ納メシムルニ及バズ

但鑑札料ハ總テ上納爲定期納附ノ節勘定帳ニ其區分ヲナスヘシ

一營業鑑札請賣鑑札ハ所持人ノ居家ニ限リ營業ノ權アルモノニ付別戶支店等ニ於テハ別ニ其居住人ニ於テ鑑札ヲ所持スルニ非サレハ營業スルヲ得ヘカラス

十年内務大藏兩省ノ第六十五號達ヲ以テ本項ヲ追加ス

一前條營業鑑札所持ノ營業ヲ請賣又ハ行商營業シ居候分來ル四月三十日マテニ悉皆爲顯出鑑札交付取計フヘシヲ以テ次項ヲ改正ス但既往ニ屬スルヲ以テ除之

一賣藥營業者並ニ請賣者免許看板ハ左式ノ通製セシムヘシ

許免	賣藥營業	出	許免	賣藥請賣業
許免	賣藥營業	出	許免	賣藥請賣業

一税金并ニ諸鑑札料納附ノ節ハ上納証ヲ添ユルノミニ勘定帳ハ一ヶ年取京子毎年八月三十一日限リ該地差立大藏省租稅局ヘ進達スヘシ

但シ會計年度ノ都合モ有之本年一月ヨリ六月マテノ分ハ別牒ニ製シ八月三十一日限リ該地差立同局ヘ進達スヘシ

同上達ヲ以テ全項ヲ改正ス

一行商鑑札ハ各管廳ニ於テ離形ノ通之ヲ製シ願人ニ下附スヘシ尤行商スル藥劑ハ其方名ヲ一々鑑札ニ記載スヘシ

但一人ニシテ數人ノ藥劑ヲ行商スル時ハ方數ニ拘ハラズ營業者異ナル毎ニ鑑札ヲ別製シテ之ヲ渡スヘシ

一行商鑑札ヲ下附シタル分ハ其都度明細簿ニ登記シ翌キ毎半年分宛別ニ一本ヲ調製シ一月七月ノ兩度内務省ニ開申スヘシ

十四年ノ第七十五號省令

一賣藥營業稅並諸鑑札料上納勘定帳離形十年内務大藏兩省ノ第六十五號達ヲ以テ全項改正

一賣藥營業稅並諸鑑札料上納勘定帳離形十年内務大藏兩省ノ第六十五號達ヲ以テ全項改正

明治何年七月ヨリ同何年六月マテ賣藥營業稅並諸鑑札料上納勘定帳

賣藥營業願書式

明治八年當省ノ第九十八號達離形ニ照準スヘシ

(離形并書式畧ス)

本年九月大政官第二十七號ヲ以テ賣藥規則改正公布相成候ニ付テハ左之手續并離形ニ照準シ取扱可申此旨相達候事

十一月八日

内務省ノ第七拾號府縣ヘ達

賣藥取扱手續

- 一鑑札料紙ハ別紙離形ノ通相製シ當省ヨリ相渡スヘシ
  - 一右料紙ハ凡積ヲ以テ毎半年期分宛一月七月兩度ニ受取方當省ヘ申立ヘシ
  - 一管廳ニ於テ鑑札ニ記スヘキ方名姓名番號等離形ノ通記入押印之上下渡スヘシ
  - 一家畜牛馬等ニ用ユル賣藥鑑札ハ赤輪廓之分ヲ用ユヘシ
  - 一免許期限内ニ於テ鑑札書換ヲ要スル分ハ其事由并ニ書換タル年月日ヲ鑑札裏面ニ記入下附スヘシ
  - 一賣藥營業鑑札是迄當省ヘ返納致來候處自今其送ニ及ハス管廳ニ於テ消却スヘシ
- 十四年ノ第七十三號省達
- (鑑札離形略之)

賣藥請賣鑑札並行商鑑札製作費支辨方

明治十四年四月二十六日

第三拾貳號府縣ヘ達

賣藥請賣鑑札並行商鑑札製作費ノ儀ハ自今明治十三年四月第十六號布告第三條第七項ノ内ヲ以テ支辨スヘシ此旨相達候事

賣藥手續中請賣鑑札及行商鑑札並行商鑑札製作費ノ一項ヲ削除シ更ニ取扱方ヲ示ス

明治十四年四月三十日

内務省ノ第七拾五號府縣ヘ達

本年四月大政官第三十二號公達相成候ニ付テハ明治十年三月當省ノ第三十二號達賣藥取扱手續中請賣鑑札料及行商鑑札料ノ廉並行商鑑札製作費云々ノ一項削除候條更ニ左ノ條項ニ照準シ取扱可申此旨相達候事



一 販賣請書及ヒ行商ニ地方税ヲ賦課スルルハ本年府縣會於テ其税額ヲ議定シ十四年度ヨリ徴收スヘシ  
 一 請書鑑札料紙ハ自今大藏省ヨリ配賦不致候條各管轄廳ニ於テ從前體形ノ通製造スヘシ  
 但大藏省ヨリ下附セシ鑑札所持ノ者ハ別段引替ニ不及且ツ本年分豫算ヲ以テ受取候料紙未用ノ分ハ同省へ返納ス  
 一 請書者ニテ其賣藥ヲ調製候儀ハ無之筈ニハ候得共或ハ營業者ノ藥方分並ヲ傳ハリ調製候向モ有之候ハ、改正規則第  
 二十三條ノ罰則ニ相當ルヘキモノニ付速ニ調製相止メ更ニ賣藥營業爲願出候條取計フヘシ

● 同指令

● 賣藥營業鑑札裏面へ滿期年月記載之儀ニ付岐阜縣ヨリ内務省へ伺 十六年五月廿五日  
 賣藥營業鑑札滿期之儀ニ付テハ兼テ取締法モ相設且其期ニ際シ夫々注意方相違候得共取締上不都合之儀有之候而已  
 ナラス夫是手取ヲ要シ候次第ニ付自今鑑札裏面へ滿期年月記載候モ不苦候哉右ハ十四年十一月大坂府へ御指令之趣  
 モ有之候儀ニ付至急何分之御指揮有之度候也

指令 同之通 十六年七月十日

● 賣藥營業請書者ノ儀ニ付島根縣ヨリ内務省へ伺 十六年五月十二日  
 賣藥營業者カ免許期限ヲ過キタルトキ請書者ハ期限内ト雖モ營業者カセキ續ヲ免許ノ報ヲ得サル内ハ該藥品ハ販賣  
 不相成哉且ツ之ヲ販賣スルモ罰令ニ正條ナキ以上ハ其筋へ告發スルニ及ハスヤ

指令 十六年八月三日

● 賣藥請書者處分ノ儀ハ前段伺ノ通後段ノ取締ハ前段ニ據リ了知スヘシ  
 ● 期限過キタル鑑札ヲ以テ賣藥營業ノ者處分方ノ儀ニ付新潟縣ヨリ内務省へ伺 十六年五月十日

賣藥請書行商ノ者期限過キタル鑑札ヲ以テ營業ヲ爲シタル者ハ賣藥規則第二十條第二十一條ニ於テ其罰例ヲ明記有  
 之候へ共營業者ニシテ同上ノ場合ニ於テハ準據スヘキ明文無之儀是ノ輕重不據衡ヲ免レサル様被者候條第二十三條  
 無鑑札營業スル者トナシ可及告發候儀ト相心得可然哉此段相伺候也

指令 同之通 十六年八月三日  
 ● 異邦ノ賣藥請書ノ儀ニ付山口縣ヨリ内務省へ伺 十六年六月十八日  
 爰ニ支那人ノ製藥ニ係ル俗ニ唐人賣藥ト稱スル賣藥ヲ請書發度願出候モノ有之右等モ都テ賣藥規則ニ據リ差許可然  
 哉相伺候也

指令 十六年八月八日  
 書面伺之趣外國ノ賣藥ヲ請書スルモノハ營業者ト看做シ更ニ検査ノ上營業鑑札下附スヘキ儀ト可心得申  
 ● 丸散藥等ノ藥劑ニ効能書ヲ付セス販賣ノ儀ニ付山梨縣ヨリ内務省へ伺 十六年六月四日  
 丸散散藥等ノ藥劑ニ効能書ヲ附セス單ニ方名及用法代價ノミヲ附記シテ販賣スルモノ有之右ハ効能書ヲ附セサル以  
 上ハ賣藥規則外ノ者ト見做サ、ルヲ得サル儀ニ可有之哉

指令 十六年八月十四日  
 書面伺之趣治病ノ目的ヲ以テ販賣スルモノハ總テ賣藥規則ニ準據セシムヘキ儀ト可心得申  
 ● 施藥ノ儀ニ付岡山縣ヨリ内務省へ伺 十六年六月廿七日  
 賣藥規則ニ準シ方名製法用法功能等ヲ詳記シ而シテ無代價施與發度旨出願候者へハ鑑札附與徵稅方等一般賣藥同様  
 取扱可然乎將夕右等之儀ハ不問屆儀ニ候乎

指令 後段伺之通 十六年八月十八日  
 ● 賣藥營業者免許期限過鑑札書換及税金徴收之儀ニ付山形縣ヨリ内務大藏兩省へ伺 十五年一月十七日

賣藥營業者免許證札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ過キ尚舊札ヲ得ント欲スル者ハ舊證札ヲ返納シ更ニ新證札ヲ願受クヘシト規則上正條ニ付免許期限ニ至リ新證札願受クル者ハ舊札專換手数料ヲ徴シ引續キ營業者トシ亦期限過ル際迄新證札願受ケサル者ハ曾ニ取調舊證札返納可爲致順序ノ處若シ免許期限經過新證札願受ケノ者ハ營業中絶セシ儀ニ付一旦廢業届出サセタル上更ニ營業出願セシメ新規證札料及營業稅トモ徴收シ可然哉或ハ此等之者ト雖モ引續キ營業者ト同視シ舊札專換手数料而已徴收可然哉且免許期限過キノ證札ヲ以賣藥營業セシ者有之時ハ規則第二十三條ノ無證札營業者ニ照準スヘキヤ右相伺候也

指令 十六年九月八日

同之趣左之通可心得事

前段免許期限ニ至リ引續キ營業證札下付候モノハ新規營業ト見做證札料營業稅共徴收可致事

後段同之通

十五年五月十八日

●藥湯營業ノ儀ニ付福島縣ヨリ司法省ヘ伺 十五年五月十八日  
藥湯營業免許ヲ得タルモノヨリ其調劑品ヲ買請溫度及水量等都テ該營業者ノ方法ニ倣ヒ藥湯營業スルモノノ如キハ賣藥營業同様之手續ヲ以テ證札下付可然哉此段相伺候也

指令 同之通 十六年九月十四日

●賣藥營業人其販賣ノ効能書中ニ方名姓名等記載方之儀ニ付京都府ヨリ司法省ヘ伺 十六年八月廿七日  
第一條 賣藥營業者ニシテ免許證札面ノ方名ヲ上包シ又能書等ニ記入セサルモノ有之縱令ハ方名山田藥ヲ許可ナルニ其包紙ヘハ特ニ振蕩トノミ記載スル類右ハ方名變換ニ係リ證札面ト雖シ調査上不都合ニ付今後ハ素ヨリ既往ノ分ト雖モ右等發願候ハ直ニ證札面ト同一ノ方名ニ訂正爲致可然儀ニ候哉

第二條 甲乙營業人有之調劑ノ藥品分量主治ハ異ナルト雖モ同方名ニテ其販賣ノ包紙ニハ同ク單ニ方名ノミ記載シ別ニ其營業者ノ姓名ヲ記入無之ヨリ買得者ニ於テ甲乙識別シ難ク他日其配藥中ニ不正ノ所業發願スルト雖モ其證跡ヲ擧クルニ因ミ取締上差支不致候間効能書ノ表面ヘハ是又同上必ス營業者ノ姓名ヲ詳記シ甲乙共一目瞭然タラシムル様爲致可然哉

指令 書面同之通 十六年九月十四日  
●賣藥請賣及行商證札方數記載方之儀ニ付福井縣ヨリ內務省ヘ伺 十六年五月二十四日  
賣藥請賣及行商證札方數記載方之儀ハ明治十年御省乙第三十二號及十一年乙第七十號御達ニ據リ五方迄ヲ限リ記載下附致來候處十四年第三十二號公達ヲ以テ自今郡區吏員給料旅費及廳中諸費之内ヲ以テ支辨可致様相成候ニ就而ハ其方數之如キハ期限リ適宜記載致シ可然哉此段相伺候也

指令 十六年九月十九日  
書面同之趣五方ニ限候儀ト可心得事  
●賣藥能書中六種傳染病之項削除之儀ニ付岐阜縣ヨリ內務省ヘ伺 十六年十月十日  
賣藥能書中六種傳染病ノ項アルモ從來許可致來候處右ハ人民ニ於テ自然傳染ニ催ルモ賣藥ヲ服シ醫療ヲ受ケスシテ該病除滅之弊ヲ醸成候モ難計取締上ニモ關係候義ニ付自今能書中六種傳染病之項削除販賣爲致度此段相伺候也

指令 同之通 十六年十月十八日  
●賣藥營業證札及受賣行商證札裏面記載方ノ儀ニ付三重縣ヨリ內務省ヘ伺 十六年十月九日  
賣藥營業證札滿期書替或ハ廢方ニ際シ取締上往々不都合ノ廉モ有之就テハ十四年十一月大坂府并ニ本年五月岐阜縣同御指令ノ趣モ有之儀ニ付當縣ニ於テモ右證札下附ノ際其裏面ヘ滿期ノ年月ヲ朱書シ下渡度且受賣行商證札ノ儀モ右同様記載ノ上下渡候儀爲致取扱度此段相伺候也

指令 十六年十月廿二日  
書面同之趣開屆候事

●鑛泉販賣ノ儀ニ付島根縣ヨリ内務省ヘ伺 十六年九月八日

鑛泉ヲ採掘運搬シテ病者ヲ浴セシムルハ賣藥規則外トシ可取扱旨明治十一年御省番外御達賣藥檢査心得書ニ有之候ニ付テハ内服ノ爲販賣スルモノモ同様取扱可然候存候得共之ニ効能ヲ附シ販賣スルニ至リテハ稍異ナル所有之候様被相考候處是亦同様取扱差支無之候哉或ハ賣藥規則ニ準シ可取扱儀ニ候哉何分ノ御指相成度候也

指令 十六年十月一日

書面伺之趣ハ賣藥規則外トシ取扱儀下可心得事

●函館縣ヨリ内務省衛生局ヘ照會及回答 十六年十一月三十日

耕作物害虫驅除ノ賣藥願出ルトキハ家畜牛馬等ノ賣藥ト同様出届ケ差支ナキヤ

回答 十六年十二月五日

耕作物害虫驅除ノ目的ニテ販賣スル賣藥ハ賣藥規則外トナシ御懸限リ便宜御處分相成然ルヘク候

●賣藥營業者ノ儀ニ付岡山縣ヨリ内務省ヘ伺 十七年二月二十五日

爰ニ賣藥營業及ヒ請賣者支店ヲ開設シ販賣セント欲スル者ハ十年御省第七六十五號御達ニ別戶支店等ニ於テハ其居住人ニ於テ確札ヲ所持スルニ非レハ云々ト有之然ル上ハ確札記載方ニ於テハ本主營業人ノ名前ヘ尚別戶支店ヲ擔當スル者ノ姓名ヲモ記載可下渡儀ニ可有之哉果シテ然ラハ税金ハ本店而已ニテ可然哉

指令 十七年四月九日

伺ノ趣確札面ニハ何誰支店代理人何誰ト記シ營業稅及確札料共箇所毎ニ徵收スル儀ト可心得事

●賣藥鑑札ノ儀ニ付山形縣ヨリ内務省ヘ伺 十七年四月十六日

賣藥營業者滿期額顯ヒシタルモ其請賣行商者鑑札ハ規則第八條ノ年限迄書換ヘス可然ヤ

指令 伺之通 十七年四月廿二日

●賣藥營業之儀ニ付埼玉縣ヨリ内務省ヘ伺 十七年四月九日

賣藥營業者ニシテ甲地ニ居住シ乙地ニ一定之床見世ヲ設ケ日々出張製劑ヲ販賣スルモノ有之右之如キハ行商確札ヲ付與シ可然哉又ハ請賣鑑札ヲ付與可致哉

指令 十七年五月九日

前段伺之通

●賣藥規則中疑義之件栃木縣ヨリ内務省ヘ伺 十七年四月十八日

賣藥規則第十三條ニ據リ免許確札ヲ他人ニ讓渡セントスル者及ヒ第十四條ニ據リ免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時又水火盜難其他紛失等ニ付免許確札書換出願中確札所持不致ト雖正期限中故營業不苦儀ト相心得可然哉

指令 伺之通 十七年五月十六日

●沿革要領

明治三年十二月廿三日布告ヲ以テ賣藥取締規則ヲ定メ大學東校ニ於テ管ス○五年五月第四百四十二號布告ヲ以テ鼠取蠅取藥等藥石ノ類ヲ加ヘタル賣藥ヲ禁ス○同年七月第二百二號布告ヲ以テ三年十二月廿三日布告賣藥取締ヲ廢ス○六年十二月第四百廿九號布告ヲ以テ賣藥取締ヲ文部省ノ管理トシ賣藥出願ノ者ハ該省ニ申出檢査ヲ受ケンム○十年一月第七號布告ヲ以テ賣藥規則ヲ制定ス○十一年二月第四號布告ヲ以テ賣藥稅金納方ヲ定ム

第六十三 藥品取扱規則

明治十二年一月十七日 第壹號布告

藥品取扱規則左ノ通相定來ル二月十五日ヨリ施行シ明治十年第二十二號布告毒藥劇藥取扱規則ハ右同日限相廢候條此旨布告候事

十三年第二十三號布告ヲ以テ石炭酸其他劇藥傳染病流

藥品取扱規則

第一條 凡ソ藥品中最注意シテ精撰スヘキモノヲ第一類注意トシ其性効峻烈ニシテ僅少ノ分量ト雖モ直チニ生命ヲ傷害スルニ足ルヘキモノヲ第二類毒トシ其性効第二類ノ如ク峻烈ナラサルモ用量ニ因テ容易ニ危害ヲ來スヘキモノヲ第三類劇トス其類目別表ノ如シ但新タニ發見及ヒ船舶シタル藥品ハ先ツ最寄司藥場ニ出シテ試験ヲ受ケ其告示スル所ニ從フヘシ

第二條 第一類藥品ハ其性効ノ緩劇ニ拘ハラズ若シ精良ナラサルトキハ醫師ノ目的ヲ誤リ以テ人命ヲ危フスルカ故ニ其粗製品故意ニ他物ヲ混シタルニアラズ至ク化學製造上或ハ採收ノ際其法疎漏ニシテ純精ナラサルモノハ之ヲ藥用トシテ販賣スヘカラス

但藥舖ニ於テ自ラ其良否ヲ鑑別シ能ハサルトキハ最寄司藥場ニ請ヒ試験ヲ受クルコトヲ得十七年第五號布告ヲ以テ(請ヒ)ヲ得(下(無費ニテ其)ノ)五字ヲ削除ス

第三條 第一類中ノ粗製品ト雖モ仍ホ學術上工職上等ノ用ニ供スルニ足ルモノハ粗製ノ字ヲ其器ニ明記シ之ヲ販賣スルコトヲ得

第四條 第二類第三類ノ藥品ハ醫師ノ處方書ニ據テ調合スルノ外醫師藥舖化學者製藥者工職者等ヨリ品名量數需用ノ目的年月日及ヒ住所姓名ヲ詳記シタル證書ヲ以テスルニアラサレハ決シテ販賣或ハ授與スヘカラス  
但證書處方書ハ之ヲ保存シ臨時ノ點檢ニ供スヘシ且本條ノ手續ニ依ルモノト雖モ幼稚

ノモノ其他不安心ト認ムルモノニハ一切交付スヘカラス

第五條 第二類第三類ノ藥品ヲ販賣スルトキハ其器若クハ包紙へ必ラス普通ノ名稱ヲ記シ且第二類ハ毒ノ字第三類ハ劇ノ字ヲ明書スヘシ

但醫師ノ處方書ニ據ラスシテ封緘ヲ開キタル第二類第三類ノ藥品ヲ小賣若クハ授與スルトキハ本文ノ外更ニ適應ノ器ニ入レ密閉封印スヘシ

第六條 第二條第四條本文ニ背戻シ又ハ贋品故意ニ他ノ物品ヲ本品ニ混合シテ其容量重量或ハ名號ヲ變換ス取品總テ酸敗風化或ハ潮解シ或ハ其効力ヲ失スルモノノ類其藥品本性ノ効力ヲ變シ或ハ其効力ヲ失スルモノノ類贋品販賣スルモノハ其贋取品ヲ没入シ三千圓以上五百圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年半以

下ノ懲役第一條但書第四條但書及第三條第五條ニ背戻スルモノハ一圓以上貳拾五圓以下ノ罰金若クハ壹日以上貳拾五日以下ノ懲役ヲ科シ又ハ罰金懲役ヲ併セ科スヘシ

第七條 右ノ罰則ヲ再犯スルモノハ其本罰ノ最多限ニ貳倍以下ノ罰ヲ科シ三犯スルモノハ本罰ノ最多限ニ三倍以下ノ罰ヲ科スヘシ

第一類注意表

印度大麻葉及其製劑

麥奴及其製劑

乳酸鐵

吐根

苜蓿葉并根及其製劑

番木鱧子及其製劑

ペブシ子

吐酒石

第八類 衛生

礫砂精(アンモニヤ水)

カラバル豆及其製劑

ヨチウム

沃土鐵舍利別

第一コロール汞(甘汞  
カロメル)

炭酸アンモニヤ(礫砂華)

蔓陀羅華及其製劑

芫菁(斑猫)

コロラルヒドドライト

格魯望篤實及其製劑

阿片製劑

醋酸アンモニヤ水(ミンデレリ精)

サリシール酸及鹽類

規尼涅鹽類

硝酸銀

砒酸セリウム

エーテル(アール)

チキタリス葉及其製劑

肝油

沃土加里

第一沃土汞(黄色沃汞)

第二コロール汞(昇汞  
ソビル  
マート汞)

老利爾結兒私水并苦扁桃水

葯刺巴脂并球根及其製劑

コロ、フオルム

格魯失屈謨實及其製劑

アトロヒ子鹽類

サントニー子

薩爾撒根

機那皮

綿馬及其製劑

失鳩答草及其製劑

臭素加里(アロルムカリウム  
臭素銅篤亞私)

鹽基性硝酸蒼鉛

ヒヨス葉及其製劑

莫爾比涅鹽類

第二類毒表

磷  
クラール(矢毒)

揮發苦扁桃油

有毒性アルカロイド并其鹽類

ニコチ子、チキタリ子、ナルセー子、ヴェラトリ子、ブルシ子、コニー子、コデー子、アトロヒ子、

アコニチ子、エメチ子、ヒヨシアミ子、モルヒ子、ストリキニー子、等

猛劇汞劑

白降汞、第一沃汞、第二沃汞、昇汞、赤降汞、硝酸亞酸化汞、青酸汞、生々乳

青酸及其製劑

第三類(劇)表

印度大麻葉及其製劑

番木髓及其製劑

麥奴及其製劑

ヘルホル根及其製劑

蓖麻子油

水素還元鐵

カンタリヂー子

亞砒酸(異名  
白砒、砒、  
ニツキ)其製劑及砒抱合物(砒、  
ノ別)

寬蒼葉并根及其製劑

巴豆及巴豆油

ポドヒリオン

吐根及其製劑

吐酒石其他安質莫尼製劑

藤黃

硫酸

苛性加里(腐蝕)

芥子油及芥子精

ヨチウム及其製劑

ヨチウム鐵

雙鸞菊球根(馬頭)及其製劑

老利爾結兒私水并苦扁桃水

葯刺巴脂并球根及其製劑

芫菁(斑)及其製劑

フロミウム(臭素)

コルシクム實并根及其製劑

コロ、フオルム(迷踪)

コロラルヒドレート

コロム酸加里及重コロム酸加里

亞鉛華其他亞鉛製劑

毒萵苣及其製劑

ヂキタリス葉及其製劑

ガラバル豆及其製劑

苛性曹達(腐蝕)

甘汞及輕粉、汞灰散、鹽丸

沃土加里

ヨードホルミウム

過酸滿俺酸加里及曹達

蔓陀羅華葉及其製劑

ケレフソート

コロム酸

コロシント實及其製劑

コロトシコロラルヒドレート

コロゲイン

阿片及其製劑

サピナ葉及其製劑

醋酸鉛(鉛)其他鉛製劑

次醋酸銅其他銅製劑(丹毒ノ類)

硝酸銀

臭素加里

鹽化金ナトリウム

鹽基性硝酸砒其他砒鉛製劑

ヒヨス葉及其製劑

瑞香皮及其製劑

○燐製ノ鼠取藥ヲ禁ス明治十年三月二十二日

從來燐製ノ鼠取藥ヲ以テ賣藥トナシ候儀聞届鑑札下渡候向有之候處右ハ遊藥ニテ到底民間誤用之虞ナキヲ免レス殊ニ本年大政官第二十號毒劇藥取扱規則公布相成取締上ニモ關係候ニ付自今一切禁止候條右管業者有之府縣ハ其旨相違候事ニ鑑札返納可取計此旨相違候事

但請賣業之モノモ同様賣業規則ニ照シ禁止之處分可相違候事

○アニリン其他鑛屬製ノ繪具染料取締方明治十一年四月十八日

近年アニリン其他鑛屬製ノ繪具染料ヲ以テ飲食物ニ著色スルモノ不沙越ニ候處右ハ自然人身之健康ヲ害スルハ勿論中ニハ甚シキ中毒ニ罹リ忽チニ非命ノ横夭ヲ致スモノ有之危險ノ至リニ候條各地方廳ニ於テ注意取締可致此旨相違候事

追テ地方慣用ノ品ニヨリ毒性分ノ有無判然難致モノハ其原物相添當衛生局ハ照會試験ヲ受可申事

○繪具染料賣買取締方明治十三年三月十七日

内務省第七拾號府縣へ達

本年一月太政官第壹號ヲ以テ藥品取扱規則公布相成候ニ付テハ繪具染料等モ第二類並第三類表中ニ掲載有之モリハ該規則ニ照シ賣買可致候ニ候條心得違ノ者無之様可取計此旨相違候事

明治十八年一月二十八日  
○摺附木製造ニ黃燐ヲ用フルヲ禁ス 内務省甲第壹號警視廳府縣へ達

摺附木製造ニ黃燐ヲ用候儀ハ自今禁止候様可致此旨相違候事  
明治十七年十月十四日  
○藥品其他検査手数料ヲ定ム 内務省甲第貳拾七號告示

東京大阪 試驗所ニ於テ舉行スル藥品其他ノモノ検査手数料左ノ通相定來ル十一月一日ヨリ徵收候條此旨告示候事

検査手数料

一藥品 (一容器(一瓶一)ニ付金壹圓乃至五錢)

但大容器ノ藥品ヲ検査シタル上小容器ニ分チテ印紙ヲ貼付スルモノハ其小容器ヲ以テ一容器トス尤單ニ告示箋ヲ與フルモノハ其個數ノ多少ニ拘ハラズ金壹圓ヲ徵ス

左ノ各項手数料ハ壹個毎ニ徵收スルモノトス

- 一 飲水及水露 飲料是否鑑定 金五拾錢乃至五拾圓
- 一 乳汁 飲料是否鑑定 金五拾錢乃至五拾圓
- 一 酒類 全全 金五拾錢乃至五拾圓
- 一 飲食物 全全 金五拾錢乃至五拾圓
- 一 大氣及有害性瓦斯類 定性定量ニ拘ハラズ 金五拾錢乃至五拾圓
- 一 食糧中有害性金屬 定性分析 金五拾錢乃至五拾圓
- 一 衣服料 定性分析 金五拾錢乃至五拾圓
- 一 礦泉 定性分析 金五拾錢乃至五拾圓

金貳拾錢乃至貳圓

全

金貳拾錢乃至五圓

金五拾錢乃至五拾圓

金五拾錢乃至五拾圓

金五拾錢乃至五拾圓

- 一 顏料
- 一 玩具其他着色物中有害性物質 定性分析
- 一 化學製品 定性分析
- 一 礦物及金屬 全全
- 一 警察及裁判關係物品 検査ノ難易及之ニ要スル時日ノ長短ニ依リ
- 一 前各項外ノ諸品ハ其検査ノ難易及之ニ要スル時日ノ長短ニ依リ相當ノ手数料ヲ徵收スヘシ
- 一 右諸品時日ヲ限リ検査ヲ乞フモノハ試驗所ノ都合ニヨリ之ヲ許可スル丁アルヘシ然ルハ普通検査手数料ノ五倍以内ヲ徵收ス可シ

同指令

●検査手数料之儀ニ付静岡縣ヨリ内務省へ伺 十七年十月二十八日

今般御省甲第廿七號ヲ以テ衛生局試驗所ニ於テ舉行スル試驗手数料之儀告示相成候處左之廉々疑團有之候ニ付左ニ相伺候

一 右手敷料ノ儀ハ人民ノ志願ニ依リ試驗願出候者ノミ徵收相成候儀ニ候哉

二 人民ニ於テ志願ニアラサルモ御省ノ令達ニ依リ試驗ヲ乞ハサルヲ得サルモノ例之ハ明治九年御省乙第五拾四號

達ニ依リ製藥試驗ヲ願出ルモノ、如キハ徵收不相成儀ニ候哉

三 前同様縣令ノ令達ニ依リ縣令へ願出ルモノニシテ縣令ヨリ更ニ御省へ試驗ヲ依頼スルモノ例之ハ着色染料蠟泉等

ノ如キハ前同様徵收不相成儀ニ候哉

四 人民ノ願出ニ無之縣令ニ於テ試驗ヲ必要ト認メ試驗ヲ御省へ依頼スルモノ例之ハ有害品検査等ノ如キハ徵收不相成儀ニ候哉

指令 十七年十一月十三日

第壹項 官民ノ別ナク徴收ス

第貳項 伺ノ通

第三項第四項 第壹項指令ニ依リテ知スヘシ

●沿革要領

明治七年十二月廿五日警部省買取部方ヲ三府ニ達ス○八年十月内務省甲第十九號布達ヲ以テ藥品ノ眞價検査印紙ヲ定メ藥品ノ鑑定ヲ要スルモノハ同部場ニ顯出シム○十年二月第二十號布告ヲ以テ毒劇藥取締規則ヲ定ム○同年四月内務省甲第七號布達ヲ以テ八年甲第十九號布達同部場検査印紙ヲ改正シ毒劇藥標記貼用方ヲ定ム○十三年一月警部省買取部方ヲ定メ十年第二十號布告毒劇藥取締規則ヲ廢ス○十六年五月内務省甲第八號布告ヲ以テ東京大坂横濱三司部場ヲ衛生局試験所ト改ム○十七年十月内務省甲第廿七號布告ヲ以テ衛生局試験所ニ於テ舉行スル藥品其他ノ検査手数料ヲ定ム

第六十四 石炭酸其他劇藥傳染病流行ノ際販賣ヲ許ス 明治十三年五月十五日 第貳拾三號布告

石炭酸其他劇藥ハ本年一第壹號布告藥品取扱規則第四條ニ照シ可取扱ノ處傳染病流行ノ際ハ内務省布達ニ從ヒ消毒藥ニ調製候分ニ限り藥舖ニ於テ販賣差許候條販賣望ノ者ハ其管轄廳ニ可願出此旨布告候事

●沿革要領

明治十年九月第六十九號達ヲ以テ流行病アル節ニ限リ水或ハ他藥ト混和シタル石炭酸硫酸ハ地方廳限リ販賣ヲ許可セシム○十三年五月第廿三號布告ヲ以テ石炭酸其他劇藥ハ傳染病流行ノ際内務省布達ニ從ヒ消毒藥ニ調製シタル分ニ限リ藥舖ニ於テ販賣ヲ許ス○同月第三十號達ヲ以テ十年第六十九號達ヲ廢ス

第六十五 藥用阿片賣買並製造規則 明治十一年八月九日 第貳拾壹號布告

明治二年八月布告生阿片取扱規則ヲ廢シ藥用阿片賣買並製造規則左ノ通相定候條此旨布告候事

但施行ノ時日ハ追テ内務省ヨリ可相達事 同年内務省甲第廿七號ヲ以テ十二年五月一日ヨリ施行ノ旨ヲ布達ス

藥用阿片賣買並製造規則

第一條 阿片ノ賣買及ヒ製造ハ藥用品ニ限リ此規則ニ依テ之ヲ許可ス

第二條 藥用阿片ハ其内國產若クハ外國產ヲ論セズ總テ内務省ニ其品位ヲ定メテ之ヲ買上ケ然ル後チ各司藥場ヨリ阿片卸シ賣特許藥舖ニ拂下ケ之ヲ賣捌カシムヘシ

但司藥場ヲ置カサル地方ニ於テハ該地方廳ヨリ之ヲ拂下クヘシ

第三條 各司藥場ヨリ拂下クル所ノ阿片ハ量目一匁ヲ以テ一器トシ每器司藥場ノ印紙ヲ貼附スヘシ

第四條 地方廳ハ土地ノ廣狹位置ヲ度リ一管内相當ノ人員ヲ限リ藥舖ノ身元人物ヲ選ミテ内務省ニ稟議シ鑑札ヲ受ケテ之ヲ本人ニ交付スヘシ

但廢業ノ者アル節ハ其鑑札ヲ内務省ニ返納スヘシ

第五條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ノ住所姓名ハ該管轄廳ヨリ管内ノ公私病院醫師藥舖一般ニ報告スヘシ

但廢業ノ者アル節モ本文ニ準シ速ニ報告スヘシ

十八年内務省  
甲第二號達  
附第五十八  
ノ二項



第六條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ハ其店頭ニ特許藥用阿片賣捌所ト大書シタル看板ヲ掲ケ置クヘシ

第七條 特許ヲ受タル藥舖ハ半年分賣捌ノ高ヲ豫算シ毎年兩度最寄司藥場同藥場ナキ地ニ申立テ其拂下ケヲ請フヘシ但缺乏ノ節ハ臨時拂下ケヲ請フコトヲ得

第八條 凡ソ醫師病院及ヒ一般藥舖等ニ於テ藥用阿片ヲ要スルキハ其量目並ニ其住所姓名及年月日病院ハ其名稱及ヒ院ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ特許藥舖ニ就キ之ヲ購求スヘシ長若クハ副長ノ姓名特許藥舖ニ於テハ之ヲ賣渡スニ其量目一度ニ四十匁ヲ超ヘカラス

但病院及醫師等ニ於テ便宜ニ依リ一般藥舖ニ就キ之ヲ購求スルト一般藥舖相互ニ賣買スルトハ妨ケスト雖モ必ス本條ノ證書ヲ以テスヘシ且其量目一度ニ八匁ヲ超ヘカラス

第九條 凡テ内外國人共醫師ノ處方箋ヲ持參シタル者ノ外ハ特許藥舖并ニ一般藥舖ニ於テ一切之ヲ賣渡スヘカラス

第十條 特許藥舖ハ每半年分阿片拂受並ニ一匁以上賣捌ノ高及ヒ買入ノ住所姓名並ニ一匁以下賣捌ノ總高等明細表正副二通ヲ造リ其管轄廳ニ差出スヘシ尤一匁以下ノ分ハ平常其明細簿ヲ記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

但管轄廳ハ其一通ヲ内務省ニ進達スヘシ  
第十一條 醫師病院一般藥舖ニ於テハ每半年必シモ前條明細表ヲ差出スヲ要セスト雖モ平常其明細簿ヲ記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

第十二條 藥用阿片ヲ製造セント欲スル者ハ罌粟ノ種類及ヒ培養採收製造ノ方法ヲ記シ管轄廳ヲ經由シテ内務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十三條 阿片製造人ハ其製造シタル阿片ノ量目ヲ記シ署名調印シタル願書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ内務省ノ買上ケヲ願フヘシ右買上ケヲ受クルノ外決シテ内外人民ニ販賣スルコトヲ許サス

但司藥場ニ於テ其品位藥用ニ適セサル者トスルキハ地方廳ヨリ其旨ヲ製造人ニ通知シ其阿片ハ其應ニ預リ置クヘシ

第十四條 阿片買上ケ及ヒ拂下ケノ代價ハ歲ノ豐凶及ヒ外國一般ノ相場等ニ因テ高低アルヘシト雖モ其品位ニ應シテ價格ヲ定ムルハ該藥主用ノ性分即チ「モルヒ子」ノ多少ニ因ルヘシ

第十五條 内務省ニ買上ケ及ヒ拂下クル所ノ阿片ハ百分中ニ「モルヒ子」六分以上十一分ニ至ルマテヲ含有スル者ニ限ルヘシ

第十六條 此規則ニ違反スル者ハ其犯情ニ從ヒ阿片賣買若クハ製造ヲ禁シ其所有ノ阿片ヲ沒收シ百五十圓ヨリ五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

○阿片賣買並製造規則施行ニ付取扱方 明治十一年十一月四日  
内務省令第六拾八號府縣へ達  
本月二日當省申第貳拾七號ヲ以テ阿片賣買並製造規則施行ノ日限布達候ニ付テハ豫メ左件ノ通可取計此旨相達候事  
一各管内藥舖營業者及ヒ阿片製造者ニ於テ現在所持ノ阿片ノ試驗ヲ要スルモノハ來ル十二月限リ最寄司藥場ニ差出ス

可シ試験ノ上相當ノ品ハ小留ニ分チテ印紙ヲ貼附シ之ヲ下渡シ若シ其買上ヲ望ムモノハ定價ヲ以テ買上ク可ク品位不相當ノ品ハ其理由ヲ記シテ持主ニ返附スヘシ

一阿片賣買並製造規則第四條ニ據リ各郡區ニ於テ阿片賣捌ヲ特許スヘキ藥舖ヲ撰定シ其郡區町村番地姓名年齢ヲ詳記シ來ル十二月限リ申出ヘシ

一阿片製造人有之地方ハ同規則第十二條ニ據リ免許鑑札願出サシムヘシ

○製藥免許手續 明治九年五月八日 內務省第七百五拾四號府縣へ達

製藥藥品ノ儀ハ本邦ニ於テモ往々舶來品ニ勝レル良品モ有之處只管輸入品ヲ安信シ概シテ國產ヲ昇ムノ風ニ流レ隱惡藥ノ輸入日ヲ逐テ増加シ其損害不尠ニ付自今製造品試験ノ上其良否ヲ鑑定シ免許鑑札相渡スヘク候條醫藥用工服用ヲ不問藥品製煉致シ候者ハ其製造品相添左ノ箇條書ニ從ヒ願出許可ノ上販賣致シ候條可取計此旨相達候事

但阿片製造人ノ儀ハ除議ノ次第有之候條當分地方限リ開屆置昨八年當省第七百五十六號達ニ照準シ可取計事

製藥免許手續

一製藥人ハ應籍住所姓名等詳記シタル願書ニ通テ作リ其製品ヲ添へ管轄へ出サシメ管轄ハ之ニ添書シテ內務省ニ出スヘシ

一製品ハ各地ノ便宜ニ就キ最寄可藥場ニ送致シ置キ其譯添書ニ追申スヘシ 同年七百三十四號省達ヲ以テ(送致シ)ノ但シ可藥場ニ於テハ試験ノ上直チニ本省ニ送出し別ニ該管轄ニ通知セサルモノトス

一試験ノ上良品ナルモノハ免許鑑札ヲ交附シ若シ其製造十全ナラサルモノハ本人ノ志願ニヨリ可藥場ニ於テ製煉ノ方法傳示スヘシ

一製藥許可ヲ得タルモノハ官許ノ文字ヲ冒シタル商標ニ藥名及ヒ其住所姓名ヲ記シ毎箇ニ貼シテ販賣スヘシ 但藥名ハ國字洋文兩樣共記載スルハ勝手タルヘシト雖モ洋文ノミヲ書スヘカラス必ス普通ノ譯名或ハ譯名無之モノハ假名ニテ原名ヲ記スヘシ

一鑑札圖形 (略之)

●同指令

●藥物製造ノ儀ニ付靜岡縣ヨリ內務省へ伺 十六年七月十四日

酒類防腐藥又ハ燻酒濁下藥ト唱へ數味ノ藥品ヲ調和シ製造許可願出候者有之右ハ明治九年御省第七百五十四號達ニ照準シ御省へ進達可致儀ニ候哉

指令 十六年八月十一日 書面伺之趣其縣限リ適宜取計フ儀ト可心得事

●勸業事務上製造ノ藥用阿片ノ儀ニ付三重縣ヨリ內務省へ伺 十六年七月十二日

明治十一年八月第廿一號公布藥用阿片賣買並製造規則預行相成候處縣廳又ハ郡役所等ノ勸業事務上其裁培場或ハ試験場ノ類ノ箇所ニ於テ阿片製造ノ爲メ聖粟ヲ培養シ且ツ藥用阿片ヲ製造セントスルハ該規則第十二條ノ例ニ比準シ其旨ヲ詳記シ縣廳勸業事務ニ關スル分ハ御省へ御届及ヒ郡役所勸業事務ノ分縣廳ニ爲届出候ニ止リ御省ノ免許鑑札ヲ受クルニ及ハサル儀ト心得可然哉尤其製造ノ阿片取扱方ハ該規則第二條ニ照シ御省へ御買上相願候ハ勿論ノ事ト存候處其製造稟准ノ手續官衙勸業事務ニ關スル分ハ該規則中明文無之ニ付如何取計可然哉

指令 省達 十六年八月十七日 同之通但郡役所ノ分モ內務省へ届出ツヘキ事

●沿革要領

明治三年八月九日布告ヲ以テ生鴉片取扱規則ヲ定ム○十一年八月第廿一號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ藥用阿片賣買並製造規則ヲ定ム

第九類 圖書

第六十六 出版條例 明治八年九月三日  
第百三拾五號布告

明治五年正月文部省布達出版條例相廢シ更ニ別冊ノ通相定候條此旨布告候事

(別冊)

出版條例

第一條 圖書ヲ著作シ又ハ外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版セントスル者ハ出版ノ日ヨリ到達日  
數ヲ除キ十日前ニ内務省ニ届出ツヘシ十六年第二十一號布告ヲ以テ但書共全條改正

但社則塾則引札ノ類印刷シテ發賣セサル者ハ此例ニ在ラス

第二條 圖書ヲ著作シ又ハ外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版スル者ハ三十年間專賣ノ權ヲ與フヘシ此專賣ノ權ヲ版權ト云フ

但版權ハ願フト願ハサルトハ本人ノ隨意トス故ニ版權ヲ願フ者ハ願書ヲ差出シ免許ヲ請フヘシ其願ハサル者ハ各人一般ニ出版スルヲ許ス

第三條 出版屆版權願トモ草稿ヲ添ルニ及スト雖モ時トシテハ草稿ヲ徵シ檢査スルヲアルヘシ

第四條 草稿又ハ納本ヲ檢査シテ世治ニ害アル者ト認マルモ其出版又ハ販賣ヲ禁シ或ハ刻版ヲ毀タシムルヲアルヘシ

第五條 出版屆版權願トモ其所在ノ地方廳本籍又ハ寄留ノ地方廳ヲ經由スヘシ

但シ著譯者出版人其管轄ヲ異ニスル者ハ出版人所在ノ地方廳ヲ經由スヘシ

第六條 圖書ノ特ニ世ニ鴻益アル者ハ版權ノ年限終ルノ後仍ホ十五年ノ延期ヲ許スヲアルヘシ

第七條 版權免許ノ爲ニ其年限ヲ記セル證書ヲ附與スヘシ年限終ルノ後ハ各人一般ニ出版スルヲ許ス

第八條 著譯書大部ニシテ卒業數年ニ涉リ編ヲ逐ヒ漸次出版スル者ハ每次ニ版權ヲ與ヘ年限ヲ起算スヘシ

第九條 他人ノ著譯書已ニ版權ヲ有スルモノヲ續成セント欲スル者ハ原主ニ示談ノ上連印ノ願書ヲ出スヘシ其原主死去セル時ハ相續人ヲ以テ原主ト見做スヘシ

第十條 他人ノ著譯書版權ヲ有スルモノヲ校訂シ或ハ節略シ或ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘテ出版スル者モ亦原主ノ承諾ヲ得サルヘカラス其出願ノ手續ハ前條ニ依ルヘシ

第十一條 既ニ版權ヲ有スル自己ノ著譯書ヲ校訂シ或ハ節略シ或ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘテ出版スルキハ更ニ願ヒ出ルニ非レハ版權ヲ得ヘカラス其製本ノ式ヲ改メ若クハ冊數ヲ分合シテ改版スルニ止リ若クハ舊式ニ依テ再刻スル者ハ版權ヲ存ス

但シ屆書ヲ出シ製本ヲ納ムルハ各本條ニ依ルヘシ

第十二條 著譯者死後ニ至リ其相續人遺稿ヲ出版スルコトヲ得其版權ヲ願フキハ之ヲ與フヘシ

第十三條 版權年限未タ終ラサルノ間ハ版主ノ相續人ニ傳フヘシ

但シ版權讓受ノ由ヲ相續人ヨリ内務省ヘ届ケ出ヘシ

第十四條 他人ノ著譯書ヲ出版スル者ハ必ス著譯者ノ承諾ヲ得ヘシ其版權願書若クハ出版屆書ニハ必ス著譯者ト連印スヘシ

第十五條 版權ヲ得タル者ハ他人其條章ヲ剽竊スルヲ許サス

但論辨若クハ証明スルタメニ引用スル者ハ此例ニアラス

第十六條 同時若クハ前後ニ偶然同様ノ圖書ヲ著譯シ版權ヲ願フ者二人以上アル時ハ共ニ版權ヲ與フヘシ其事情明白ナラサル者ハ事由ヲ檢査シテ後チ之ヲ許シ或ハ許サハルヘシ

第十七條 外國ノ圖書既ニ甲者ノ成譯アリト雖モ乙者又之ヲ譯シ甲者ノ誤謬ヲ正シ又ハ漏ヲ補ヒ及ヒ其文意ヲシテ一層明瞭ナラシムルノ確證アルモノ版權ヲ願ヒ出ル時ハ檢査シテ後チ之ヲ許シ或ハ許サハルヘシ

第十八條 著譯ノ圖書同名ノ者アリト雖モ文理不同ナルニ於テハ妨ケナシトス

但表題ノ上ニ著譯ト記載スヘシ

第十九條 出版ノ圖書ハ内務省ニ於テ目錄ヲ作り時々公布スヘシ

第二十條 圖書刻成ノ上ハ製本三部ヲ内務省ヘ納ムヘシ其版權ヲ得ル者ハ外ニ免許料トシテ製本六部ノ定價ヲ納ムヘシ

但シ出版ノ上毎部定價ノ印ヲ押スヘシ  
 第二十二條 出版ノ圖書ニハ著譯者ノ住所氏名ヲ記ス著譯者ノ主名ヲ知ルヘカラサル者ハ其由ヲ記スヘシ而シテ何年月日出版或ハ何年月日版權免許ト記シ版主ノ住所氏名ヲ記スヘシ氏名ヲ記セスシテ別號ヲ記スルコトヲ得ス  
 版權ヲ相續シ若クハ賣買シ若クハ分版シタルキハ相續人買主及分版ヲ受ケタル者ノ住所氏名ニ改ムヘシ  
 第二十二條 版權ノ賣買ハ勝手タルヘシ賣買スルキハ雙方連印ヲ其由ヲ内務省ヘ届出ヘシ  
 第二十三條 版權ヲ分テ譲リ若クハ賣リ同一圖書ヲ各自ニ出版スルコト妨ケナシ之ヲ分版ト名ク  
 但シ雙方連印シテ届ケ出ルコト前條ノ如シ  
 第二十四條 版權ヲ相續シ若クハ賣買シ若クハ分版シ及ヒ改版ノ届ケ出サル者ハ其版權ヲ失フヘシ  
 第二十五條 願濟ノ表題ヲ變改シ若クハ納本ノ後ニ新タニ序跋ヲ加フル者ハ其趣ヲ届出テ更ニ納本スヘシ若シ届出ス又ハ納本セサル者ハ其版權ヲ失フヘシ  
 第二十六條 免許狀ヲ失フ者ハ其趣ヲ届出タル上更ニ之ヲ與フヘシ  
 但シ手数料トシテ製本三部ノ定價ヲ納ムヘシ  
 第二十七條 小説歌謠ヲ出版スル者亦此ノ條例ニ從フヘシ

第二十八條 彫書ノ類ヲ出版セントスル者ハ出版前ニ内務省ヘ届出ツヘシ  
 但版權ヲ與ヘス十六年第二十條改正  
 第二十九條 版權免許狀附與ノ後版權賣買或ハ改題等届出ノ上雛形ノ通藏版人免許狀ヘ地方廳印ヲ請フヘシ九年第十二號布告ヲ以テ追加  
 第三十條 裏書餘白ナキニ至テハ更ニ免許狀書換願出ヘシ同上  
 但願出ル者ハ手数料トシテ製本三部ノ定價ヲ納ムヘシ  
 第三十一條 都合ニ因リ版權ヲ要セサル旨ヲ以テ免許狀返納スル者ハ其手数料トシテ金三十錢ヲ納ムヘシ九年第八十一號布告ヲ以テ全條追加  
 但收納方ハ免許料ト同様タルヘシ  
 出版條例罰則  
 第三十二條 内務省ヘ届ケスシテ圖書ヲ出版シ及ヒ版權免許ヲ得スシテ免許ノ名ヲ冒ス者若クハ納本セス及ヒ免許料ヲ出サスシテ發賣スル者又ハ出版發賣ヲ禁止セラレタル圖書ヲ出版發賣シタル者ハ其刻版印本及ヒ賣得金ヲ沒收ス十六年第二十號布告ヲ以テ全條改正  
 第三十三條 凡シ僞版ヲ作り或ハ書中ノ字句及繪圖ノ模倣ヲ小變シ若クハ小加シ其表題ヲ改メ其他總テ他人ノ版權ヲ侵シ出版スル者ハ罰金三十圓以上三百圓以下ヲ科シ其刻版印本及賣得金ヲ沒收シテ版主ニ給付ス  
 第三條 第一條及ヒ第二條ヲ犯スノ圖書タルコトヲ知テ之ヲ發賣スル者ハ罰金五圓以上百圓

以下ヲ科ス其第二條ヲ犯スノ圖書タルコトヲ知テ發賣スル者ハ現存ノ圖書及賣得金ヲ沒收シテ版主ニ給付ス

但シ沒收ノ法ハ第一條ニ依ル

第五條 凡ソ著譯ノ圖書新聞紙條例第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十七條第三十八條第三十九條ノ罪ヲ犯シタル者ハ著譯者出版者共犯ヲ以テ論シ該條例ニ依テ罰ヲ科ス但印刷器ヲ沒收スルハ第七條第二項ノ場合ニ限ル上

第六條 同上

第七條 法司圖書犯則ノ訴ヲ受レハ即時刻版及現存ノ印本ヲ勾收セシメ論決スルニ至テ官ニ沒ス

活版ヲ用フル者ニシテ出版人自ラ印刷ヲ管スル者若クハ付スル所ノ印刷人犯情ヲ知ル者ハ印刷器ヲ沒收ス

第八條 既ニ版權免許ヲ得ルト雖モ出版ノ上犯則ニ涉ル者ハ仍ホ本條ニ依リ罪ヲ科ス

附則

一此條例發行ノ日ヨリ出版ニ關スル從前ノ布告布達等一切取消シ候條從前出版ノ圖書ハ此

九年六月布告  
ヲ以テ本文四  
ケ月ヲ限リ可  
顯出ト有ルヲ  
尙九年四月三  
十日迄延期ス

條例發行ノ日ヨリ四ケ月ヲ限リ此條例ニ準據シ更ニ願出ツヘク右限内願出テサルモノハ總テ版權無之儀ト心得ヘシ

一從前出版ノ圖書ト雖モ版權願出ルニ於テハ免許料上納スヘシ  
但シ製本ハ納ルニ及ハス

一自今院省使廳府縣ニ於テ出版スルモノト雖モ布告公文及該廳ニ關スル日誌規則ノ類ヲ除クノ外ハ必ス内務省ヘ届出ツヘシ

(出版屆書若クハ出版版權願書式畧之)

○式ニ依リ宣告セサル公文等ヲ記セル圖書ヲ出版スル者處分方 明治十七年十月三十日 第六號布達

式ニ依リ宣布セサル公文及上書建白請願書ヲ記載セル圖書ハ明治十六年 六月 第六號布達以前ノ出版ニ係ルモノト雖モ再版反刻若クハ之ヲ抄出シテ出版スルモノハ新聞紙條例第三拾壹條ニ依ルヘシ

右布達候事

○出版屆差出方 明治九年五月二日 內務省甲第拾四號布達

客歲九月御布告相成候出版條例第二條但書ニ其願ハサル者ハ各人一般ニ出版スルヲ許スト有之候得共出版屆ノ儀ハ第一條ノ通出版ノ前必ス覺省ヘ可届出候ト可相心得此旨布達候事

○出版屆ヲ差出セシ後ハ版權ヲ許サス 明治九年五月二十九日 內務省甲第拾號布達

凡ソ新刻ノ圖書版權ヲ有シ度者ハ出版版權共合セテ可願出若シ出版屆ノミ差出後日ニ至リ版權願出候共授與致サス候條此旨布達候事

○出版願屆書ニ官位等記入方 明治八年十月二十九日 內務省甲第貳拾壹號布達

出版願屆番ノ氏名從前族籍ノミ肩替致候處自今官位アル者ハ族籍并官位ヲモ記入シ可差出此旨布達候事

○版權所有ノ圖書分版屆書連印方 明治十二年四月二十五日 內務省甲第八號布達

出版條例第二十三條但書變方連印ノ儀自今甲者所有ノ版權ヲ既ニシ者ニ分版シ後又丙者ニ分版スルハ甲乙丙者共連印ノ上可届出候ト可相心得此旨布達候事

○直ニ内務省へ納本ノ向地方廳へ届出方 明治八年十一月二十日 內務省甲第貳拾三號布達

圖書成刻納本致候節其所在地方廳ヲ經由セス本人ヨリ直ニ納付ノ向ハ其旨趣并納本ノ定價等速ニ其地方廳へ可届出此旨布達候事

但版權免許料ノ儀ハ必其地方廳ヲ經由可差出事

○彫書ノ類納本方 明治九年十一月十五日 內務省甲第拾貳號布達

彫書類是迄三部納本致候處自今尋常彫書 銅鑿等ニ限リ刻成ノ都度一部可相納此旨布達候事

○納本添書式 明治九年一月十二日 內務省甲第貳號布達

圖書刻成納本之節添書式區々ニテ一定セサルヨリ往々不都合ノ儀少ナカラス候條別紙雛形ノ書式ニ照準可差出此旨布達候事

但シ定價ハ每部卷末ニ捺印シ編ヲ逐ヒ漸次出版スルモノハ每冊其定價ヲ捺印可致事

別紙

(納本添書式雛形略之)

○納本差出方 明治十七年二月二十八日 內務省甲第五號告示

出版圖書刻成納本ノ儀ハ自今當官總務局へ差出スヘシ此旨告示候事

但宛名ハ明治十七年二月廿八日 甲第五號告示但書之通リ

○版權免許料上納方 明治十四年一月二十九日 內務省甲第壹號布達

出版版權許可ノ圖書刻成前定價ヲ豫定シ免許料上納候向モ有之候處自今刻成ノ上上納可致此旨布達候事

但明治九年當省甲第四十一號布達ハ取消候事

○版權免許ヲ得テ後他管ニ轉居スル者届出方 明治九年八月四日 內務省甲第三拾號布達

版權免許ノ儀所在ノ地方廳ヲ經由シ免許ヲ得テ後他ノ府縣ニ所屬換或ハ轉任寄留換等ニ付體版持轉スル者ハ別紙書式ニ準シ新到兩地方廳ヲ經テ當省へ可届出此旨布達候事

但他府縣下ノ者へ版權讓渡ノ者モ出版前後ニ拘ハラヌ書式ニ準シ届出ヘキ事

(別紙略之)

○我カ有版權ノ圖書ニシテ外國人ノ翻刻ニ係ル者ハ販賣ヲ禁ス 明治十一年十二月二十一日 內務省乙第九拾號府縣へ達

我カ有版權ノ圖書ニシテ外國人ノ翻刻ニ係ルモノハ内國人民ニ於テ販賣不相成ハ勿論ノ事ニ候得共尚心得違ノ者無之候條テ其旨相諭置可申此旨相達候事

○外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版届出及版權出願方 明治十五年十一月十五日 內務省乙第六拾號府縣へ達

外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版届出或ハ出版々權願出ノ節原著者ノ國名姓名及ヒ原題名等ハ自今調査ノ都合有之候條原字ヲ以テ別紙ニ認メ願屆書面ニ一通相添可爲差出此旨相達候事

但願屆書面へ記載方ノ儀ハ從前ノ通タルヘシ

○文部省出版ノ圖書へ註解圖書傍訓等ヲ加ヘ又ハ増減シテ出版スルヲ禁ス 明治十二年二月二日

文部省第  
貳號布達

文部省出版ノ圖書ハ註解圖書傳訓等ヲ加ヘ又ハ本文ヲ增減シテ出版致シ候儀自今不相成候尤原本ノ儘翻刻致シ候儀ハ可爲從前之通候條此旨布達候事

○文部省出版圖書翻刻ノモノハ檢査ヲ遂ケ誤刻ノモノ發賣差止方等  
明治十四年三月十日  
文部省領覽號布達

文部省出版圖書中世上ニ於テ翻刻スル圖書ノ内誤刻有之モノ相見エ教育上ノ弊害ヲ生スル不尠儀ニ付自今翻刻ノ圖書ハ當省ニ於テ檢査ヲ遂ケ誤刻有之モノハ時宜ニヨリ其發賣ヲ可差止候條此旨豫メ布達候事  
但本文翻刻圖書ハ檢査ノ爲メ入用ニ付翻刻出來次第翻刻人ヨリ當省へ一部納本可致候事

○神社寺院ノ守札及神佛號ヲ記セル畫像等ハ其神社寺院ノ外出版ヲ禁ス  
明治十五年十月十八日  
内務省第七第五拾  
五號府縣へ達

神社寺院之守札ト可認モノ及神佛號ヲ記載セル畫像ハ其神社寺院ノ外出版不相成儀ト可心得此旨相達候事  
但從前屆滿ノ分ト雖モ本文ハ抵觸シ不都合ト認ムル場合ニ於テハ更ニ申出ツヘシ

● 伺指令

● 伺指令訓示等出版之件ニ付内務省ヨリ太政官へ伺  
十七年八月廿九日

昨十六年六月廿九日第貳拾壹號布告ヲ以テ出版條例御改正相成其前則第五條ニハ新聞紙條例第三拾壹條ヲ適用セラレ候處先是即同年同月廿二日貳拾壹號布達ヲ以テ凡ソ官報ニ登載シタルモノハ新聞紙條例ニ依リ記載スルヲ得サル者ト雖モ各新聞紙ニ於テ其文ヲ抄録スルヲ禁許サレタリ既ニ新聞紙ニ於テ差許サレ候上ハ出版圖書ト雖モ勿論差聞無之儀ト相考候ニ付官報ヨリ抄録シテ出版スルモノハ總テ右布達ニ準シ取扱可然哉  
指令 伺之通 十七年十月二日

● 沿革要領

明治元年閏四月布告ヲ以テ官許ヲ經スシテ刊行スル書類ハ發賣ヲ禁ス○同年六月二十日書物ヲ開放セントスル者ハ草案ヲ學校官ニ出シテ許可ヲ受ケシム○二年正月布告圖書開版ノ出願

並其免許規則ヲ定ム○同年六月布告ヲ以テ出版條例ヲ定メ昌平開成ノ兩校へ出願セシム○三年二月廿二日布告ヲ以テ大學所管ノ圖書准列ノ事務ヲ大史ノ管理ニ屬ス仍テ新刻ノ書ハ史局ニ願出シム○四年八月四日布告ヲ以テ圖書准列ノ事務ヲ文部省ノ管理トス○五年正月十三日文部省布達ヲ以テ出版條例ヲ改正ス○同年三月第九十號布告ヲ以テ兵書ヲ出版セント欲スル者ハ陸海軍兩省ニ出願セシム○五年三月第九十三號布告ヲ以テ教養ニ係ル書籍ノ出版ハ教部省ニ願出シム○八年六月第百十二號布告ヲ以テ文部省管理衛生准列ノ事務ヲ內務省ノ管理ニ屬シ右關係ノ體願ハ內務省ニ提出サシム○八年九月第三十五號布告ヲ以テ五年文部省布達出版條例ヲ廢シ更ニ出版條例ヲ定メ此條例發行ノ日ヨリ出版ニ關スル從前ノ布告布達ハ一切之ヲ取消ス

第六十七 寫真條例 明治九年六月十七日  
第九拾號布告

寫真條例別紙ノ通相定候條此旨布告候事

(別紙)

寫真條例

第一條 凡人物山水其他ノ諸物象ヲ寫シテ專賣ヲ願出ル者ハ五年間專賣ノ權ヲ與フヘシ之ヲ寫真版權ト稱ス

但之ヲ願ハサル者ハ別段届出ルニ及ハス

第二條 版權ヲ得タル寫真ニハ必ス每葉寫主ノ標號及ヒ定價并ニ版權免許ノ年月ヲ記載スヘシ



第三條 版權ヲ得タル者ハ寫真一版ニ付三葉ヲ納メ仍ホ免許料トシテ一版ニ付十二葉ノ定價ヲ納ムヘシ之ヲ納メサル前ニ發賣スルヲ許サス

第四條 出版條例第七條第十三條第二十一條ノ第二項第二十二條第二十三條第二十四條及第二十六條ハ寫真版權ニ適用スヘシ

但出版條例第二十六條但書ノ手数料ハ一版ニ付六葉ノ定價ヲ納ムヘシ凡ソ願屆等ノ手續モ總テ出版條例ニ依ルヘシ

第五條 凡ソ圖書ヲ寫真スル者ハ翻刻出版ノ例ニ倣ヒ都テ出版條例ニ依ルヘシ

第六條 第三條ヲ犯シ若クハ情ヲ知テ轉賣スル者ハ其現存ノ寫真ヲ沒收シ壹圓ヨリ少カラス十圓ヨリ多カラサルノ罰金ヲ科シ仍ホ版權ヲ追奪スヘシ

第七條 他人ノ版權ヲ侵シ寫真ヲ覆寫シ又ハ免許ノ名ヲ冒認シ及ヒ之ヲ發賣シ若クハ情ヲ知テ轉賣スル者ハ現存ノ寫真ヲ沒收シ二圓ヨリ少カラス二十圓ヨリ多カラサルノ罰金ヲ科シ仍ホ原主ノ損害ヲ償ハシム

但原主ヨリ訴出ルニアラサレハ受理セズ

第六十八 新聞紙條例 明治十六年四月十六日 第拾貳號布告

新聞紙條例別冊ノ通改正ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

新聞紙條例

第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ其發行所ノ管轄廳東京府ハヨ經由シテ內務卿ニ願出テ准許ヲ受ク可シ

時々ニ刷行スル雜誌雜報ノ類ハ皆此條例ニ依ル

第二條 新聞紙發行ノ願書ハ左ノ事項ヲ掲ケ持主若クハ社主ヨリ差出ス可シ

- 一 題號
- 二 記載ノ種目政治法律農工商業等ノ類
- 三 刷行ノ定期又ハ無定期毎日毎週毎月又ハ無定期ニシテ逐號發行スル者
- 四 發行及印刷所
- 五 持主若クハ社主及編輯人印刷人ノ屬籍身分氏名年齢住所

第三條 社長幹事其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラヌ新聞紙ニ署名スル者ハ總テ持主社主ノ例ニ依ル

第四條 新聞紙ノ題號記載ノ種目又ハ持主社主ヲ變更セントスルトキハ更ニ管轄廳東京府ハ經由シテ內務卿ニ願出テ准許ヲ受ク可シ

前項ノ外第二條ノ願書ニ掲ケ可キ事項ニ於テ變更アルトキハ七日以内ニ管轄廳東京府ハ

ニ届出ツ可シ

第五條 持主若クハ社主死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ假ニ持主社主ヲ定メテ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得但七日以内ニ管轄廳東京府ハヲ經由シテ内務卿ニ願出テ准許ヲ受ク可シ

第六條 編輯人印刷人ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第七條 内國人ニシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非サレハ持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス

公權ヲ剝奪セラレタル者ハ持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス公權ヲ停止セラレ及演説ヲ禁止セラレタル者其停止禁止間亦同シ

第八條 新聞紙ノ發行ヲ願出ツルトキハ保証トシテ左ノ金額ヲ納ム可シ但專ラ學術技術統計及官令又ハ物價報告ニ係ル者ハ此例ニ在ラス

一 東京ニ於テハ千圓

一 京都大坂横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓

一 其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓

一 一月三回以下發行スル者ハ各前項ノ半額

第九條 保証金ハ持主若クハ社主ヨリ爲替方又ハ銀行ノ預手形或ハ時價ニ準シタル公債證書ヲ以テ管轄廳東京府ハニ納ム可シ

新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ禁止セラレタルトキハ保証金ヲ還付ス

第十條 新聞紙發行ノ准許ヲ得タル日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルトキハ其准許ノ効ヲ失フ者トス

刷行ノ定期ニ發行セサルトキハ七日以内ニ休業ノ旨ヲ管轄廳東京府ハニ届出ツ可シ休業届出ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ再ヒ發行セサル者亦前項ニ同シ

無定期ノ新聞紙前號刷行ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサル者亦同シ

第十一條 新聞紙ハ每號ニ持主若クハ社主及編輯人印刷人ノ氏名并發行所ヲ記載ス可シ

第十二條 發行所ノ外ニ於テ發賣スル者ハ其發賣所及發賣人ノ氏名住所ヲ管轄廳東京府ハニ届出ツ可シ

第十三條 新聞紙ハ其刷行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳東京府ハ及本管始審裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ム可シ

第十四條 新聞紙ニ記載シタル事項治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スル者ト認ムルトキハ内務卿ハ其發行ヲ禁止若クハ停止スルコトヲ得

第十五條 各地方東京府ニ於テ於テ發行スル新聞紙前條ニ觸ル者ト認ムルトキハ府知事縣令ハ其發行ヲ停止シ内務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フ可シ

第十六條 新聞紙ノ發行ヲ禁止若クハ停止シタルトキハ内務卿ハ其新聞紙ヲ差押へ又ハ發賣ヲ禁シ其情重キ者ハ印刷器ヲ差押フルコトヲ得

府知事縣令ニ於テ停止ヲ命シタルトキハ其新聞紙ヲ差押ヘ及發賣ヲ禁スルコトヲ得ルモ  
内務卿ノ指揮ニ非サレハ印刷器ヲ差押フルコトヲ得ス

第十七條 一人又ハ一社ニシテ數個ノ新聞紙ヲ發行スル者一個ノ新聞紙ヲ停止セラレタル  
トキハ其停止中他ノ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得ス

第十八條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ關スル犯罪ハ持主社主編輯人印刷人及筆者譯者ハ共  
犯ヲ以テ論ス

第十九條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ關スル犯罪ハ其情狀ニ因リ裁判官ニ於テ犯罪ニ係ル  
新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得

其告訴發爲スニ際シ豫審判事檢察官警察官ハ裁判確定ニ至ル迄犯罪ニ係ル新聞紙ヲ  
差押フルコトヲ得

第二十條 裁判確定ノ日ヨリ七日以内ニ裁判費用及罰金ヲ納完セヌ又ハ損害ヲ賠償セサル  
トキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ可シ仍ホ足ラサルトキハ刑法第二十七條及第四十七條ニ依  
ル

保證金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ持主若クハ社主ハ管轄廳東京府ハノ  
警視廳通知ヲ得タル日ヨリ七日以内ニ其欠額ヲ納完ス可シ若シ納完セサルトキハ其新聞紙發行  
准許ノ效ヲ失フ者トス

第二十一條 准許ヲ得ヌ又ハ准許ノ效ヲ失ヒタル後私ニ新聞紙ヲ發行スル者ハ持主社主編

輯人印刷人各六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加シ仍  
ホ其發行シタル新聞紙ヲ沒收ス其禁止停止ノ處分ヲ犯シ及第十七條ニ違テ發行シタル者  
亦同シ

第二十二條 詐偽ノ願書若クハ屆書ヲ差出シタル者及第四條第一項第五條ニ違フ者ハ持主  
若クハ社主一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス編輯  
人印刷人情ヲ知ル者亦同ク處斷ス

前項ノ場合ニ於テ内務卿ハ其新聞紙ノ發行ヲ禁止若クハ停止スルコトヲ得

第二十三條 第四條第二項及第十條第二項第十一條第十二條第十三條ニ違フ者ハ持主若ク

ハ社主拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其第十一條ニ違フ者ハ編輯人印刷人亦同ク處斷ス

第二十四條 禁止セラレタル新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人ハ禁止ノ日ヨリ二年間持主社  
主編輯人印刷人トナルコトヲ得ヌ犯ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上  
二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

停止セラレタル新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人ハ停止間他ノ新聞紙ノ持主社主編輯人印  
刷人トナルコトヲ得ヌ犯ス者ハ前項ニ同シ

第二十五條 沒收若クハ差押ノ處分ヲ受ケ又ハ發賣ヲ禁止セラレタル後其新聞紙ヲ發賣又  
ハ頒布シタル者ハ發賣者頒布者受賣者ヲ問ハス各拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 新聞紙ニ記載シタル事項ハ其原稿ヲ刷行ノ日ヨリ三週間保存シ官署ノ訊問ニ

備フ可シ違フ者ハ編輯人拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付官署ヨリ其出所ノ訊問ヲ受ケタルトキハ之ヲ證明ス可シ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ

第二十八條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ニ於テ直ニ宣告ノ全文ヲ掲載ス可シ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ

第二十九條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付關係アル者ヨリ正誤ヲ求メタルトキハ其求ヲ得タルヨリ次回又ハ第三回ノ刷行ニ於テ別ニ一欄ヲ設ケ正誤ノ文ヲ掲載シ又ハ正誤ス可シ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ但其正誤ノ趣意法律ニ觸ル、者及之ヲ求メタル者ノ氏名詳ナラサルトキハ此限ニ在ラス

第三十條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ正誤ヲ載セタルトキハ關係アル者ノ求メナシト雖モ其官報又ハ新聞紙ヲ得タルヨリ次回又ハ第三回ノ刷行ニ於テ正誤スヘキコト總テ前條ノ例ニ依ル

官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ハ其官報又ハ新聞紙ノ題號并刷行ノ年月日ヲ掲載ス可シ違フ者ハ編輯人貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス十八年第二十號布告ヲ以テ至條ヲ改正追加ス

第三十一條 式ニ依リ宣布セサル公文及上書建白請願書ハ當該官司ノ許可ヲ得ルニ非サルハ之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三拾圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其大意ヲ録シ若クハ草按ヲ掲載スルモ亦同シ

第三十二條 官省院ノ議事及府縣會ノ傍聽ヲ禁シタル議事ハ詳畧ニ拘ラヌ之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ罰前條ニ同シ

第三十三條 重罪輕罪ノ豫審ハ公判ニ付セサル以前ニ之ヲ記載スルコトヲ得ス裁判官審判ノ議事及傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ辨論ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ罰前條ニ同シ

第三十四條 陸軍卿海軍卿ハ特ニ命令ヲ下シテ軍隊軍艦ノ進退及一般ノ軍事ヲ記載スルコトヲ禁スルコトヲ得其禁ヲ犯ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ三拾圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情重キ者ハ印刷器ヲ沒收ス

外務卿ハ外交上ノ事件ニ付特ニ命令ヲ下シテ記載ヲ禁スルコトヲ得其禁ヲ犯ス者ハ罰前項ニ同シ

第三十五條 新聞紙ヲ以テ人ヲ激唆シ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法ノ例ニ依ル其激唆ニ止マル者ハ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減ス

第三十六條 刑法第二編第一章ノ刑ニ觸ル、者ハ印刷器ヲ沒收ス

第三十七條 政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタル者ハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ百圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其第三十五條ニ觸ル、者ハ重ニ從テ處斷ス

本條ヲ犯ス者ハ其印刷器ヲ沒收ス

第三十八條 成法ヲ誹毀シテ國民法ニ違フノ義ヲ亂ル者及顯ハニ刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論ヲ爲ス者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十九條 猥褻ノ文辭圖書及誹謗ヲ寓シタル戲畫ヲ掲載スルコトヲ得ス犯ス者ハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第二十九條ノ場合ニ於テ被害者ノ私事ニ係ル者ハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四十一條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十二條 外國ノ新聞紙及書籍ヲ譯出シ新聞紙ニ記載スル者亦此條例ニ依ル

附則

現今發行ノ新聞紙ハ東京府下ハ此條例發布ノ日ヨリ其他ノ地方ハ到達ノ日ヨリ三十日以内ニ此條例ニ從ヒ願書及保證金ヲ管轄廳東京府ハ警視廳ニ差出ス可シ若シ期限内ニ差出サハルトキハ准許ノ効ヲ失フ者トス其願書及保證金ヲ差出シタル者ハ引續發行スルコトヲ得

○官報ニ登載シタルモノノ新聞紙ニ登載方明治十六年六月二十二日 第貳拾壹號布達

凡ソ官報ニ登載シタルモノハ新聞紙條例ニ依リ記載スルコトヲ得サル者ト雖モ各新聞紙ニ於テ其文ヲ抄録スルコトヲ得

官報ニ於テ新聞紙ニ記載シタル事項ノ誤ヲ正ストキハ新聞紙條例第二十九條ニ從ヒ正誤ノ全文ヲ登載スヘシ  
右布達候事

○官吏タル者私ニ新聞紙等ニ政務ヲ叙述スルヲ禁ス明治八年七月七日 第百九號院省(使)廳府縣へ達

凡ソ官吏タル者官報公告ヲ除ク外新聞紙又ハ雜誌雜報等ニ於テ私ニ一切ノ政務ヲ叙述スル事不相成候條此旨相違候事  
但百般學科ニ係ル叙述ハ此限ニアラス

○公文ヲ新聞紙ニ掲載スルヲ禁ス明治八年九月十二日 第百五拾八號院省(使)廳府縣へ達

自今各廳事務ニ係ル上申往復等ノ公文ヲ新聞紙ニ掲載候條不相成候此旨相違候事

○他ノ新聞紙ノ論說ヲ新聞紙ニ轉載方明治十八年五月二十三日 內務省甲第拾七號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ達  
新聞紙ニシテ他ノ新聞紙(歐文新聞ヲ除ク)ニ掲載スル論說ヲ十日以内ニ其新聞紙ニ轉載スルハ必ス原新聞紙ノ持主又ハ社主ノ承諾ヲ要セシメ候條現ニ發行ノ新聞紙ハ直チニ向後發行セントスルモノハ出願ノ際其旨持主又ハ社主ハ相違左ノ書式ニ準シ受書ヲ徵シ當省へ進達可致此旨相違候事  
但豫メ轉載ノ目的ヲ定メ發行スルモノハ別ニ本文原新聞持主又ハ社主ノ承諾證爲差出受書一同進達候條ト心得ヘシ  
(書式略之)

● 伺指令

●新聞條例違犯者ノ備ニ付神戸始審裁判所檢事ヨリ司法省へ伺(電) 十六年十二月廿六日

新聞持主編輯人條例ニ違犯シ牒刑ニ處セラレ上告保釋中尙ホ其新聞ニ署名スルヲ得ルヤ直ク御指令ヲ待ツ  
指令 十六年十二月廿八日

新聞持主編輯人上告中新聞ニ署名スルヲ得ルヤノ件伺ノ趣右ハ署名スルヲ得ル儘ト心得可シ

● 沿革要領

明治元年六月九日布告ヲ以テ官許ヲ得サル新聞紙等ノ刊行販賣ヲ禁ス○六年四月第百三十一號達ヲ以テ在官ノ者官事及外務交際ノ妨碍ト爲ル事等ヲ新聞紙ニ掲載スルヲ禁ス○同年十月第三百五十一號布告ヲ以テ新聞紙發行條目ヲ定ム○八年六月第百一十一號布告ヲ以テ新聞條例ヲ改定シ新聞紙

條目ヲ廢ス○同年七月第百十九號達ヲ以テ官吏タル者官報公告及百般學術ヲ除クノ外一切ノ政務ヲ私ニ新聞紙等ニ叙述スルヲ禁ス○同年九月第百五十八號達ヲ以テ各廳事務ニ係ル上申往復等ノ公文ヲ新聞紙ニ掲載スルヲ禁ス○九年七月第九十八號布告ヲ以テ已ニ准允ヲ受ケタル新聞紙雜誌雜報ノ國安ヲ妨害スルト認ムルモノハ內務卿ニ於テ其發行ヲ禁止シ又ハ停止スルヲ得セシム○十三年十月第四十五號布告ヲ以テ前令ヲ改正シ已ニ官許ヲ得タル新聞紙雜誌雜報ノ國安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認メタルトキハ內務卿於テ其發行ヲ禁止シ又ハ之ヲ停止ス○十六年四月第十二號布告ヲ以テ新聞紙條例ヲ改正ス

第十類 社寺

第六十九 神社佛寺古來所傳ノ什物並寄附ノ諸器祠堂金等ノ類處分方

明治六年七月十七日  
第貳百四拾九號布告

神社佛寺共古來所傳ノ什物並寄附ノ諸器並ニ祠堂金等ノ類ハ神官僧侶ハ勿論氏子檀家ノモノタリ且自儘ニ處分可致筋無之候條若不得已備有之候ハ、委詳具狀ヲ以テ敎部省へ可申立候此旨布告候事

○社寺ニ於テ金穀借入方 明治十年五月十六日  
第四拾三號布告

神社並寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ル、トキ若クハ金穀ヲ借入ル、爲メ社寺附地所除稅地ヲ外建物什器 寶物古文書類等ヲ抵當トナストキハ必ス氏子檀家ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ若シ此連署ナキトキハ總テ該社寺神官僧侶ノ私債ト看做シ縱令右ノ抵當アルモ其効ナキモノト爲スヘシ

此旨布告候事

○寺院什物帳調製方 明治六年三月五日  
第八拾九號布告

今般僧侶身代限規則被相定候ニ付テハ寺院所有ノ田園建造物諸器什檀家ヨリ寄附ノ分又ハ法用ニ必用ナル分並ニ古來傳承ノ寺寶等ノ部分判然相立不申候テハ差支候條左ノ規則

九年第五拾八號布告ヲ以テ有方ヲ定ムル旨布告候事  
第十七年八月第十九號布告  
長ニ委任ノ條件中寺院ノ屬スル古文書類什器ノ類ヲ保存スルノ項目ヲ掲ク

ニ從ヒ寄附帳什物帳相綴リ置可申候  
一寄附帳ニハ何年何月何誰寄附ノ田園反別建造物坪數諸器物ノ質分ニ至ルマテ詳細ニ記載スヘシ

一什物帳ニハ法用ニ必要ノ分並ニ寺寶ヲ區別シ記載スヘシ  
一右二帳二部ツ、相綴リ檀家法類共兩人以上並ニ其地ノ戸長検査ノ上各姓名ヲ署シ之レニ調印シ一部ハ戸長役場ニ藏シ一部ハ其寺院ニ藏シ置ク可シ  
右之通相違候事

○神社佛寺持添ノ田畑山林寄附金古文書類處分ニ付心得方  
明治九年二月二日 教部省達書第三號府縣へ達  
神社佛寺共古來所傳ノ什物等處分ノ備明治六年七月第貳百四拾九號公布ノ趣有之ニ付テハ持添ノ田畑山林並寄附金又ハ古文書類共總テ右公布ニ照準シ處分可致ハ勿論ニ候條此旨爲心得相違候事

○府縣社以下神社什物取締方  
明治十年七月五日 內務省甲第拾三號布達  
府縣社以下神社什物之儀自今左之通相心得取締可致此旨布達候事  
一什物ハ各部類ヲ分チ其品柄員數等詳細牒簿ニ記載シ尚他ノ寄附ニ係ルモノハ其年月姓名等ヲモ記入スヘシ

第一類 寶物古文書  
第二類 祭具什器並持添之田畝附屬之建物等  
右牒簿二部ツ、編製神官並氏子氏子無之向ハ總代二名以上尚該地之區戸長連署調印一部ハ區戸長役所へ一部ハ其社へ藏メ置ヘシ

○社寺什物取締方  
明治十二年五月十九日 內務省乙第貳拾貳號府縣へ達

社寺寶物古文書等之儀ハ各管廳ニ於テ取締相立厚ク保護可致等ニ有之就テハ各管內府縣社以下神社并寺院共所藏ノ寶物古器物古文書類別紙書式ニ照準取調目錄帳爲差出調査之上本年十月限取調當省へ可届出此旨相違候事

別紙

書式

其(神社寺院)寶物古器物古文書目錄

一緣起書 幾卷

一撰者及ヒ筆者ノ姓名并ニ其年月ヲ記ス

一文書 幾通

一百年以上若クハ名家ノ筆ニ係ルモノニテ文書ト稱スヘキ者ハ一々其目ヲ掲ケ撰者筆者年月寄附人并傳來ノ所由ヲ記ス(以下扁額ニ至ルマテ)

一記ス(記載方皆之ニ準ス)

一書函或ハ繪卷物 幾幅或ハ幾卷

一絹地紙地彩色墨畫等ノ別ヲ記シ繪圖等記載方都テ前ニ準ス

一寫本或ハ寫經 幾本

一格別貴重ナルモノハ行數紙數等ヲモ詳細ニ記載スヘシ

一扁額 一面

一寸法ヲモ記ス

一棟札 一枚

一年月及ヒ人名ヲ記ス

一號 一面

銘(若クハ)寸法 形 鑄文 重量 年月寄附人傳來ノ所由等ヲ記ス(已下記載方皆之ニ準ス)

第十類 社寺

- 一 鈴 一箇
- 一 劍 一口
- 燒刃器具ノ地金模樣 (銘アラ) 等ヲモ記ス
- 一 古金 一枚
- 一 古錢 一枚
- 一 古印 一顆
- 印文 鈕 形等ヲモ記ス
- 一 甲冑 一副
- 札成シ毛等ヲモ記ス
- 一 琴 一張
- 一 笛 一管

此他古書籍 百年以上若クハ名古法帖 明朝摺以上 武器文具樂器珠玉石劍等ニ至ル迄各部ヲ分ケ類ヲ推シ書式ニ照ラン  
 テ記載スヘシ且其金銀銅開ニ係ルモノハ其重量等詳細ニ記センヲ要ス  
 右之通御座候也

何府 管下  
 何縣 郡何町  
 何國 郡何村  
 何神社 祠官家宗  
 派何寺院 任職  
 職名 姓名 印  
 右神社氏子或ハ崇敬人寺總代  
 院檀家信徒或ハ法類

右調査候處相違無之候也

年 月 日

何府 縣 印

右町戸長

姓名	姓名	姓名
印	印	印

○社寺ノ什物並地所建物等ノ類抵當其他處分方

明治十二年七月十四日

本年當省ノ第貳拾貳號ヲ以テ社寺賣物古文書保護之儀相違候ニ就テハ今般調製スヘキ目録帳中へ記載ノ物品ハ明治十  
 年第四拾三號公布之通抵當ト爲スヘカラサル筋ニ有之候テ自今社寺ニ於テスル抵當ハ氏子檀家協議之書面ヲ以テ一應  
 管廳へ申出サセ調査ノ上至ク賣物古文書ニアラサル分ニ限リ認可スヘシ此旨相違候事

但目録帳へ記載セスト雖モ該社寺ニ別段ノ由緒アル地所建物等ハ賣物古文書ニ准スヘク且社寺ノ物件不得已備有之  
 處分候節ハ明治六年第貳百四拾九號公布同九年敕部省第三號達書之通心得ヘシ

○社寺總代人ヲ置キ社寺ノ願届等ニ連署セシメ且收入財産等取調方

明治十四年七月二十一日

各管内社寺總代人之儀氏子檀家中 氏子檀家ナキ 相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上相撰ミ戸長役場へ届出サ  
 七今後該社寺ノ願届等ハ渾テ連署ヲ以可爲差出且社寺收入財産ハ 田畑山林ノ所得ハ勿論賣物祈禱費 其共有ニ屬スヘキ  
 モノト其神官任職ニ付スルモノトノ豫約毎社寺適宜相定平素混亂セサル様取調方可爲致此旨相違候事  
 但神宮官國幣社ハ非此限

○町村鎮座氏神氏子去就禁否處分方

明治十五年五月一日

各町村鎮座氏神ノ儀ハ其土地ニ就キ從來一定ノ區域有之儀ニ付各自ノ信否ニ任セ狼ニ去就スヘキモノニ無之候條町村



分合等ニヨリ不得已場合有之甲社ノ氏子一部落集テ乙社ノ氏子ト相成節ハ甲乙社神官氏子協議ノ上雙方連署爲届出明  
細帳引直シノ儀當省へ可申出此旨相違候事  
但雙方協議不整節ハ受理スヘカラサル儀ト心得ヘシ

○寺院附屬ノ地所建物什物抵當賣買其他財産ニ關スル諸願ハ管長ノ添書ヲ要ス 明治十七年  
十月三十日

内務省乙第三拾  
七號府縣へ達

一神佛教務所 教院教會所法務所 設教所ノモ 八國並宗派ニ分テ六月三十日十二月三十一日ノ現數半年毎ニ取調翌七  
月一月兩度ニ當省へ差出ス可シ  
一祠宇並寺院創立再興復舊引直移轉廢合及附屬ノ地所建物什物抵當賣買其他賣物古文書等財産ニ關スル諸願ハ 寺院ハ  
管長ノ添書ヲ要ス可シ

右相違候事  
○祠宇寺院ノ廢立及財産ニ關スル諸願ハ管長ノ添書ヲナサシム 明治十七年十月三十日  
内務省乙第三拾八號府縣へ達  
別紙戊辰式號ノ通神佛各管長へ相違候條第二項ノ件出願許可又ハ届出ノ分共月未取調ノ當省へ可届出此旨相違候事  
別紙 戊辰式號  
一教院僧侶ノ現數ハ華族士族平民ニ分テ半年毎ニ取調翌一月七月兩度ニ當省へ届出ツ可シ

但東京ノ教務所ニハ全國教院僧侶ノ姓名及各地方教務所設教所ノ所在等ヲ詳記セル帳簿ヲ備置クヘシ  
一教務所 設教所ノ類 設教所ノ行フモノ取設ハ從前ノ手續ヲ履ミ地方廳へ願出其移轉廢合ハ届出ツ可シ  
但教務所ニハ教院ノ姓名ヲ詳記セル帳簿ヲ備置ク可シ

一祠宇並寺院ノ廢立及財産ニ關スル諸願ハ管長添書ス可シ  
一寺院任職進退ハ其都度地方廳へ届出ツヘシ

十八年内務省  
丁第二號達  
ノ現數ハ自今  
十一月現數ヲ  
以テ翌一月三  
十一日限リ差  
届出サシム

右相違候事

第七十 社寺境内樹木伐採方

明治六年七月二日  
第貳百三拾五號布告

社寺境内ノ樹木ハ假令其社寺修繕等ニ相用ヒ候共猥ニ伐木不相成候若シ難止事情有之節ハ  
其地方廳へ願出許可ヲ可受事

○社寺伐木取扱概則 明治十五年八月二日  
内務省府縣へ達

社寺境内樹木伐採之儀ハ明治六年第貳百三拾五號公布並八年第百七號公達九年當省並教部省第拾貳號達十二年當省乙  
第三拾三號達之趣有之官有地ニ係ルモノハ當省エ伺出處分ニ答ニ候處近來修繕之爲メ多分之伐木願出候向モ有之然ル  
ニ社寺境内ハ修繕用材培植ノ地ニ無之數百年來之古木一朝地ヲ拂ヒ遂ニ風致ヲ毀損スル向モ不少候條自今請願之節ハ  
不得止分ニ限リ別紙條規ニ照シ取扱候條右廉々調査之上可伺出此旨爲心得示達候事  
但懸限リ處分ニ係ル民有地第二種ハ勿論民有地第一種ニアル社寺境内樹木ト雖モ本文之振合ヲ以取扱フヘシ

別紙

社寺境内伐木取扱概則

- 第一條 社寺境内木ヲ五類ニ分テ風致木 目通寸間ニテ第一類トシ目通り壹丈以上ヲ第二類トシ同五尺以上ヲ第三類ト  
シ同壹尺以上ヲ第四類トシ同壹尺未満ヲ第五類トス
- 第二條 第一類第二類之木ハ伐採ヲ許サス
- 第三條 第三類ハ總木數十分ノ一拾本ニ第四類ハ同十分之二拾本ニ以內伐採ヲ許スアルヘシ
- 第四條 第五類ハ別ニ分道ヲ定メス生立ノ爲メ伐採ノ外伐採ヲ許サルモノトス

第十類 社寺

十七年内務省  
乙第三拾號達  
以テ社寺財産  
ニ關スル諸願  
ハ(寺院ハ本  
寺法類連署)  
管長ノ添書ヲ  
要スヘキ旨ヲ  
達ス(第百五  
十五ノ十項)

第五條 社ハ本殿拜殿寺ハ本堂庫裏之造修用材ニ限リ第三條ニ據ルモノトス  
但必ス仕様書具申セシム

第七十一 神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免シ及教師ノ等級ヲ進退

スルコトヲ管長ニ委ス 明治十七年八月十一日 第拾九號布達

自今神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免シ及教師ノ等級ヲ進退スルコトハ總テ各管長ニ委任シ左ノ條件ヲ定ム

第一條 各宗派妄リニ分合ヲ唱ヘ或ハ宗派ノ間ニ爭論ヲ爲ス可ラス

第二條 管長ハ神道各派ニ一人佛道各宗ニ一人ヲ定ム可シ

但事宜ニ因リ神道ニ於テ數派聯合シテ管長一人ヲ定メ佛道ニ於テ各派管長一人ヲ置クモ妨ケナシ

第三條 管長ヲ定ム可キ規則ハ神佛各其教規宗制ニ由テ之ヲ一定シ内務卿ノ認可ヲ得可シ

第四條 管長ハ各其立教開宗ノ主義ニ由テ左項ノ條規ヲ定メ内務卿ノ認可ヲ得可シ

一 教規

一 教師タルノ分限及其稱號ヲ定ムル事

十八年内務省  
丁第一號達ヲ  
以テ教規宗制  
認可シテ上ハ從  
前認可シタル  
教規宗制ノ部

類ハ總テ其效  
ヲ失フ旨ヲ達  
ス

一 教師ノ等級進退ノ事

以上神道管長ノ定ム可キ者トス

一 宗制

一 寺法

一 僧侶並ニ教師タルノ分限及其稱號ヲ定ムル事

一 寺院ノ住職任免及教師ノ等級進退ノ事

一 寺院ニ屬スル古文書寶物什器ノ類ヲ保存スル事

以上佛道管長ノ定ム可キ者トス

第五條 佛道管長ハ各宗制ニ依テ古來宗派ニ長タル者ノ名稱ヲ取調ヘ内務卿ノ認可ヲ得

テ之レヲ稱スルコトヲ得

右布達候事

○管長身分取扱 明治十七年八月十一日 第六拾八號神佛各宗派一般へ達

管長身分ノ儀ハ總テ勅任官取扱ノ例ニ依ル

○從前ノ教導職タリシ者身分取扱方 明治十七年八月十一日 第六拾九號神佛各宗派一般へ達

今般教導職廢セシ候ニ付テハ從前教導職タリシ者ノ身分ハ總テ其在職ノ時ノ等級ニ準シ取扱フ者トス

右相達候事

十七年第七拾  
號ヲ以テ第六  
拾八號第六拾  
九號達ノ旨ヲ  
官省院廳府縣  
へ達ス

○盲僧取締方 明治八年七月十二日 教部省達書第拾九號府縣へ達

元青蓮院配下盲僧ノ儀者總テ天台宗ニ於テ所轄取締可致候其管長へ達置候條此旨爲心得相違候事 八年達書第三十五號省達ヲ以テ但書

加追

○盲人ニ非スシテ盲僧ノ業ヲ營ムヲ禁ス 明治十三年七月十二日 内務省第拾貳號府縣へ達

明治八年教部省第拾五號盲僧之儀ニ付達書自今相應候條此旨相應候事 但盲人ニ非スシテ該案相違候儀ハ不相成筋ニ候事

●沿革要領

明治元年九月十八日布告ヲ以テ僧侶ノ妄リニ復歸スルヲ止ム○三年八月九日寺院任職編目從前本寺本山ニ於テ取扱來ル處自今管轄地方官へ掛合取計ハシム○同年十二月廿六日布告ヲ以テ宗規僧風ヲ釐正スル旨ヲ各本寺本山ニス○四年六月十九日布告ヲ以テ自今僧尼トナラントスル者ハ地方官へ出願許可ヲ受ケシム○同年十月廿八日布告ヲ以テ普化宗ヲ廢シ任僧ヲ民籍ニ編入ス○五年二月第六十三號布告ヲ以テ從來承宣旨ヲ以テ諸寺院ニ許シタル僧位僧官ヲ廢ス○同年三月十四日一向宗ヲ眞宗ト改稱ノ旨ヲ達ス○同年四月第百三十二號布告ヲ以テ教導職ヲ置キ等級ヲ定ム○同月第百三十三號布告ヲ以テ僧侶肉食禁帶等ヲ許ス○同月廿八日教部省達ヲ以テ教則三條ヲ定メ教導職ノ職ヲシテ該教則ヲ奉體シテ布教セシム○同年五月教部省第一號達ヲ以テ僧侶得度及歸俗任職編目ノ類ハ教部省ノ指揮ヲ受ケシム○同年六月教部省第四號達ヲ以テ各宗ニ管長一名ヲ置キ一宗未派ヲ取締ラシム○同年七月教部省第九號達ヲ以テ中本寺以上ヲ除クノ外寺院任職編目等ハ本寺本山或ハ欄頭法類等ヨリ添書ヲ以テ地方官ニ於テ進退セシム○同年八月第百二十號ヲ以テ神官ノ職總テ教導職ニ補ス○同年八月第百二十七號布告ヲ以テ僧官ヲ廢ス○同月教部省第十三號達ヲ以テ教導職七級以下試補ヲ置ク○同年九月七日教部省達ヲ以テ各部 諸宗派教導職取締ノ爲メ幹事一人ヲ置ク○同月十五日教部省達ヲ以テ幹事ヲ管車ト改ム○同月第百七十三號布告ヲ以テ修驗宗ヲ廢シ宗派ノ者

ハ天台眞言ノ兩本宗ニ歸入セシム○同月第百七十四號布告ヲ以テ法相華嚴律儀學融通念佛ノ五宗其他諸宗ノ別派等ヲ各望ノ宗ニ入ラシメ惣本山ノ所轄トス○同年十月三日教部省達ヲ以テ各宗ニ教導職管長ヲ置キ一宗一人ト定ム○同月教部省第廿三號達ヲ以テ教導職管車事務章程ヲ定ム○同年十一月第百三十四號布告ヲ以テ總本山ヲ除クノ外無檀ニシテ無任ノ寺院ヲ廢ス○六年一月廿七日達ヲ以テ元門跡比丘尼御所無任ノ向自今任職ヲ許ス○同年二月教部省第七號達ヲ以テ無檀ニシテ有任ノ寺院今後無任トナルモノハ教部省經伺ノ上ニ非サレハ廢止ヲ許サス○同月教部省第十號達ヲ以テ神官僧侶ニ不限三條ノ綱領ニ基キ布教筋有志ノ者ハ一般ニ教導職ニ補ス○同年三月廿九日金剛峯寺教王護國寺ノ兩刹ヲ以テ古義眞言宗惣本山ト定ル旨ヲ達ス○同年八月文部省第百十五號布達ヲ以テ學校教師ヲ教導職ニ兼シムルヲ禁ス○同月三十日教部省達ヲ以テ日蓮宗ハ總本山ナキニ依リ法務等管長ニテ統轄セシム○同月教部省第廿八號布達ヲ以テ諸寺院廢合等其本寺及法類檀家等ノ添書ナキモノハ採用セス○同年十二月教部省第三十五號達ヲ以テ教導職七級以下ノ階級ヲ廢シ總テ教導職試補トス○七年一月教部省第一號布達ヲ以テ寺院任職本山本寺ノ向ハ教部省ニ於テ辭令書ヲ交付ス○同年二月教部省第二號布達ヲ以テ融通念佛宗ノ特立ヲ許ス○同月教部省達書第二號ヲ以テ禪宗中臨濟曹洞ハ更ニ其宗名ヲ稱シ普賢派ハ臨濟宗ニ合附セシム○同年三月教部省達書第第三號達ヲ以テ教徒取締ノ都合ニ依リ各宗派ニ管長ヲ置クヲ許ス○同年教部省達書第三號達ヲ以テ寺院任職進退ノ儀中本寺以下モ本年布達第一號ニ準シ地方官ニ於テ辭令書ヲ交付セシム○同年五月教部省第三號布達ヲ以テ寺院輪番任職ノ制ヲ廢シ本任職ヲ置カシム○同年七月教部省達書第第三十二號達ヲ以テ各地方教導職取締講義以下本職ノ者へ申付シム○同月教部省達書第三十一號達ヲ以テ自今教導職試補以上ニアラサレハ寺院任職ヲ許サス○同月教部省達書第第三十九號達ヲ以テ現今一寺任職ニテ無職ノ者ハ教導職試補ニ任シ其任シ難キモノハ退職セシム眞宗等初野ノ輩ハ其本法類へ兼任願出退テ本人成立ノ上任職セシム○八年五月教部省達書第第四號達ヲ以テ神佛各宗派合併布教ヲ停止ス○同年七月教部省達書第第九號達ヲ以テ各府縣ノ内寺名ヲ一山ノ總稱トシ無任ノ寺

院ハ教導道任ノ者ヲ選ヒ任職願出シム○同年八月教部省達書第七十三號達ヲ以テ各宗從來遵守スル宗規ヲ具申セシム○同年十一月教部省達書第五十一號達ヲ以テ淨土宗教導職試補年限ヲ定ム○九年二月教部省達書第四號達ヲ以テ實業派ヲ實業宗ト稱シ別立ヲ許ス○同月教部省達書第七號達ヲ以テ日蓮宗中一致派ヲ單ニ日蓮宗ト稱シ勝劣派ハ五派別立ヲ許シ各管長ヲ置ク○同年四月教部省第三號布達ヲ以テ日蓮宗中不交不施派自今派名再興布教ヲ許ス○同年五月教部省達書第十八號達ヲ以テ各寺院ニ副任職ヲ置クヲ許ス○同年九月教部省達書第廿七號達ヲ以テ臨濟宗九派ハ各管長ヲ置クヲ許ス○同月教部省達書第廿八號達ヲ以テ眞宗本願寺末派興正寺ハ別立ヲ許ス○同月教部省達書第三十號達ヲ以テ淨土宗西山派ヲ別立シ管長ヲ置クヲ許ス○十年四月内務省第七號達ヲ以テ眞宗各派ニ各管長ヲ置クヲ許ス○十一年二月内務省第十號達ヲ以テ眞宗毫攝寺外ニ寺派名公稱別立ヲ許ス○同年三月内務省第七號達ヲ以テ淨土宗中寺院ヲ西東二部ニ分テ各自管長ヲ置クヲ許ス○同年五月内務省第三十九號達ヲ以テ天台宗中眞盛派ニ管長ヲ置クヲ許ス○同月眞言宗仁和寺外七寺ヲ該宗西部ト稱シ別ニ管長ヲ置クヲ許ス○同年十一月内務省第八十五號達ヲ以テ眞言宗古義新義兩派分離管長別置ヲ許ス○同月眞宗厚照寺派名公稱別立ヲ許ス○十二年四月内務省第三十四號達ヲ以テ眞言宗各部派分離管長別置ヲ許ス○一管長ト定ム○十二年七月内務省第三十四號達ヲ以テ寺院進退ノ節辭令書交附ヲ廢シ自今任職進退出願手續ヲ定ム○同年十月内務省第四十六號達ヲ以テ年齡二十歳未満ノ者ヲシテ教導職試補申付ノ節ハ許可ヲ受ケシム○十三年四月内務省第十六號ヲ以テ寺院任職進退等ノ處分方ヲ達ス○同年六月臨濟宗永源寺派公稱管長別置ヲ許ス○十五年一月内務省第七號ヲ以テ神官教導職兼補ヲ廢ス○十七年三月内務省第十四號ヲ以テ教導職試補申付方ヲ達ス○同年八月第十九號布達ヲ以テ神佛教導職ヲ廢シ寺院任職ヲ任免シ寺院ニ屬スル古文書什物等保管スルヲ管長ニ委任ス

**第七十二 僧侶肉食妻帶蓄髮等ヲ許ス** 明治五年四月二十五日 第三百三拾三號布告

自今僧侶肉食妻帶蓄髮等可爲勝手事  
但法用ノ外ハ人民一般ノ服ヲ着用不苦候事  
○比丘尼蓄髮肉食緣付ヲ許ス 明治六年一月二十二日 第三百二十三號布告  
壬申第三百二十三號布告僧侶肉食妻帶蓄髮等可爲勝手旨被仰出候ニ付テハ自今比丘尼ノ儀モ蓄髮肉食緣付歸俗等可爲勝手事  
但歸俗ノ輩ハ入籍致シ候上戸長へ可届出事  
○僧侶肉食妻帶勝手ナルノ公布ハ宗規ニ關係セシ譯ニ無之 明治十一年二月二日 内務省番外佛道各宗管長へ達  
明治五年四月第三百二十三號僧侶肉食妻帶等可爲勝手公布ノ儀ハ從前右等ノ所業ヲ禁止セシ國法ヲ廢セラレ候旨趣ニ止リ決シテ宗規ニ關係無之譯ニ候條此旨爲心得相達候事

**第七十三 僧侶托鉢禁止ノ達ヲ廢ス** 明治十四年八月十五日 内務省甲第八號布達

明治五年十一月一 教部省第廿五號達僧侶托鉢禁止之儀相達候條此旨相達候事  
但托鉢者ハ管長ノ免許證ヲ携帶スヘシ  
○托鉢免許方並托鉢者心得 明治十四年八月十五日 内務省第七拾八號府廳へ達  
今般度第二號ヲ以佛道各管長へ別紙之通相達候條萬一不都合之所業有之節ハ直ニ托鉢禁止願末詳細取調當旨へ可申出此旨相達候事  
(別紙)

佛道各宗派管長

內務卿松方正義代理  
內務大輔土方久元

戊辰二號輪廓附

僧侶托鉢解禁之儀今般別紙甲第八號布達候ニ付テハ自今左ノ條件遵守各宗派僧侶(教導職試補以上)ノ内托鉢ヲ爲サント欲スルモノ免許方法及取締規約取調可伺出此旨相達候事

明治十四年八月十五日

托鉢免許方并托鉢者心得

- 一 托鉢ヲ免許セシトキハ左ノ離形ニ照シ免許證ヲ交附シ其都度願者所在ノ地方廳へ通知シ東京ハ警視廳へモ通知スヘシ
- 一 托鉢ヲ行フハ午前第七時ヨリ同十一時迄ヲ限リトス
- 一 但遠路往返ノ爲メ時間ヲ遷延スルハ非此限
- 一 托鉢者ハ如法ノ行装ニテ免許證ヲ携帶シ行乞スルヲ常トス施者ノ請アルニアラザレハ人家ニ接近シ蓋リニ歩ヲ駐ムヘカラス且施物ハ施者ノ意ニ任セ敢テ餘物ヲ乞フヲ許サス
- 一 托鉢者ハ一列三人以上十人以下タルヘシ且公眾來往ノ便ヲ妨クヘカラス
- 一 免許證ハ何時タリトモ警察官等ノ檢閲ニ供スヘキモノトス

(標牌離形略之)

沿革要領

明治五年十一月敎部省第五號達ヲ以テ僧侶ノ托鉢ヲ禁ス○十四年八月內務省甲第八號布達ヲ以テ前令ヲ廢ス

第七十四 無檀ニシテ無住ノ寺院廢止方

明治五年十一月八日 第三百三拾四號布告  
諸寺院中總本寺本山ヲ除クノ外無檀ニシテ無住ノ向ハ自今渾テ被廢止候條各地方官ニ於テ

夫々廢寺處分ノ上宗名寺號共詳悉取調敎部省へ可届出候事

但佛像什器等ハ本寺法類ノ内最寄寺院へ合附爲致堂宇建物ノ儀ハ最初營造ノ次第ヲ追ヒ官營ハ公收シ私造ハ其人民所分ニ可相任官私ノ別不分明ノ向ハ適宜ニ取計ヒ趾地所置ノ儀ハ總テ大藏省へ可伺出候事

○寺院廢止處分方 明治八年十月二十七日 第四百八拾五號使府廳へ達

寺院合併廢止等ノ儀ニ付明治五年四月第三百三拾六號同月 第三百三十四號達ノ旨モ候處自今無檀無住ノ向ハ各管廳ニ於テ取調其他ハ寺檀出願ノ上號レモ敎部省へ伺出處分可致此旨更ニ相達候事

○社寺取扱概則 明治十一年九月九日 內務省第七拾七號府廳へ達

社寺取扱之儀左之通概則相定候條此旨相達候事

社寺取扱概則

第一條 社寺ノ創建ハ(民有地ニ建設スルモノ)神官任職氏子檀徒若クハ信徒ト爲ルヘキモノ(寺院ハ本寺法類トモ)連署戶長與書ヲ以テ願出承續財產ノ用途且其地所建社寺ノ體(社ハ本殿拜殿寺ハ本堂庫裏)ヲ具フル者ニ限リ免許スルヲ得ヘシ再興復舊等總テ之ニ準ス 十三年七月二十八號省達ヲ以テ(社寺ノ體)ノ下註文十二字ヲ加フ

第二條 同上移轉廢合並社寺號改稱ハ前條ノ手續ニ準シ其事由ヲ詳記シ願出ルモノニ限リ閉居毎月未取繼當省へ届出ヘシ尤廢合社寺址地並建物等處分方ノ儀ハ從前ノ通

第三條 社內社並道場引直及寺號公稱等ハ總テ第一條ノ手續ニ從ヒ願出承續用途并建物ノ體(堂宇ハ方六尺以上)ヲ具フルモノニ限リ閉居別紙書式ニ倣ヒ毎月未取繼當省へ可届出 同上(願出)ノ下註文共二十字ヲ加フ

第十類 社寺

十七年內務省  
第七十八號  
社寺法類トモ  
連署戶長與書  
ヲ以テ願出  
承續財產ノ  
用途且其地  
所建社寺ノ  
體(社ハ本  
殿拜殿寺ハ  
本堂庫裏)ヲ  
具フル者ニ  
限リ免許ス  
ルヲ得ヘシ  
再興復舊等  
總テ之ニ準  
ス 十三年七  
月二十八號  
省達ヲ以テ  
(社寺ノ體)  
ノ下註文十  
二字ヲ加フ  
(第七十八  
號)

第四條 前條々ノ外社寺例格ノ改定並社寺ニ關スル條件中例規ナキモノハ其都府當省ヘ伺出ヘシ

(別紙略之)

○無檀無任ノ寺院廢止處分手續 明治十二年一月十一日  
無檀無任ノ寺院廢止處分ノ儀ハ明治十一年當省シ第五十七號達第二條ノ手續ニ準シ其本法類等ヨリ廢合品願ノ上處  
分可致此旨更ニ相違候事

○廢合寺院跡地并建物處分規則 明治八年九月七日  
內務省シ第百拾三號府縣ヘ達

廢寺院處分之儀ニ付壬申第三百三十四號御達ノ趣モ有之候處自今廢合寺院跡地并建物處分規則別紙ノ通相定候條右規  
則ニ照準取調可申出此旨相違候事

別紙

廢合寺院跡地并建物處分規則

第一節

廢寺 無檀 無任

一 堂宇建物ハ最初官營私造及寺院先任僧侶ノ資金ヲ以テ建造セシモノハ別ヲ論セス官沒スヘシ 九年シ第七十號省達ヲ  
以テ但書共全項改正

但シ佛像什器處分ハ明治五年第三百三十四號達書ノ通りタルヘシ

一 境内地ノ内從前人民ノ名受ニテ貢租ヲ納メ来リシモノハ其者ヘ下渡シ寺院ノ名受カ先任僧侶ノ買得カ其他民有ノ確  
証ナキモノハ都テ官沒スヘシ

一 朱黒印地除地田畑山林等ノ内寺院ノ名受地ハ勿論村方百姓並ノ田畑等アリテ寺院ノ名受トナリタルカ又ハ先任僧侶  
ノ買得セシモノハ官沒スヘシ

但寺院并先任僧侶ノ資金ヲ以テ開墾セシ証跡アルモノト雖モ官沒スヘシ

一 人民ヨリ寄附ノ田畑アリテ貢租作徳共該寺ニ於テ處務致シ来レルモノハ即チ寺附ノ地面ニハ官沒スヘシ然シ寄附人  
ノ子孫再ヒソノ所有ヲ欲セハ相當代價ヲ以テ拂下ヘシ

但寄附セシ次第ニヨリ別段ノ契約アルハ此限ニアラス

第二節

廢寺 有任 無檀

一 現在職自己ノ財産ニ係ルモノノ外ハ第一節及第四節ニ照準シテ處分スヘシ

第三節

合寺 無檀 無任

一 堂宇建物ハ最初官營私造及寺院先任僧侶ノ資金ヲ以テ建造セシモノハ別ヲ論セス合スル所ノ寺院ニ附スヘシ 同  
上

一 境内地ノ内人民ノ名受ニテ貢租ヲ納メ来リシ者ハ其者ヘ下渡シ寺院ノ名受カ先任僧侶ノ買得或ハ開墾ノ確証アルモ  
ノハ合スル所ノ寺院ニ附スヘシ 官沒スヘシ

但萬一除稅地ノ山林ニ於テ先任僧侶自費ヲ以テ苗木植付等ノ確証アルハ立木ノミ合スル所ノ寺院ヘ下渡スヘシ  
一 人民ヨリ寄附ノ地アルハ合スル所ノ寺院ニ附スヘシ

第四節

合寺 有任 無檀

一 第三節ニ同シ但建物境内地田畑山林等ノ内萬一現在職ノ資金ヲ以テ建造シ或ハ買得開墾等ノ確証アルハ其者ノ意ニ  
任カスヘシ

第五節

合寺 有檀 無任

一 第三節ニ同シ但建物ハ檀中等ノ私費ヲ以テ造營セシモノ及ヒ境内地田畑山林等檀中ノ私費ヲ以テ買得シテ地租ヲ納  
メ来リシモノ或ハ開墾セシモノハ其合スヘキ寺院並ニ法類等トノ協議ニ任スヘシ

●沿革要領

明治三年十一月廿八日廢合等院ノ寺號並境内除地山林等ノ處分方ヲ地方ニ令ス○五年三月第百四號布告ヲ以テ社寺ヲ合併シ及其屬地ニ係ル處分ハ自今教部省ニ讓渡セシム○同年四月第百十六號布告ヲ以テ前令ヲ改ム○同年十一月第三百三十四號布告ヲ以テ諸寺院總本山ヲ除ク外無檀ニシテ無任ノ向ハ渾テ之ヲ廢ス○六年二月教部省第七號達ヲ以テ無檀ニシテ有任ノ寺院今後無任トナルモ教部省ノ稟議ヲ經サレハ廢スルヲ許サス○同年八月教部省第廿八號布達ヲ以テ諸寺院廢合出願書ニ本寺法類檀家等ノ添書ナキモノハ採用セス○八年九月內務省第百十三號達ヲ以テ廢合寺院跡地并建物處分規則ヲ定ム○同年十月第百八十五號達ヲ以テ寺院廢合自今無檀無任ハ地方官ニ於テ取調其他ハ寺檀出願ノ上就レモ教部省ニ經向ノ上處分セシム○十一年九月內務省第五十七號達ヲ以テ社寺取扱概則ヲ定メ社寺創立廢合復舊等ノ取扱方ヲ示ス○十二年內務省第一號達ヲ以テ無檀無任ノ寺院廢止ノ儀ハ前令第二條ノ手續ニ準シ其本寺法類等ヨリ出願ノ上處分セシム○十七年內務省第三十八號達ヲ以テ寺院創立再興復舊移轉廢合及財產ニ關スル諸願ハ管長添書ヲ爲サシム

第七十五 禁厭祈禱ヲ行ヒ醫藥ヲ妨クルヲ禁ス

明治七年六月七日

教部省達書第貳拾貳號府縣へ達別紙乙第三十三號ノ通神道諸宗管長へ相達候條向後禁厭祈禱ヲ以醫藥等差止メ政治ノ妨害ト相成候様ノ所業致候者有之候ハ、於地方官取締可致此旨相達候事

神道諸宗管長

禁厭祈禱等ノ儀ハ神道諸宗共人民ノ請求ニ應シ從來ノ傳法執行候ハ元ヨリ不苦筋候處間ニハ之レカ爲メ醫藥ヲ妨ケ湯藥ヲ止メ候向モ有之哉ニ相聞以ノ外ノ事ニ候抑致導職タルモノ右等貴重ノ人命ニ關シ衆庶ノ方向ヲモ誤ラセ候様ノ所業有之候テハ朝旨ニ乖戾シ政治ノ障

碍ト相成甚以不都合ノ次第ニ候條向後心得違ノ者無之様屹度取締可致此旨相達候事

○禁厭祈禱ヲ請フモノアルハ醫師施療中ノ者ニ限リ其望ニ應スルヲ許ス 明治十五年七月十日 內務省第三號神道

副總裁神佛 各管長へ達

禁厭祈禱ノ儀ニ付七年六月教部省乙第三十三號達之趣有之候處病者治療ノ際之カ爲メ投藥ノ時機ヲ誤リ候儀モ有之哉ニ相聞不都合候條今後信者ヨリ請求候節ハ先服藥ノ有無ヲ証明セシメ果シテ醫師診斷施療中ノ者ニ限リ其望ニ應シ不苦候條其旨屹度可相心得此段相達候事

府 縣 沖繩縣 除之

乙第四十二號 別紙及第三號ノ通神道副總裁 相達候條今後違背之輩有之候半ハ直ニ差止置奉詳當省へ具狀可致此旨相達候事

十三年第十六  
號布告參看  
〔第九十六〕

十年第七拾九  
號布告ヲ以テ  
租稅未納者  
處分方ヲ定ム  
〔第九十七〕

### 第十一類 租稅及貨紙幣公債

〔第七十六〕 國稅地方稅區別 明治八年九月八日 第四百拾號布告

從來ノ租稅賦金ヲ國稅府稅ノ二款ニ分テ左ノ通處分候條此旨布告候事

#### 國稅

全國一般へ賦課スヘキ分ニシテ大藏省ニ收入シ國費ニ供スルモノヲ云

府稅十一年第十九號布告ヲ以テ府縣稅民費ノ類ヲ地方  
縣稅ト改メ地方稅規則ヲ頒布ス故ニ次項ヲ削除ス

○國稅收納順序及附錄ヲ定ム 明治十七年六月十九日  
大藏省第四拾壹號府縣函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ヲ除クヘ達

國稅收納順序及同附錄別紙之通相定候條此旨相達候事

但明治十四年當省乙第拾號同第貳拾五號達ハ自今廢止ス

(別冊)

#### 國稅金收納順序

第一條 國稅金ハ郡區長於テ每納期其納額ヲ各町村納額元帳ニ登記シ納期限 地租ハ納期初 十五日以前ニ於テ左記第一  
號ノ如ク甲乙接續セル納稅切符ヲ製シ其納金額及納期限ヲ該切符ヘ記入シ第一號甲納稅切符ヘ一印ノ如ク郡區役所  
ノ印ヲ捺シ且元帳金額ト割印シ之ヲ戶長ニ達スルモノトス

但各町村ニ戶長ヲ置サル地方ハ郡區長ニオイテ第二條以下ノ手續ヲナスヘシ

第二條 戶長ハ郡區長ヨリ納稅切符ヲ得レハ其町村一人別帳ニ據リ租稅金ヲ徵收シ第一號乙納稅切符ヘ二印ノ如ク關  
印シ之ニ徵收セル現金ヲ添ヘ國庫金取扱所 又ハ大藏  
省爲換方ヘ預ケ入ルノ者トス

但納期限前ニ集メタル金額ハ第二號切符ヲ製シ何ケ度ニモ國庫金取扱所 又ハ大藏  
省爲換方ヘ相預ケ預リノ証印ヲ得其郡區  
郡區役所ヘ上納シ納期限ニ至リ第一號切符ヘ第三號ノ如ク記載シ本文ノ順序ヲ爲スヘシ

### 第十一類 租稅及貨紙幣公債



第三條 國庫金取扱所又ハ大藏省爲換方ハ第一號シ納稅切符ヘ三印及四印ノ証印刷ヲ捺シ戶長ヘ渡スヘキニ付戶長ハ甲納稅切符ヘ五印ノ如ク調印シ郡區長ヘ上納スルモノトス

第四條 郡區長ハ戶長ヨリ上納セル甲乙納稅切符金額ト納稅元帳トヲ照查シ管納又ハ内納ノ金額ヲ元帳ヘ記入シ而シテ第一號甲納稅切符ヘ六印ノ如ク捺印シタル後甲乙ヲ分截シテハ郡區役所ニ留メ甲ハ戶長ニ付與シ以テ租稅管納ノ証トスルモノトス

但第二號納稅切符ヲ以テ納ムルモノハ其時々郡區長名印ノ領收證書ヲ付與スヘシ

第五條 地券証印稅新規營業稅ノ類及ヒ其時々收入ノ諸稅等ニシテ甲乙捺印切符ヲ用ヒ雖キモハ戶長ニ於テ一稅毎ニ第二號ノ如ク納稅切符ヲ製シ國庫金取扱所又ハ大藏省爲換方ヘ預ケ入レ其時々郡區長ヘ上納スルモノトス

但本人ヨリ直ニ管納若クハ郡區役所ヘ上納スル者ハ第二號納稅切符ヲ用ヒ本人ノ姓名ヲ記シ捺印スヘシ

第六條 郡區長ハ第一條納稅切符ヲ戶長ヘ達シタルトキハ第四號ノ如ク納稅證書ヲ製シ收稅長ヘ報告スヘシ尤其納額ニ増減ヲ生スルトキハ其時々之ヲ追報スルモノトス

但管納ヨリ納額ヲ達スルモノハ報告ノ限ニアラス

第七條 收稅長ハ各租稅毎納期ノ納額ヲ第五號ノ如ク調製シ各租稅トモ納期限迄ニ該地差立主稅官長ニ申報スルモノトス

但納額ニ増減ヲ生シタルトキハ其時々之ヲ追報スヘシ

第八條 郡區長ハ一旬日間領收セル租稅金ヲ取總メ三日以内ニ第六號ノ如ク上納證書ヲ製シ之ヲ收稅長ニ送付スルモノトス

第九條 收稅長ハ郡區長ヨリ上納證書ヲ得タル日ヨリ三日以内ニ第七號ノ如ク領收證書ヲ製シ之ヲ郡區長ヘ送付スルモノトス

第十條 收稅長ハ其領收セル稅金ヲ一旬日毎ニ取總メ其翌日ヨリ七日以内ニ第八號九號ノ如ク上納證書及預ケ金上納

清否圖書ヲ製シ之ニ國庫金取扱所又ハ大藏省爲換方ヨリ差出シタル一旬合計書一旬日間預リタル稅金ノ合計書ナリヲ添ヘ主稅官長ニ納付スルモノトス

第十一條 收稅長ハ上納金ニ係ル納稅切符ヲ取束手領收簿ノ証トシテ該切符ノ左肩ヲ斜斷シ其合計金員及枚數ヲ付箋シ國庫金取扱所又ハ大藏省爲換方ニ送付スルモノトス

第十二條 國庫金取扱所又ハ大藏省爲換方ハ收稅長ヨリ納稅切符ヲ得レハ之ニ對スル受取書ヲ差出シ而シテ預リ金元帳ト照查シ若シ切符不足スル歟或ハ金額突合ハサルモノアル時ハ其金額稅名預入年月日及納人ノ住所姓名ヲ詳記シ速ニ收稅長ニ報告シ收稅長ハ此報告ヲ得テ以テ完結ノ手續ヲ爲スモノトス

第十三條 收稅長ハ第十號ノ如ク收納報告書ヲ製シ各租稅毎納期限後四十五日以内ニ主稅官長ニ申報スルモノトス八年第三十三號省達ヲ以テ但書ヲ別除ス

第十四條 郡區長ハ各租稅管納期限後三ヶ月以内ニ於テ第十一號ノ如ク管納報告書ヲ製シテ收稅長ニ差出シ之ヲ決算ヲ爲スモノトス

第十五條 收稅長ハ前條報告ヲ得テ第十二號ノ如ク管納帳ヲ調製シ其長官ノ認印ヲ得テ各稅管納期限後四ヶ月以内ニ主稅官長ヘ差出シ之ヲ決算ヲ爲スモノトス

第一號

一 是ハ最初戶長ヘ相達スル時郡役所元帳ト押切且割付テ証スル爲メ之ニ捺印ス即チ第一ノ手順ナリ

二 是ハ一村ノ納金取束手國庫金取扱所又ハ大藏省爲換方ニ相渡スノ証ニシテ即チ第二ノ手順ナリ

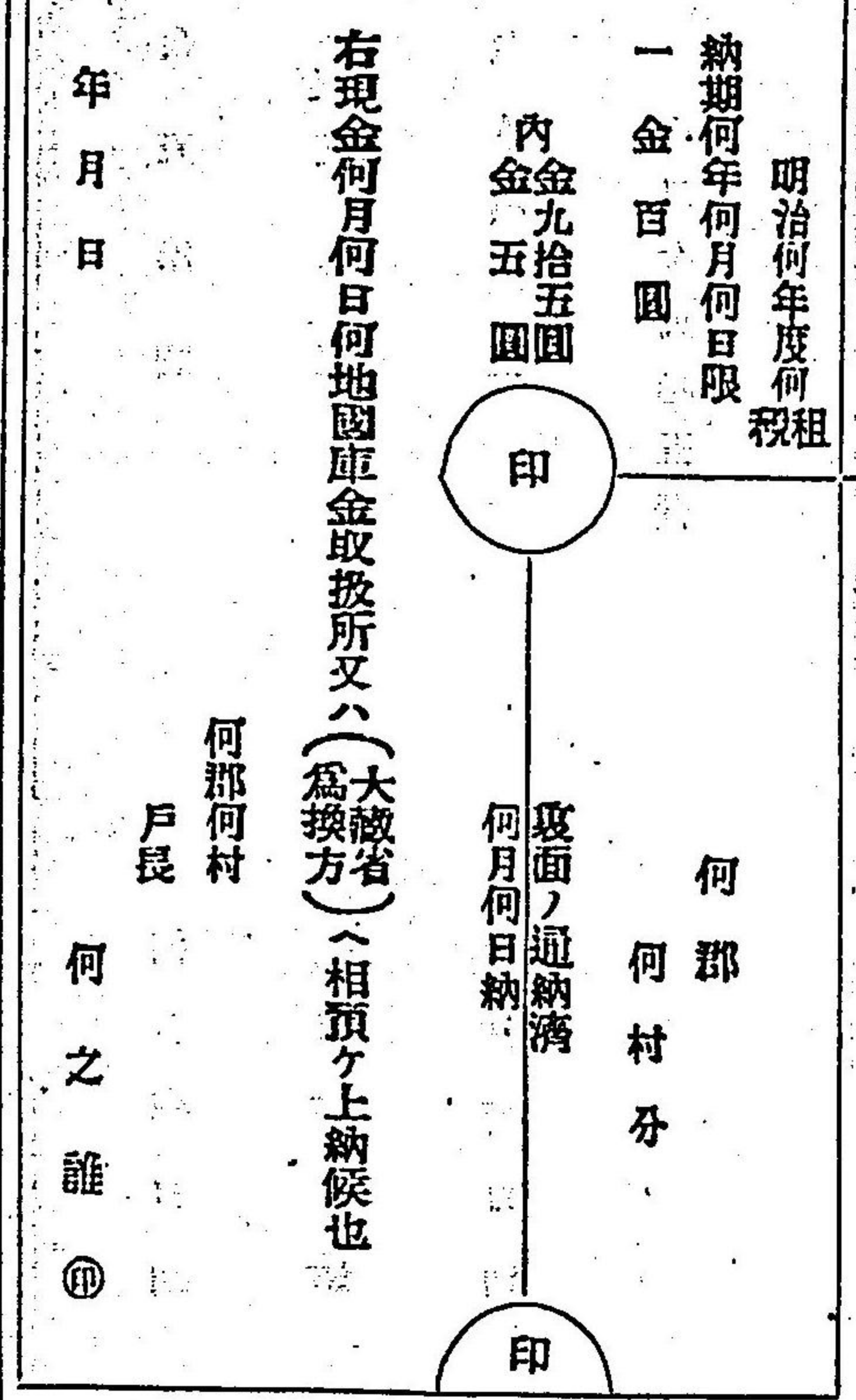
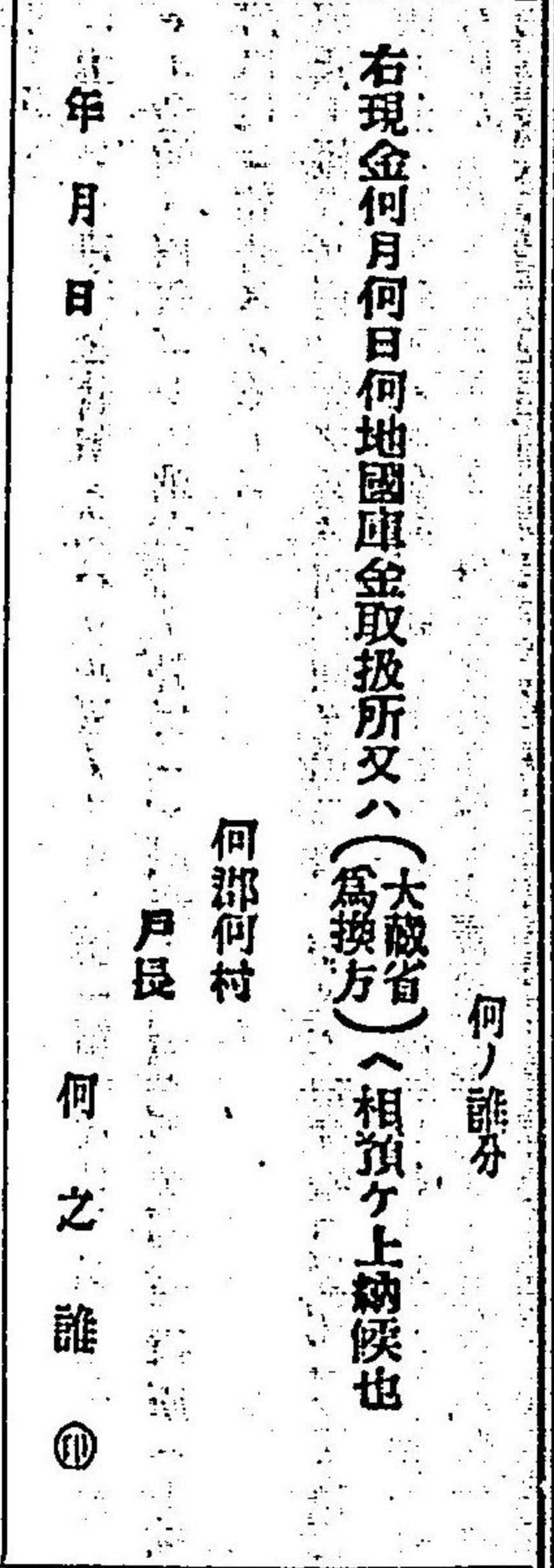
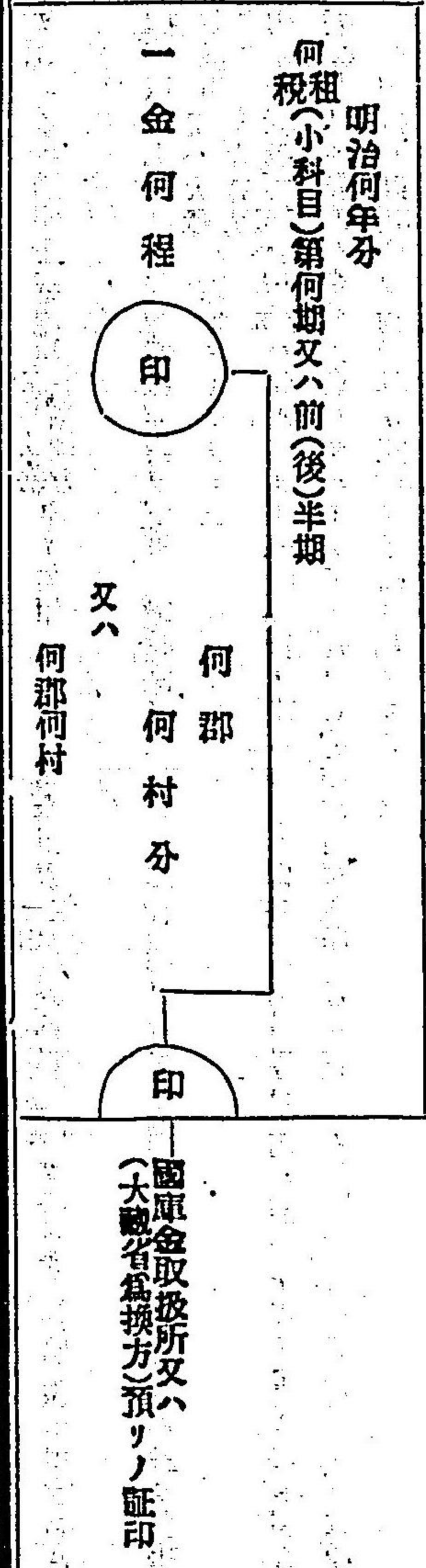
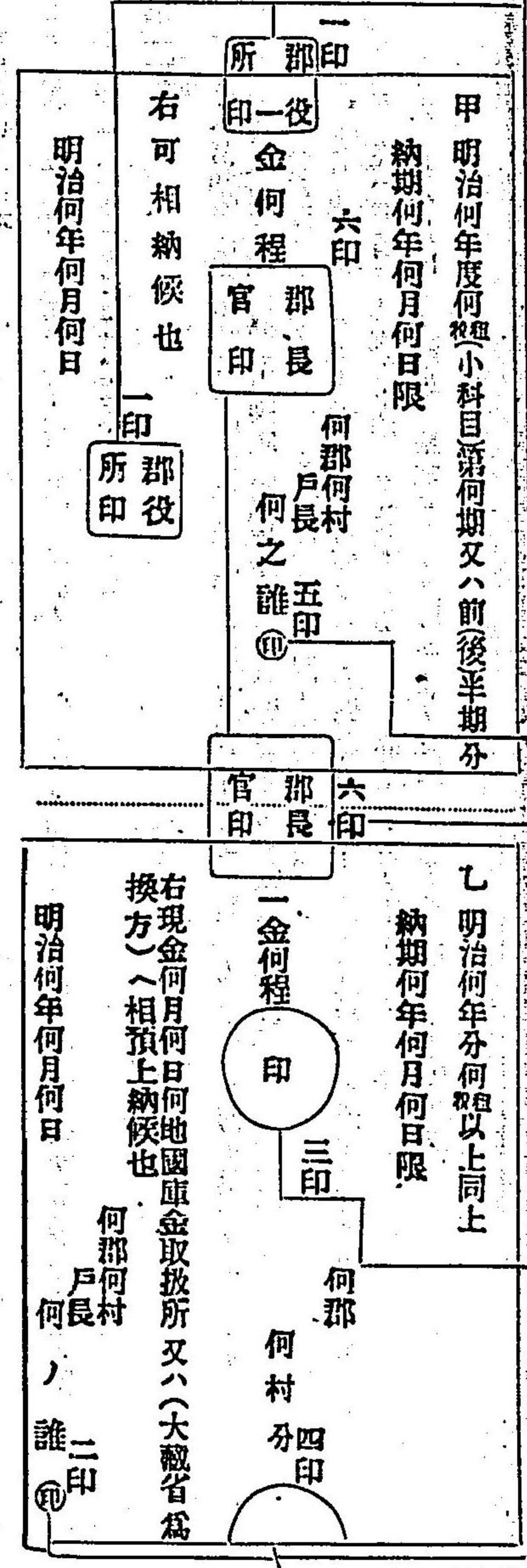
三 是ハ戶長ヨリ稅金ヲ預リタル証印ニシテ即チ第三ノ手順ナリ

四 是ハ稅金預リタル國庫金取扱所又ハ大藏省爲換方ノ元帳ニ押切モノニシテ即チ第四ノ手順ナリ

五 是ハ戶長ヨリ稅金上納ノ際証印スル者ニシテ即チ第五ノ手順ナリ

六 是ハ戶長ヨリ稅金上納金ニ至リ郡長領收ノ証印ニシテ即チ第六ノ手順ナリ

第十一類 租稅及貨紙幣公債



第十一類 租稅及貨紙幣公債

三百九十三

三百九十二

金 五 拾 圓	何 月 何 日 納
金 貳 拾 圓	何 月 何 日 納
金 貳 拾 五 圓	何 月 何 日 納
小 以 金 九 拾 五 圓	

(以下離形略之)

國税金收納順序附錄

- 一 納稅期限ニ至リ若シ租税金管納シ能ハサル者アルハ第一號納稅切符第一離形ノ如ク戶長ニ於テ其納金額ノ傍ヘ現ニ徵收シタル金額ヲ内書ニシ不納金額ヲ外書ニシ成規ノ手續ヲ經テ郡區役所ヘ上納シ且其不納者ノ住所姓名事由ヲ詳記シテ郡區長ニ報告スル者トス
- 一 郡區長ハ前條ノ報告ヲ得テ先ツ其不納金額ヲ第二號ノ如ク不納印帳ニ登記シ之ト第一離形ノ甲切符ノ右側ニ「イ」印ノ如ク割印シ而シ其徵收シタル金額ヲ納額元帳ニ記入シ其納稅切符ノ納金額ニ對シ領收ノ證印ヲ捺シ以下成規ノ手續ヲ爲スモノトス

一 郡區長ハ租税金官報又ハ未納ニ係ル分第三號ノ如ク大科目限リ關製シ該租稅納期限後三十五日以内ニ收稅長ニ報告スルモノトス十八年第三拾三號省達  
但報告後ニ徵收スルコトアレハ其時時之ヲ追報スヘシ

一 不納者ノ處分ヲ爲シ徵收シタル租税金ハ郡區長ニ於テ第二離形ノ如ク切符ヲ製シ其金額ヲ國庫金取扱所又ハ大藏ヘ相預ケ預リノ證印ヲ受ケ以下成規ノ手續ヲ以テ上納スヘシ此場合ニ於テハ徵收シタル金額ヲ戶長ニ通報スルモノトス

第壹號

第壹離形 不印 郡役所印

明治何年分何租(小科目)第何期又ハ前後半年分  
納期何年何月何日限

何郡何村  
戶長 何ノ誰

一金百圓 納人 何ノ誰

內 郡長 何月何日納  
外 官印 不納

金拾圓

右可相納候也 郡役所印

年月日

明治何年分何租(小科目)第何期又ハ前後半年分  
納期何年何月何日限

何郡 何村分

一金百圓

內 郡長 何月何日納  
外 官印 不納

金九拾圓 印

金拾圓

右現金何月何日何所國庫金取扱所又ハ大藏省爲換方ヘ相預上納候也

何郡何村 戶長 何ノ誰

年月日

十七年大藏省  
第三拾貳號達  
ヲ以テ租稅關  
稅兩局ヲ廢シ  
主稅局ヲ置ク

(第二條形以下略之)

○國稅金送納定則ヲ定ム 明治十五年七月三十一日  
第四拾六號官省院廳府縣へ達

國稅金送納定則別冊ノ通相定明治十五年十一月一日ヨリ施行候條此旨相達候事

(別冊)

國稅金送納定則

第一章 總則

第一條 凡ソ國稅海關稅ハ各其法律規則ニ據リ之ヲ徵收シ此條規ニ從ヒ送納スルモノトス

第二條 各廳ニ於テ租稅決算ノ期限ハ各種租稅皆滿期後四ヶ月以内タルヘシ

第二章 收納順序

第三條 戶長ニ於テ取集メタル租稅ハ郡區長ニ上納シ郡區長ハ之ヲ所在大藏省租稅局出張所ニ送納スヘシ

第四條 各廳又ハ其各部局ニ於テ直ニ領收シタル租稅ハ之ヲ大藏省租稅局出張所ニ送納スヘシ

但第三條第四條送納ノ手續ハ大藏省通國稅金領收順序ニ據ルヘシ

第五條 租稅局ハ其各地出張所ヨリ送納セル租稅ヲ領收シ之ヲ國庫ニ納入スヘシ

第三章 送納期限

第六條 戶長ニ於テ納期前人民ヨリ受取タル稅金ハ七日以内ニ之ヲ郡區長ニ上納セシムヘシ

第七條 郡區長ニ於テ領收セル稅金ハ大藏省ニ於テ指定シタル期日ニ從ヒ之ヲ租稅局出張所ニ送納スヘシ

但各廳又ハ其各部局ニ於テ直ニ領收シタル稅金モ本文ノ例ニ據ル

第八條 各廳又ハ其各部局ニ於テ時々領收スル諸稅ニシテ收入ナキ月ハ翌月二日限リ其旨租稅局出張所ニ通知スヘシ

第九條 租稅局出張所ニ於テ領收セル稅金ハ十日毎ニ取纏メ其翌日ヨリ七日以内ニ該地ヲ發シ租稅局ニ送納スヘシ

第十條 租稅局ハ領收シタル稅金ヲ十日毎ニ取纏メ三日以内國庫ニ納入スヘシ

第四章 稅表送達期限

第十一條 各廳ニ於テ調製スル各種稅表ノ樣式及ヒ其送達ノ期限ハ大藏省達ニ從ヒ租稅局ニ送付スヘシ

第十二條 稅表送達後納額ニ差異ヲ生シ稅表ノ訂正ヲ要スルトキハ該稅皆滿期送達以前ニ限リ之ヲ訂正スルヲ得

第五章 雜則

第十三條 大藏卿ハ臨時租稅局員ヲ派遣シ各廳又ハ郡區役所ニ就キ租稅ニ關スル諸帳簿及ヒ稅金ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

第十四條 租稅不納ニ因リ公賣處分ノ未欠額ヲ生スルトキハ處分後日數十五日以内ニ勘定除却ヲ大藏卿ニ開申スヘシ

第十五條 水火災ニ罹リ家屋蕩盡スルモノニケ月以内納稅延期ヲ府縣長官ニ於テ處分シタルトキハ日數十五日以内ニ大藏卿ニ申報スヘシ

第十六條 大藏卿ハ第十四條租稅金ノ欠減ニ屬セシモノヲ一周年度分取纏メ大藏官ニ上申スヘシ

第十七條 戶長ニ於テ已ムヲ得サル事故アリテ重生又ハ用掛等ヲ代人トシテ納稅ノ事務ヲ取扱シムルトキハ郡區長ノ承認ヲ受ケンムヘシ

第十八條 島嶼又ハ道路途隔其他已ムヲ得サル事故アリテ此定則ニ指定セル期限ニ據ル能ハサルモノハ該テ其事由ヲ各廳ヨリ大藏省ニ申告シ大藏省ハ之ヲ大藏官ニ具申シテ其裁可ヲ受クヘシ

第十九條 此定則ニ矛盾スル從前ノ規則ハ總テ廢止トス

● 同指令

● 國稅金送納代理人ノ儀ニ付青森縣ヨリ大藏省へ同 十六年九月十二日

客歲七月大藏官第四拾六號達國稅金送納定則第十七條 戶長ニ於テ已ムヲ得サル事故アリテ重生又ハ用掛等ヲ代人トシテ納稅ノ事務ヲ取扱ハシムルトキハ郡區長ノ承認ヲ受ケシ

第十一類 租稅及貨紙幣公債



第七條 地價ハ地目變換又ハ開墾ニ非サレハ修正セズ

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム

第十條 地目ヲ變換スルトキハ之ヲ地方廳ニ届出ヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ修正ス

第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地價ハ其地ノ現

況ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 地租ハ地券記名者ヨリ徵收ス但賃入ノ土地ハ其賃取主ニ於テ之ヲ納ムヘシ

第十三條 有租地ヲ公立學校地鄉村社地墳墓地ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得シ月分ヨリ

月割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路溜池隄塘井溝公衆ノ用ニ供スル道路ト爲ストキ其地租ハ

其地工事著手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス

免租地ヲ有租地ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得シ翌月分ヨリ月割ヲ以テ徵收ス

第十四條 地目變換ハ其地價修正ノ年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十五條 開墾地ハ墾下年期明荒地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ更定地價ニ依リ地租ヲ徵收

ス

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ開墾地ハ十五年以内ノ墾下

年期ヲ許可ス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十七條 墾下年期中當初ノ目的ヲ改メ他ノ地目ニ變スルトキハ之ヲ地方廳ニ届出ヘシ此

場合ニ於テハ直ニ其地價ヲ定メ又ハ更ニ墾下年期ヲ許可スルコトアルヘシ

第十八條 墾下年期明ニ至リ開墾ノ成功ニ至ラサルモノハ更ニ二十五年以内墾下繼年期ヲ許

可ス

第十九條 墾下年期明ノトキハ其地價ヲ修正ス若シ其開墾當初ノ目的ニ達セス他ノ地目ニ

變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正ス

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十一條 免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十年以内七割以下ノ低

價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ免租年期明ニ至リ原地目ニ

復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ二十年以内免租繼年期ヲ

定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依テ處分ス

第二十四條 川成海成湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以

内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川

海湖ニ歸スルモノトシ其地券ヲ還納セシム

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脱スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ

依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徴ス但地租改正ノ初年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十六條 第十一條第十六條ニ違犯スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其免租地ヲ有租地ト爲シ又ハ開墾ヲ爲スコトヲ許可スヘキモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徴ス但地租改正ノ初年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十七條 第十條第十七條ニ違犯スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス  
第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

○北海道地租當分地價百分ノ一二定ム 明治九年十二月二十八日 第百六拾壹號布告

北海道地租ノ儀當分地價百分ノ一二相定候條此旨布告候事 明治十四年二月十七日

○地租徵收期限ヲ定ム 第拾四號布告  
明治十年七月第五拾三號布告地租徵收期限ノ儀明治十四年分ヨリ左ノ通改定候條此旨布告候事

但市街地租ノ儀ハ該年七月翌年一月兩期ニ其五分宛ヲ收納スヘシ 十五年第二十四號布告但書改正  
地租徵收期限 十八年第九拾五號布告ヲ以テ三期以下ヲ改正ス  
畑方及宅地山林原野牧場

一期	同	該年七月三十一日ヨリ限	五分
二期	同	九月三十一日ヨリ限	五分
三期	同	該年十一月十五日ヨリ限	二分五厘
四期	同	該年十二月十六日ヨリ限	二分五厘
五期	同	一月二十六日ヨリ限	二分五厘
六期	同	四月一日ヨリ限	二分五厘
六期	同	四月二十日限	二分五厘

○地租金ノ内田方ニ限リ半額代米納ヲ許ス 明治十年十一月二十二日 第八拾號布告  
地租金ノ内田方ニ限リ當分人民ノ情願ニ任セ半額其府縣ノ地租改正ニ用ヒタル相場ヲ以テ代米納差許候條此旨布告候事

○買上地拂下地潰地等收稅除稅區分方ヲ定ム 明治十年二月十三日 第拾八號布告  
地租改正後買上地拂下地潰地等收稅除稅區分左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條 民有地ヲ買上ル時其年分ノ稅ハ買上タル前月分迄月割ヲ以テ收入スヘシ  
第二條 官有地ヲ拂下ル時其年分ノ稅ハ拂下タル翌月分ヨリ月割ヲ以テ收入スヘシ  
第三條 民有地ヲ官ノ許可ヲ得テ川溝溜池道路堤塘敷其他潰シ地トナス時ハ工事著手ノ

月ヨリ除税スヘシ一旦著手スルモ若シ工事を中止シテ六ヶ月ニ及フモノハ工事を施シタル部分ヲ除キ其中止間ハ除税ノ限ニアラス十五年第三五號布告但書共全條改正但七ヶ月以上ニ渉ルヘキ工事は六ヶ月毎ニ其工程ヲ量リ除税ノ區域ヲ定ムルモノトス

○代米納取扱手續

明治十年十一月二十九日  
大藏省令第四拾號府廳へ達

今般地租金ノ内半額迄ハ代米納被差許候旨第八十號ヲ以布告相成候ニ付右取扱方ノ儀ハ左ノ手續書ノ通取計可申候此旨相達候事

代米納取扱手續書

一代米納ハ通クトモ十二月三十一日迄ニ願出許可セシモノニ限ルヘシ右許可スル上ハ金納ニ復スルヲ請フモ許スヘカラス

一代米納ヲ許可セシ分ハ其金額及ヒ代米石高納所共仕譯書ヲ以テ一月中當省ニ届出ツヘシ

一代米納ヲ願出ルアラハ其納ムヘキ金額ヲ其府廳ノ地租改正ニ用ヒタル相場ニテ算出シ得ル所ノ米額ヲ納入セシム令ハ本行金額百圓ナレハ改正相場五圓ヲ以テ除之此米二十石ヲ得ル 尤儀入ノ儀ハ本米四斗合米二升都合四斗二升トシ儀持其他陸運賃官民ノ區別并廻シ檢量ノ方法トモ總テ從前ノ貢納規則ニヨルヘシ 十一年七月第三十二號省達ヲ以テ(儀持及合米) 差入方ノ九字ヲ削リ(儀入)以下廿五字ヲ加フ

一米納ノ分納所へ輸送濟ノ上ハ其地方租稅課官員ハ貢米納方規則ノ順序ヲ以納入ヨリ調取而シテ後チ是ヲ預米金ノ方法ニ依ヒ其米額ハ假ニ出納課へ引渡置當省主稅局へハ普通ノ上納證書へ金額ヲ本行ニ立此代米若干ト記載シ上納スヘシ但納米藏敷其他ノ諸費ハ納米出納課へ假引渡相濟候時迄納主ノ請持タルヘシ

○地租金代米納領收順序

明治十七年十一月二十四日  
大藏省第八拾三號府廳(沖繩縣及北海道三縣ヲ除ク)へ達

地租金代米納領收順序左之通相定候條此旨相達候事

地租金代米納領收順序

第十七年大藏省令第四十一號達納以テ國稅收(第十七十六ノ一項)

第一條 代米納ハ町村納人各自若クハ一町村納人總代ヲシテ其定メタル港へ便宜輸送セシメ戶長ハ該港ニ出張之ヲ取纏メ其郡區役所ヨリ出張スル吏員へ相渡シ郡區吏員ハ之ヲ檢査シテ其港出張ノ大藏省納米請取方へ交付シ戶長ハ其預リ切符ヲ以テ郡區長へ納メ郡區長ハ其預リ切符ヲ收稅長へ宛テ送付スルモノトス

第二條 郡區役所ノ吏員ハ納米輸送ノ時機ヲ計リ檢査スヘキ港へ出張シ明治五年八月太政官第貳百三拾壹號達ニ據リ納米ノ檢査及ヒ受授ノ順序ヲ處辨セシムルモノトス 但檢査及ヒ受授ノ順序ハ納人及ヒ戶長郡區吏員大藏省納米受取方各立會之ヲ爲スヘシ

第三條 代米納所へ回漕船ノ碇泊シ得ヘキ地ヲ取調稟申ノ上定ムル者トス

第四條 郡區長ハ第壹號ノ通印シ接續セル納米切符ヲ製シ該米納方期限前過クモ三十日以前各町村納額元帳ニ據リ其納米額及ヒ納期限ヲ甲乙納米切符へ記入シ第壹號甲納米切符へ一印ノ如ク郡區役所ノ印ヲ捺シ尚元帳米額ト割印ヲ捺シ之ヲ戶長ニ送スヘシ

第五條 郡區長ハ前條ノ如ク戶長へ納米切符ヲ送シタル後過クモ三日以内ニ其納米額ヲ第貳號ノ通調製シ之ヲ收稅長へ報告スヘシ

第六條 戶長ハ納米切符ヲ得テ其町村一人別帳ニ據リ納米者ニ達シ納米額ヲ輸送セシメ而テ該米受渡ノ節第壹號シ納米切符へ二印ノ如ク調印シ其納米ト共ニ郡區吏員へ相渡シ郡區吏員ハ該切符へ第三號ノ通檢査證ヲ添付シ之ヲ港出張ノ大藏省納米受取方へ送スヘシ

第七條 前條大藏省納米受取方ハ米額ヲ受取タルヲ証スル爲メ第壹號シ切符納米ノ下へ三印ノ如ク證印ヲ捺シ尚受取元帳ニ其金米額ヲ記シ之レト四印ノ如ク割印ヲ捺シ郡區吏員ヲ經テ之ヲ戶長へ相渡スヘシ

第八條 戶長ハ第壹號甲切符へ五印ノ如ク調印シ郡區役所へ上納スヘシ

第十一類 租稅及貨紙幣公債



シ尚七印ノ如ク甲シ切符接續ノ中央へ印ヲ捺シ而テ甲シヲ分載シシハ郡區役所ニ留置キ甲ハ戸長ニ付與シ以テ代米納  
 濟ノ証トスヘシ

第拾條 郡區長ハ其留置キタル納米切符ヲ一旬日毎ニ取纏メ違クモ三日以内ニ第四號ノ通納稅證書ヲ製シ捺印ノ上之  
 ヲ收稅長ヘ宛テ送付スヘシ

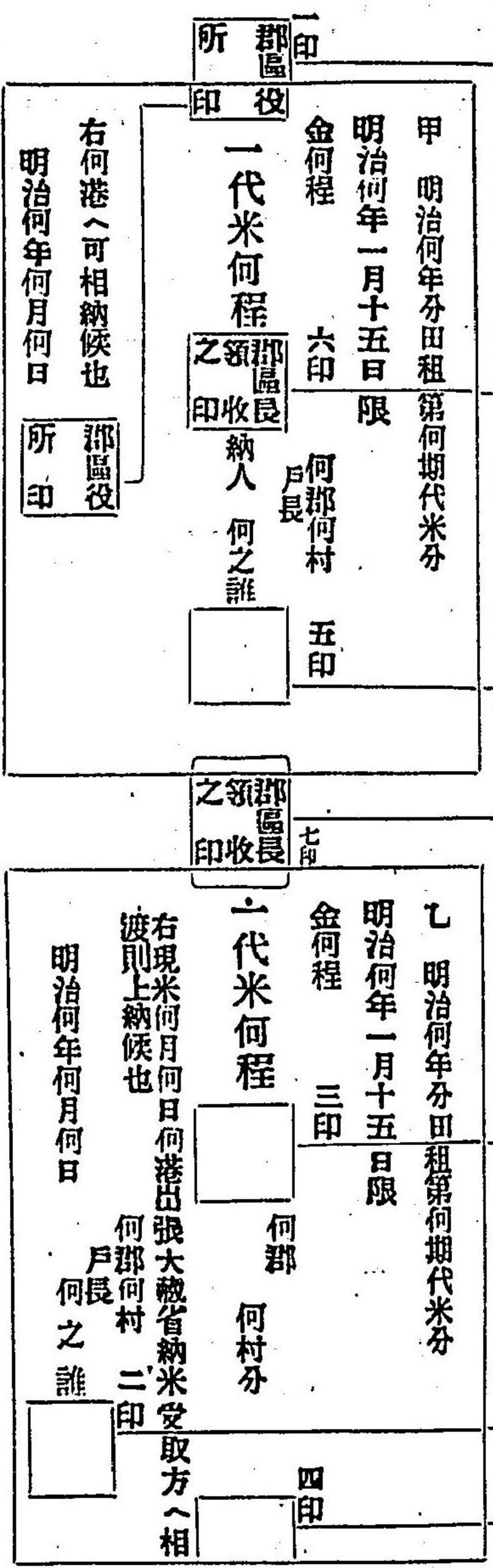
第拾壹條 收稅長ハ納米切符ヲ讀取タル日ヨリ過クモ三日以内ニ第五號ノ通領收證書ニ捺印ノ上郡區長ヘ送付スヘシ

第拾貳條 郡區長ハ代米管納ニ至ラハ其金米額ヲ收稅長ニ報告スヘシ

第拾參條 收稅長ハ定式ノ如ク管濟帳ニ金納ト代米納トノ金額ヲ内譯ニ記シ其代米納ノ金額ヘハ此代米若干トシ主稅  
 官長ヘ差出シ之カ決算ヲ爲スヘシ

第壹號

- 一 是ハ最初戸長ヘ送スル郡區役所元帳ト押切且金米額ヲ證スル爲メ捺印ス即第壹ノ手頃ナリ
- 二 是ハ一村ノ納米取束ヲ港出張ノ郡區吏員ヘ相渡スノ證ニシテ即チ第貳ノ手頃ナリ
- 三 是ハ出張ノ大藏省納米受取方戸長ヨリ納米ヲ受取タル證印ニシテ即第三ノ手頃ナリ
- 四 是ハ納米受取タル片出張ノ大藏省納米受取方ノ原簿ニ押切モノニシテ即第四ノ手頃ナリ
- 五 是ハ戸長ヨリ代米渡濟郡區役所へ上納ノ際證印スルモノニシテ即第五ノ手頃ナリ
- 六 是ハ戸長ヨリ代米上納濟ニ至リ郡區役所領收ノ證印ニシテ即第六ノ手頃ナリ
- 七 是ハ戸長ヨリ代米上納濟ニ至リ上納證ト領收證  
 トノ押切ニシテ即第七ノ手頃ナリ



(第貳號以下書式略ス)

○預リ米取扱手續 明治十八年八月十日  
 大藏省第五拾貳號府縣(北海道三縣沖繩縣ヲ除ク)へ達  
 明治十年十一月十一日當省第七拾九號達預リ米取扱手續左ノ通改正ス  
 但明治十二年九月當省第七拾五號達ハ廢止ス  
 右相違候事

- 預リ米取扱手續
- 第一條 預リ米ハ地租第三四五六納期ニ於テ各其半額迄ヲ納金抵當トシテ該町村ノ上米ヲ預ルモノトス但代米納ヲ許可  
 スル片ハ其員額ニ對スル分ハ預リ米ヲ許可セス
- 第二條 預リ米ハ十一月二十日迄ニ願出テタル者ニ限リ許可スヘシ
- 第三條 預リ米ヲ許可スルハ地租改正ニ用ヒタル米價ヨリ時價下落ノ時ニ限ルヘシ

第十一類 租稅及貨紙幣公債

第四條 時價ヲ算出スルハ管内ヲ適宜ニ區分シ相場立ノ箇所ヲ定メ置キ該年十月十二日ヨリ十一月十日マテノ間其地ノ上米平均相場ヲ用フヘシ但區區及其相場立箇所ハ豫メ主程局ヘ届出ヘシ

第五條 預リ米ハ前項ニ掲ケタル相場ヲ以テ計出シ得ル所ノ米額ニ壹割ヲ加ヘタルモノヲ繳置セシムヘシ

第六條 俄拵并俵入等ハ渾テ代米納同様タルヘシ但合米ハ加フルニ及ハス

第七條 預リ米ヲ繳置スヘキ場所ハ府縣廳ニ於テ各町村預ケ高ノ多寡ヲ豫算シ一郡内適宜ニ指定シ集蓄セシムヘシ但繳置及看守人給料其他一切ノ費用ハ預ケ人ノ負擔トス

第八條 繳入期限ハ十二月十五日限ト定メ郡吏戶長預ケ主<sup>總代</sup>立會封印スヘシ但郡吏ハ適宜巡村ノ日割ヲ定メ豫メ之ヲ通告シ必ス期限内ニ完了スヘシ

第九條 預リ米換金期限ハ左ニ記載セル三期トス此期日迄ニ納金セサルハ郡吏戶長立會其期ニ當ル預リ米ヲ贖買スヘシ

一 第三期預リ米 三月十五日限

一 第五期預リ米 四月二十日限

一 第六期預リ米 五月十五日限

第十條 前項贖買代金税額ニ滿タサルハ直チニ其不足金ヲ徵收ス若シ納メサルハ一般ノ租税不納金處分規則ニ據リ處分スヘシ

第十一條 預ケ主ニ於テ預リ米ヲ賣却センコトヲ請フモノアルハ其時々之ヲ許シ各立會賣却ノ上其代金ハ直チニ收入シ

第十二條 預リ中水火盜難又ハ欠減等ニ罹リ損失ヲ生スルアルモ預主ニ於テ補償ノ責ニ任スヘシ

第十三條 預リ米アル地所他ノ事故ニ因リ公費ノ處分ニ係ルハ其預リ米アルニ拘ハラズ當期ノ税金ヲ完納セシムヘシ但此場合ニ於テハ預リ米ヲ還附スヘシ

第十四條 預リ米ヲ許可スルニ方リテハ前二項ニ開示セル條件ヲ承諾セシメ請書ヲ領收スヘシ

第十五條 許可シタル預リ米ノ員額及其金額ハ一郡役所限リ取調十二月十五日迄ニ主税局ヘ届出ヘシ

○官有ノ水面ヲ埋立テ開墾ヲサントスルモノ<sup>明治十七年四月廿四日 大藏省第貳拾貳號府縣(函館沖繩札幌根室)ヲ除ク)ヘ達</sup> 官有ノ水面ヲ埋立テ開墾ヲ爲サントスルモノハ該埋立ヲ竣成シ民有地ニ編入ノ處分ヲ經タル上地租條例ニ定ムル所ノ開墾後下年期ヲ附與候儀ト可相心得此旨相達候申

○所有地所在ノ戶長役場所轄内ニ居住セサル片地租地方税等ヲ納ムル爲メ代人ヲ定メ戶長役場ヘ届置方<sup>十八年六月五日 大藏内務兩省第貳拾九號府縣ヘ達</sup>

土地所有者ニシテ其土地所在ノ戶長役場所轄内ニ居住セサルハ地租地方税備荒儲蓄金區町村費ヲ納ムル爲メ代人ヲ定メ土地所轄ノ戶長役場ヘ届置カシムヘシ

右相達候申

●同指令

●潰地々券書換其他ノ儀ニ付兵庫縣ヨリ内務省ヘ伺<sup>十五年九月三十日</sup>

本年七月太政官第三拾五號ヲ以十年第拾八號布告第三條改正相成潰地之儀ハ工事着手ノ月ヨリ除税ノ旨ニテ七ヶ月以上三泔ルヘキ工事ハ六ヶ月毎ニ其工程ヲ量リ除税ノ區域ヲ定ムルモノトストアリ因之觀之潰地許可ノ月ヨリ地租組替當然ニ被存候得共然ル片ハ工事期限中六ヶ月毎其工程ヲ量リ最初見込反別ニ變動有之ハ再ヒ以前ニ遡リ地租組替セサルヲ得ス爲メニ成功期限ノ長キハ數回地券書換<sup>(官有地ニ編入セシ) 官有民ノ手數ハ勿論實際不都合ニ付右ハ</sup>

當初工事ヲ許可シ地券書換ヘ申由年月日記載地租ハ六ヶ月間着手見込ノ分<sup>(六ヶ月以内) 工事ハ全部</sup> 收納禁止置而シテ檢査ノ上工事ヲ施シタル分ニ限リ都度六ヶ月前ニ遡リ地租組替除税シ地券ハ全部成功ノ上書換又ハ引揚等取計可然哉此

第十一類 租税及貨紙幣公債

四百九

段相伺候也

但十二年内務省し第二十九號御達ニ係ル段地處分后報告ノ義假令八一ノ溜池築鑿願出竣功期限數十ヶ月ニ涉ルモノハ數回(即チ六ヶ月毎地)報告ヲ要スル義ニ候得共十二ヶ月以上ニ涉ル分ハ全反別ヲ掲ケ當初及御届置六ヶ月毎ニハ報告ヲ除キ悉皆成功濟毎季仕譯表ヲ以テ報告致可然哉豫相伺候也

指令 〔大藏省〕 十六年十一月十四日

〔連帶〕 書面但書共同之通

● 秋下年季及ヒ荒地免租季明之儀ニ付新潟縣ヨリ大藏省ヘ伺 十七年三月廿七日

地租條例第十五條ニ開墾地ハ秋下年季明荒地ハ免租季明ノ翌年分ヨリ更定地價ニ因リ地租徵收ストアリ假令ハ十二年ヨリ十六年マテ五ヶ年季ノ秋下地又ハ荒地即チ十七年季明實地徵分スルニ開墾濟又ハ原地目ニ起返シ得ヘキモノニシテ相當ノ收利アルモ季明翌年即チ十八年ヨリ徵收スル旨趣ナルヤ又ハ其年季末年ヲ指シタルモノニシテ十七年ヨリ徵收スル儀ナルヤ

指令 十七年四月九日

伺ノ趣年季滿限ノ翌年ヨリ徵收スヘキ儀ト可相心得事

● 地租條例中疑義ノ儀ニ付埼玉縣ヨリ大藏省ヘ伺 十七年三月二十九日

第一條 本年第七號布告地租條例第三條中第二類地(池沼山林原野雜種地)ニ勞費ヲ加ヘ第一類地(田畑郡村宅地市街宅地鹽田鑛泉地)トナスモノヲ開墾ト謂フトアリ然ルトキハ山林原野ヲ宅地トナシ秋下年季ヲ要セサルモノハ地目變換ト同視シテ取扱然ルヘキヤ

第二條 同上第十三條ニ有租地ヲ公立學校地郡村社地墳墓地トナストキ其地租ハ許可ヲ得シ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ストアリ右ハ民有地ノ變換ヲ指シタルモノニテ民有地ヲ官へ買上ケ又ハ官有地ヲ排下ケタル收稅除稅區分ノ儀ハ十年第拾八號布告第一條(民有地ヲ買上ル時其年分ノ稅ハ買上タル前月分迄月割ヲ以テ收入スヘシ)第二條(官

有地ヲ排下ル時其年分ノ稅ハ排下タル翌月分ヨリ月割ヲ以テ收入スヘシ)ニ準據取扱然ルヘキヤ

第三條 同第二十一條ニ免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十年以内七割以下ノ低稅年期ヲ定メ云々トアリ例ヘハ原收稅宜石ノモノ七斗ノ收稅ニ起返ルトキハ之ヲ七割低價トシ登斗ニ起返ルトキハ一割ト稱スヘキヤ

第四條 同第二十二條ニ低價年期明ニ至リ尙原地價ニ復シ難キモノ及免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ムトアリ然ルニ免租年中持主ノ便宜ニ因リ宅地トナスモノハ十年地租改正事務局御省連署し第六號達第四條(荒地免稅年季中宅地トナスモノハ宅地トナリタル翌年ヨリ該宅地相當ノ地價ヲ定メ課稅スベシ)但池沼沼成等ノ荒地ヲ埋堆シ宅地トナスカ如キ非常ノ勞費アルモノハ伺ヲ經テ其年季中免稅ニ據置ヘキモノトス)ニ照準取扱然ルヘキヤ

指令 十七年五月五日

第一條 秋下年期ヲ要セサル者ト雖モ開墾トス地租ハ其翌年分ヨリ更定地價ニ據リ徵收スベシ

第二條 申出之通

第三條 七割以下ノ低價年期ヲ定ムトハ原地價ヨリ七割以内ヲ減シタル低價年期ヲ定ムヘキモノトス

第四條 免租年中持主ノ便宜ニ因リ宅地トナス者ト雖モ條例第二十二條ニ據リ處分スヘシ

但十年地租改正事務局連署當省し第六號達ハ消滅ス

● 地目變換地及ヒ開墾地取扱方ノ儀ニ付岐阜縣ヨリ大藏省ヘ伺 十七年三月廿四日

本年三月 第七號布告地租條例第三條第一類地(田畑郡村宅地市街宅地鹽田鑛泉地)ヲ第二類地(池沼山林原野雜種地)ニ第二類地ヲ第一類地ニ爲スモ秋下年季ヲ請ハサルモノハ同第十條ニ準シ爲届出可然哉

指令 十七年五月十三日

第一類地ヲ第二類地ト爲スハ相成ラス第二類地ヲ開墾セントスルモノハ渾テ地租條例第十六條前段開墾ヲ爲サ

ントスルモノハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシニ據ルヘシ然レ下年季ヲ要セサルモノハ開墾ノ翌年ヨリ地價修正スヘシ  
●荒地年季中宅地成ノ儀ニ付三重縣ヨリ大藏省ヘ伺 十七年六月十二日  
荒地年季中宅地トナリタルモノハ翌年ヨリ收税ノ儀ト心得可然哉  
指令 十七年六月十九日

地租條例第二十二條ニ據リ年期中ハ地價修正ニ及ハス

●埼玉縣ヨリ地租延納年賦金一時上納利引ノ儀ニ付大藏省ヘ伺 十八年七月二日

第一條 地租延納年賦金一時上納額出ルモノハ壹割利引ノ儀則ニ據リ利引上納被差許候處假令八十四年ヨリ十八年迄五箇年賦ノモノ十七年迄納済殘リ一箇年(十八年)分ヲ十七年度へ上納スルハ壹割利引ノ算則ニ據リ可取扱ハ勿論ニ候得共十八年分一般ノ徵收期限(十九年四月)ヲ越タス十八年度(十八年七月ヨリ)中ニ於テ單ニ繰上ケ(十八年九月或ハ十月)納ヲ請願スルモノハ利引上納差許ス限リニ無之儀ト心得可然哉

第二條 十四年ヨリ廿三年迄拾箇年賦ノモノ假令八廿一年迄納済廿二年分上納額成規ニ照據郡長ヨリ戶長ヘ達シ一般徵收期限ニ至リ廿三年納ノ分ヲ候セ一時上納額出ルハ八箇年納済殘リ二箇年分ノ一時上納ニ付兩年分ノ利子金ヲ引去ル儀ニ候哉又ハ廿二年分ニ於テハ相當可納金額ニシテ殊ニ納期ニ際スルヲ以テ廿三年ニ納ムヘキ金額ニ對シ利引スルモノニ候哉  
指令 十八年七月十七日  
伺之趣左之通可相心得事

第一條 申出之通

第二條 後段申出之通

●福島縣ヨリ地租并ニ地方稅徵收方ノ儀ニ付大藏省ヘ伺 十八年六月十三日

明治十三年十一月第五十二號公布土地賣買讓渡規則第四條ニ第一條ノ手續ヲ以テ其土地所有權ヲ移轉スルヲ得ルト

雖ハ地租并地方稅ハ地券ニ記載スル姓名ノモノヨリ之ヲ徵收スヘシトアリ又十七年三月第七號公布地租條例第十二條ニ地租ハ地券記名者ヨリ徵收ストアルヲ以テ何レモ地券面ニ依リ徵收スヘキハ勿論ノ義ニ有之候得共地券書換(賣買等)下與ノ月日ハ廳認又ハ郡役所(書換願書進達ノ月日)ヲ記載スヘキ旨十三年八月十二日付當縣伺ニ對シ地租改正事務局指令ノ次第モ有之因是考フレハ地券書換願書郡役所ニ於テ受理ノ日ハ地券下與ノ日ニシテ則チ券面記名換ノ日ト視做サヘルヲ得サルナリ然ルニ十七年三月三號縣伺第二條ニ對スル大藏省指令ニ依レハ地券書換ノ後戶長役場ヲ經由シ郡役所ニ願出未タ書換下付ニ至ラサル場合ハ地券面記載ノモノヨリ徵收スヘシト有之彼是取扱上矛盾ノ姿ニ立至リ疑義ヲ生シ候條至急御指揮相成度此段相伺候也  
指令 十八年八月十九日

伺之趣ハ三重縣ヘ指令之通可相心得事

●民有地第二種ノ土地荒地トナリタル片年期限附與方其他ノ儀ニ付神奈川縣ヨリ大藏省ヘ伺 十八年四月二十三日

民有第二種ノ地荒地ト爲リタル片處分方ニ付テハ別ニ例規モ無之ニ付左ノ通相心得可然哉  
一 民有第二種ノ地荒地トナリタルトキハ拾箇年已内相當年期ヲ附與シ原地目ニ復サシムルモノトシ年期明ニ至リ原地目ニ復セサルトキハ繼年期ヲ附與シ再處ノ繼年期ニ制限ナキモノト心得ヘキ哉  
但原地目ニ復ササルモ有租地地目ニ變スルハ有租地成トナスハ勿論ナルヤ  
一 右荒地券記載方ノ儀ハ有租地ノ例ニ倣フヘキ哉  
一 海成川成湖水成ノ如キハ再應繼年季ノ末到底原地ニ復シ難キモノト視認スルハ海川湖ニ歸シタルモノトシ地券還納セシムヘキ哉  
一 荒地賣限ハ有租地ノ例ニ倣ヒ適宜調整シ可然哉  
一 御省十七年第五十六號御達地租表其他様式中免租地段別表記載方ハ段別ノ目へ横線ヲ引キ内荒地段別ノ一區ヲ設

ケ記入シ可然哉

指令 十八年八月廿六日

伺之趣左之通可相心得事

第一項民有第二種ノ地ハ荒地トナルモ年期ヲ附與スルニ及ハス

但書申出ノ通

第二項伺之通

第三項海成川成湖水成以後三拾年經過シ尚ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川海湖ニ歸スルモノト

シ其地券ヲ還納セシムヘシ

第四項十七年當省第八拾九號達免租地察帳中増減欄内へ朱字ヲ以テ其負數等ヲ掲記シ而シテ差引現在額欄内反

別之内書ニモ記載シ置クヘシ

第五項十七年當省第五拾六號達免租地反別表中反別之内書ニ記載スヘシ

●地租徵收方ノ儀ニ付福島縣ヨリ大藏省へ伺 十八年十月二日

地租ハ該條例第十二條ニ據リ地券記名者ヨリ徵收スヘキニ當質讓與ノ爲メ地券書換書出願シ證印稅ハ直ニ上納ス

ルモ券狀下與以前ハ賣渡讓渡人ヨリ地租徵收スヘキハ勿論ト存セラレ候得共爲念此段相伺候也

指令 十八年十月二十七日

伺ノ趣ハ地券書換出願ノ際証印稅ヲ徵シ其日附ヲ以券狀下付スヘキ儀ニ候條券狀記名者即チ買受讓受者ニ對シ

徵收スル儀ト可相心得事

●沿革要領

明治元年八月諸國ノ稅法ハ先ツ蕪賣ニ仍ラシメ租稅收納方等ノ手續ヲ定ム○五年八月第二百廿

二號布告ヲ以テ田畑賣米ハ勿論雜稅米ニ至ル迄金納ヲ許シ上納期月ヲ定ム○六年七月第二百七

十二號布告ヲ以テ地租改正條例及地租改正施行規則ヲ定メ地租ヲ改メテ地券ニ記スル地價百分ノ三ト爲ス○七

年五月第五十三號ヲ以テ前令ニ第八章ヲ追加シ地租改正後五ヶ年間ハ當初定メタル地價ニ依リ收稅スヘキ旨ヲ  
布告ス○八年八月第五百五拾四號達ヲ以テ明治九年ヲ以テ一般地租改正ノ期限トス○九年一月第三號布告ヲ以テ  
地租金歩通リヲ以テ收納ノ方法ヲ廢シ地租徵收期限ヲ六期ト定ム○同年五月第六十八號布告ヲ以テ地租改正ノ  
際一郡内等ノ一部分ノ私見ヲ張リ適當ノ地價ニ承服セラル者ハ近傍類地等ノ比準ヲ取リ處分セシム○同年十  
二月第六十一號布告ヲ以テ北海道地租ハ當分地價百分ノ一ト定ム○十年一月第一號布告ヲ以テ地租ヲ減シテ  
地價百分ノ二分五厘トス○同月第八號布告ヲ以テ民有荒地處分規則ヲ定ム○同年二月第十八號布告ヲ以テ地租  
改正後實上地拂下地價シ地等ノ收稅除稅ノ區分ヲ定ム○同年七月第五十三號布告ヲ以テ地租徵收期限ヲ改定  
ス○同年九月第六十二號布告ヲ以テ凶歲租稅延納規則ヲ定メ非常ノ天災ニ罹リ事實難澁ノ村方ハ當分割賦延納  
ヲ許ス○同年第八十號布告ヲ以テ地租ノ内田方ニ限リ半額代米納ヲ許ス○十三年五月第二十五號布告ヲ以テ七  
年第五十三號布告地租改正後五ヶ年間据置ノ地價ハ尚ホ十八年迄据置收稅セシム○同年六月第三十一號布告ヲ  
以テ備荒儲蓄法ヲ定メ十年第六十二號布告凶歲租稅延納規則ヲ廢ス○十四年二月第十四號布告ヲ以テ地租徵收  
期限ヲ改定ス○十五年七月第三十四號布告ヲ以テ脫稅ノ爲メ土地ヲ欺隱スル者ノ處分ヲ定ム○十七年三月第  
七號布告ヲ以テ地租條例ヲ制定シ六年第七十二號布告地租改正條例及地租ニ關スル條規其他本條例ニ抵觸スル  
モノヲ廢ス

第七十八

隱田切開地添地處分方

明治九年五月十二日

隱田切開切添地等ノ儀ニ付テハ明治五年

大藏省第百貳拾六號布達地券渡方規則中第二十

一條及明治六年九月第二百十五號ヲ以及布告候趣モ有之候處更ニ左ノ通被相定候條此旨布告

候事

第一條 隱田切開切添地ノ此布告以前ニ係ルモノ該府縣地租改正濟迄ニ申出ル時ハ其罪ヲ問ハス其者所有ニ可相定若シ之ヲ申出スシテ改正濟後ニ至リ發覺スルモノハ律ニ照シ處分スヘシ

但此布告以後ニ係ルモノハ地租改正濟ノ前後ヲ不論渾テ律ニ照シ處分スヘシ

第二條 廢落殘歩ハ此布告ノ前後ヲ論セス該府縣地租改正濟迄ニ申出ル時ハ其罪ヲ問ハス其者所有ニ可相定若シ之ヲ申出スシテ改正濟後ニ至リ發覺スルモノハ律ニ照シ處分スヘシ

第三條 官簿ニ記載アル地并記載ナシト雖モ從來官山官林用地附屬地等ノ證アル地ヲ私ニ田畑宅地等ニ侵墾セシモノ此布告以前ニ係ルモノハ該府縣地租改正濟迄ニ申出ル時ハ其罪ヲ問ハス其民有地トナシ差支ナキモノハ其者へ素地相當代價ヲ以可拂下其民有トナシ難キモノハ直チニ返地セシメ事情ニヨリテハ更ニ借地差許ス儀モコレアルヘシ

第四條 前條侵墾地地租改正濟後ニ至リ發覺スルモノ及此布告以後ニ係ル侵墾地ハ渾テ律ニ照シ處分スヘシ

第五條 前條ノ地ハ舊藩縣ヨリ開墾願濟ノ分タリモ未タ地代金ヲ納メスシテ未著手ノモノハ直ニ返地セシメ其民有地トシテ差支ナキモノハ更ニ相當代價ヲ以其者へ可拂下其地代金ヲ納メスモ已ニ著手スルモノハ直ニ其者ノ所有ト定ムヘシ

第六條 凡ソ民有ニアラサル地ヲ私ニ賣買或ハ質入トナス者此布告以前ニ係ル分地租改正

濟迄ニ申出ルモノハ其罪ヲ問ハス其民有地トナシ差支ナキモノハ賣買并流質地共買得者及質取主へ其儘無代價ニテ下渡其民有地トナシテ差支アルモノ并質地年限中ノモノハ官有地ニ編入スヘシ此布告以後ニ係ルモノハ地租改正濟ノ前後ヲ不論律ニ照シ處分スヘシ

●同指令

●開墾地許可以前著手候者處分方之儀ニ付滋賀縣ヨリ内務省へ伺十六年三月十六日

民有地ヲ開墾セントスルモハ明治七年第百二十號布告ニ據リ出願許可ヲ請フヘキ著ノ處往々無願ニテ著手スルモノ有之夫レヲ問フヘキ法律ヲサカカ爲メ取締難相立ヲ以テ右等ノモノハ本願限リ左ノ通取扱度候

一 無願ニテ開墾著手セシモノハ其地ノ熟否ニ不拘直ニ其開墾地目田ニ改メ近傍同地目比準ノ地價ニ修正シ一切賦下年期ヲ與ヘサルモノトス

一 無願ニテ開墾シ後發覺シタルモノハ其開墾著手セシ年ニ過リ修正地價ニ據リ地租追徴スルモノトス右之通相定メ管下へ布達發度御覽支無之候ハ、御允可被下度此段相伺候也

指令〔大藏省〕 十七年一月二十三日

一 付別段取締向管内布達ニ不及儀ト可心得事  
但處分濟之上第一項二項共現地目ニ據リ著手之年ニ過リ相當之地價ヲ査定シ徵稅スル儀ト心得ヘシ

●沿革要領

明治五年二月大藏省第二十五號布達ヲ以テ地券渡方規則ヲ定メ規則中廢落殘歩等處分方ヲ掲ク  
○六年九月第三百十五號布告ヲ以テ前令觀スル處ノ明條ヲ廢シ廢落殘歩等改正後ニ至リ發覺スル時ハ欺隱田權律ニ照シ刑ニ處セシム  
○九年五月第六十七號布告ヲ以テ隱田切開切添地等ノ處分方ヲ定ム

第七十九 地券渡方規則

明治五年二月二十四日  
大藏省第貳拾五號布達

今般地所永代賣買被差許候ニ付今後賣買並讓渡ノ分地券渡方等別紙規則ノ通可相心得事

(別紙)

地所賣買讓渡ニ付地券渡方規則

第一條 地券相渡候節地券ハ最前ノ雛形通りニ製シ地主ヘ相渡地券大帳ハ二ツ折帳ニ仕立  
半枚ニ二筆宛記載シ券狀ト割印可致置事五年第百十五號省達ヲ以テ本條但書共全條改正

但腹書多分有之分ハ見計タル可キ事

第二條 地券大帳ハ年々收税ノ照準ニ致シ地券渡濟ノ上一村限地所之段別地券金高トモ總  
合高取調租稅寮ヘ可差出事上

但總合高取調方別紙表式之通可相心得尤表式ハ追テ可相達事

第三條 地券申受ノ儀ハ別紙願面書式ノ通り相認爲願出可申事

第四條 右願出有之節ハ雙方情實篤ト相糺相違無之候ハ、地券相渡可申事

第五條 一筆ノ地所ヲ裂キ賣買致度旨願出候分ハ實地ニ於テ惣步數ヲ改檢地帳ヘ照合シ引  
分ケ方偏頗無之様篤ト檢査ノ上願ノ趣聞届地券相渡可申事

第六條 右地券ハ地所持主タル確證ニ付大切ニ可致所持旨兼テ相諭置可申候萬一水火盜難  
ニテ地券ヲ失ヒ候節ハ二人以上ノ證人ヲ立村役人連印ヲ以書替ノ儀爲願出可申事

但盜難等ニテ失ヒ候分後日相知レ候ハ、早速可差出旨請書取置可申事

十二年地租改正  
六號通ヲ以テ  
地券ト爲根ト  
ノ割印ヲ廢ス

八年地租改正  
申務局甲第一  
號布達ヲ以テ  
紙印願裏書式  
ヲ廢シ爾後別  
紙ヲ以テ券狀  
書替願出シム

第七條 初度地券相渡候以後賣買讓渡シ并代替リ其外實地流込等ニテ持主相替リ候節ハ地  
券ノ裏ヘ雛形ノ通相認地券書替ノ儀爲願出可申事

第八條 右書替願出候節ハ其情實ヲ吟味シテ後新地券ヲ渡シ舊券ヲ取消スヘシ尤大帳ヘモ  
地主相替リ候趣並地代金増減ノ有無年月日共詳記シ置一箇年分取經メ大藏省ヘ可届出事

第九條 山林原野其他ノ地所共賣買讓渡ニ付地券相渡候分總テ同様可相心得事

第十條 願ニヨリ荒蕪ノ地所拂下ケ候節ハ同様地券可相渡事

第十一條 新規書替共地券申受候節證印稅トシテ左ノ通り上納可爲致事十四年第三十號稅  
布告ニ依リ証印ヲ  
除ク

第十二條 七年第百三十三號  
公達ヲ以テ廢ス

第十三條 五年第八十三號  
省達ニ依リ除ク

第十四條 既往ニ  
付除ク

第十五條 一筆ノ地所ヲ裂キ賣買致シ候儀願ニヨリ差許候ニ付テハ舊地主ヘ殘置候分並裂  
地ニ致候分トモ地所ノ番號ハ在來ノ儘据置幾廉ニ分裂候共何番ノ内誰持地ト記シ可申券

狀番號ノ儀ハ地所ノ番號ニ不拘券狀渡ノ順番ニ可致事五年第百二十六號省達ヲ以テ本條  
同年第九十四號第百三十二號省達ヲ編入シテ布達ス

第十六條 八年地租改正局減ス  
八年地租改正局減ス

第十七條 八年地租改正局減ス  
九年地租改正局減ス

第十一類 租稅及貨紙幣公債

九年第六十七號  
九年第六十八號  
九年第六十九號  
九年第七十號  
九年第七十一號  
九年第七十二號  
九年第七十三號  
九年第七十四號  
九年第七十五號  
九年第七十六號  
九年第七十七號  
九年第七十八號  
九年第七十九號  
九年第八十號

第十八條 八年內務省甲第八號  
第十九條 八年地租改正局乙第  
第二十條 八年地租改正局乙第  
第二十一條 從前切添切開並高外地へ試作致シ候歟或ハ除地見捨地等へ家屋取立候歟林取  
ノ類開發致シ候種類其他隱田タリ共此度限リ一切差許候間有體可書出旨可申渡事  
第二十二條 地券相渡シ候後ニ於テ隱田等有之候節ハ此規則第十二條密賣買ノ例ヲ以テ處  
置可致事  
但隱田ハ賣買ノ代金無之候ニ付地所ノニ取上可申且其地所ハ入札拂取計右代價ノ三分  
通リ村役人ヨリ可取立事  
第二十三條 從前切畝致シ檢地帳名寄帳小拾帳等ニ突合ザル共現地ノ景況ニ隨ヒ總テ地引  
繪圖可差出旨說示可致事  
第二十四條 反別等持主申立ヲ以テ檢地帳へ引合セ相違無之分ハ据置ノ積相心得檢地竿入  
等取計不及候得共地所境界紛雜取調差支候向ハ一筆限畝杭ヲ打地引繪圖爲差出落地無之  
檢實地檢査可致事  
但餘歩有之地所檢地帳ニ比較増歩相成候分ハ人民申立之通據置右ニ相反シ檢地帳ヨリ  
減歩相成候地所竿入檢査ノ上減歩可致事  
第二十五條 從前高内外ニ不拘社寺鄉藏之類或ハ埋葬地等地主定リ無之分ハ地引繪圖中ニ

其譯可記置事

第二十六條 村持ノ小物成場山林ノ類ハ地引繪圖中色分致シ可申事  
第二十七條 堤外附寄洲又ハ流作場等不定地ノ類大繩場ニ相成居持主有之候ハ、格別確定  
之持主無之地所ハ入札拂ニ致シ持主相定メ可申若シ持主ニ難相定分ハ拜借地ノ積可相心  
得事  
第二十八條 從前高内外ニ不拘鄉藏敷村圍穀積藏敷之類人民ニ關係ノ分ハ地券ヲ定メ一村  
總持ト可致事  
第二十九條 堰料堤敷道敷川床敷等ノ類潰地高内永引之分ハ自今無稅地ニ相定メ可申事  
第三十條 墓所地ハ從前之通無稅地ト可致事  
第三十一條 本田畑ト雖ヒ村民退轉致シ持主無之荒地ハ其反別ヲ點檢致シ入札拂ノ積相心  
得管内普ク希告可致事  
第三十二條 持主有之荒地ハ反別坪數等綿密ニ遂檢査起返ノ手數勘辨ノ上至當ノ年期ヲ定  
メ代價ヲ記セサル券狀ヲ其持主ニ相渡年期中無稅ト可相定事  
但荒地券狀證印稅ハ反別ノ多小ニ不拘一筆ノ地所ヨリ五錢ノ印稅ヲ收入スヘシ  
第三十三條 十年地租改正局乙第十  
第三十四條 村持之山林郊原其地價難定土地ハ字反別ノニ記セル券狀へ從前ノ貢額ヲ記シ  
肩ニ何村公有地ト記シ其村方へ可相渡置事、



但池沼ノ種類モ同斷之事

第三十五條 兩村以上數村入合ノ山野ハ其村々ヲ組合トシ前同様ノ仕方ヲ以テ何村何村ノ公有地ト認メ券狀可渡置尤其券狀ハ組合村方年番持等適宜ニ可相定事

第三十六條 總テ山林原野ノ類反別難相分ハ先以テ無反別ニ致シ漸次點檢ノ積可相心得事  
第三十七條 總テ右種類ハ他界ヲ券狀ニ記載ス可シ譬ヘハ東耕地西字何山南某川北某村字何原ト如斯詳カニ記注ス可キ事

第三十八條 従前無稅地ニ住民有之候得共地位下等ニシテ他ヨリ畧人ナキヲ以テ地價ノ目的難相立節ハ二反歩<sup>則三百歩</sup>ニ付十圓以上ノ地價ニ定ム可キ事

第三十九條 地所引合相濟候ハ、落地無之旨地主一同調印之上戸長以下ノ誓文請書可申付事

第四十條 右種類地有稅無稅ノ區界ヲ仕譯村限リ地券臺帳ノ末ニ記載可致事  
右之通相達候事

●沿革要領

明治四年十二月廿七日布告ヲ以テ東京府下武家地町地ノ稱ヲ廢シ一般地券ヲ發行シ地租ヲ徵セシム  
○五年二月大藏省第二十五號布達ヲ以テ地所賣買讓渡ニ付地券渡方規則ヲ定メ券狀書換ノ節印稅ヲ徵ス  
○同年四月第百廿四號布告ヲ以テ地所賣買讓渡外國人ヘ賣買讓渡買入書入等ト爲スヲ禁ス  
○同年大藏省第八十三號布達ヲ以テ本年當省第二十五號布達第十三則ニ從來持地ノ分ハ追テ地券ヲ渡スヘキ旨記載有之處即令一般ニ地券ヲ渡サシム  
○六年十二月第百九十六號布告ヲ以テ地券渡方規則中印稅ノ儀自今代替水火盜難ニヨリ書換ノ節ハ券面代價不拘券狀一枚ニ付金五錢ヲ徵收ス  
○七年十月第百四號ヲ以テ地所賣買スル者地

券ヲ受ケサレハ所有ノ權ナク其地券ヲ受ケスレテ後日發覺スル時ハ印稅一倍ノ罰金ヲ科ス  
○八年六月第百六號布告ヲ以テ前令ヲ改正シ地所賣買スル者地券ヲ受ケサレハ其地所有ノ權ナキモノトス  
○同年十月第百五十三號布告ヲ以テ家督相續或ハ贈遺等ニ由テ地所讓受ノ節地券書換手續ヲ定メ其讓受タル日ヨリ滿六ヶ月ヲ過キ書換願出サルルハ印稅五倍ノ料科ニ處ス  
○同年十一月地租改正事務局第一號布達ヲ以テ地券渡方規則中讓渡印願裏書々式ヲ廢シ自今別紙ヲ以テ願出シム  
○九年五月地租改正事務局第一號布達ヲ以テ六年第百九十六號布告代替並水火盜難ニヨリ地券書替及荒地其他無代價地券書換ノ節ハ印稅一通ニ付費錢ト改ム  
○九年九月第百十八號布告地租改正後地券書替印稅ハ五ヶ年間據置ノ地價ニ依リ收入ス  
○同年十一月內務省地租改正事務局第七百三十號達詳ノ儀ハ其田畑本地ノ地租ニ編入シ券狀面外書ニ登記セシム  
○十二年二月第六號布告ヲ以テ地所賣買讓與等ノ節券狀餘白アルモノハ其裏面ニ確認ノ證ヲ記シテ下付シ印稅ハ従前ノ通徵收セシム  
○同年十一月第五十二號布告ヲ以テ土地賣買讓渡規則ヲ定メ八年第百五十三號布告ヲ廢シ家督相續等ニ依リ土地ヲ讓受タル者相續ノ日ヨリ滿六ヶ月以内ニ地券書替又ハ裏書願書ヲ差出サル者ハ印稅五倍ノ料科ニ處ス  
○十四年五月第三十號布告ヲ以テ地券證印稅則ヲ改正ス

第八十 地所賣買讓渡等ノ節地券狀餘白アルモノハ確認ノ証ヲ記シテ下

附セシム 明治十二年二月十日 第六號布告

地所賣買讓與等ノ節ハ總テ地券書換下ケ渡スヘキ成規ノ處自今其券狀餘白アルモノハ管轄廳ニ於テ其裏面ヘ確認ノ證ヲ記シテ下ケ渡スヘシ此旨布告候事  
但證印稅ノ儀ハ従前ノ通

○地券狀ヘ確認ノ證記載方 明治十二年二月十二日 第七號府縣ヘ達

今般第六號布告ノ通地券替換ノ備改正候三付爾後各地方廳ニ於テ確認ノ證ヲ記スルハ別紙雛形ノ通タルヘシ此旨相達候申

(別紙等ス)

○地券取扱順序 明治十二年三月三十一日 地租改正事務局第三號府廳へ達

本年當局ニ第二號達ヲ以テ地券裏面封割内へ記名所有權ヲ移シ候ニ付テハ舊式別紙雛形ノ通ニ候條爾後左ノ順序ニ照準可取扱此旨相達候申

但地券下取及ヒ替換ノ事務ハ以來區郡長ニ於テ爲取扱可申最地券置帳ハ各區郡役所へ下ケ渡置可申事 (別紙)

地券取扱順序

所有主變換確認ノ証印ヲ乞フ時ハ裏面封割内へ別紙雛形ノ如ク官姓名ヲ記入捺印シ其旨ヲ置帳ニ登記シ之ヲ下附スヘシ 同年同局ニ第五號達  
シヲ以テ次項ヲ削除ス  
裏面ノ反別或ハ地價地租ニ附減ヲ生スルハ必ス新規替換ユルモノトス  
取人ノ反別或ハ地價地租ニ付減ヲ生スルハ必ス新規替換ユルモノトス  
取人以上共有ノ地ハ成ル可ク其姓名ヲ悉記スヘシト雖モ餘白ナキモノハ何人ト記シ連名簿ニ冊ヲ添付セシムヘシ  
前條連名簿ヲ要スルモノハ表面ハ地租ノ次野へ裏面ハ欄内名面ノ上ニ別冊連名簿添付ト記入(雛形第三號ノ如シ)シ券狀ト共ニ下附スヘシ最モ一冊ハ之ヲ區郡役所ニ留置クモノトス  
取人共有ノ地所券面記名ノ者賣買讓與等ニ係ルハ普通ノ手續ヲ以テ所有ヲ移スベシト雖モ若シ外何人ト記入ノ内賣渡讓與等ニ係ル如キハ連名簿中ノ賣主ノ姓名ヲ抹消シ其結尾へ買主ノ姓名ヲ記入シ上頭へ年月日何某分買得或ハ讓受ト朱記進達セシメ區郡役所ニ留置ク處ノ名簿モ同ク更正ヲ加ヘ一冊ハ之ヲ下戻スヘシ  
但買主ノ姓名ヲ結尾へ記入シ難キ節ハ賣主則チ抹消セシ姓名ノ上頭へ記載スルモ苦シカラズ  
所有主變換及ヒ改姓名ハ朱書ヲ以テ(雛形第一第二號ノ如シ)更正主任之レニ捺印シ置帳ヲ訂正スヘシ  
但共有者連名簿添付セシモノニテ外何人ト記名ノ者改姓名等ハ連名簿ニ年月日改姓名或ハ轉居等記入進達セシメ區

郡役所へ留置キシ名簿訂正ノ上下ケ戻スヘシ

地券下取及ヒ替換ヲ爲シタルモノハ壹ヶ月毎ニ取束テ簡明ノ表面ニ記載シ府廳廳へ報告致サスベシ

(括弧内ハ朱書)

<p>〔一號 轉居〕</p> <p>何國何區何村</p> <p>○何國何區何村</p> <p>何 某</p>		<p>〔改姓名〕</p> <p>何 某</p>
<p>表書ノ地所自今右記名者ノ所有タルヲ確認ス</p> <p>主事</p> <p>區長 何某○</p> <p>明治何年何月何日</p> <p>〔二號〕</p>		<p>何國何區何村</p> <p>何 某</p> <p>何 某</p> <p>何 某</p> <p>何 某</p>



甲者へ地所ヲ拂下或ハ無代下付シ地券授與前甲者ヨリ右地所ヲ乙者へ賣渡二人連署シ者氏名ノ地券下付ヲ請願セル  
其ハ直ニ乙者ニ地券ヲ授與シ苦シカラズヤ

指令 十六年十一月九日

伺ノ趣一旦甲者へ地券ヲ下付シ更ニ乙者へ賣換出願セシムヘシ

第八十一 田畑石高ノ稱ヲ廢シ反別ヲ以テ換用ス 明治六年六月八日  
第百九拾四號布告

田畑石高ノ稱ヲ廢シ總テ反別ヲ以テ換用候條此旨相達候事

第八十二 地券證印稅 明治十四年五月二十五日  
第三拾號布告

地券證印稅左ノ通改正明治十四年七月一日ヨリ施行シ從前ノ證印稅則ハ同日ヨリ廢止候條  
此旨布告候事

地券ニ記セシ 證印稅則

金高拾圓未滿

券狀壹通ニ付  
二錢

金高貳拾圓以上

千分ノ五  
即拾圓ニ付五錢

金高貳百圓未滿

壹圓

金高五百圓未滿

壹圓貳拾五錢

金高千圓未滿

壹圓五拾錢

金高貳千圓以上

貳圓五拾錢

金高五千圓以上

三圓七拾五錢

金高壹萬圓以上

五圓

左ニ掲クルモノハ券面代價ノ有無ニ拘ハラズ券狀壹通ニ付三錢トス

代換授與并ニ水火盜難ニヨリ地券書換

荒地其他無代價地券授與書換

荒地起返及開墾餘下年季明其他一筆地ヲ數筆ニ分裂數筆地ヲ一筆ニ合併等ニテ所有主變

換セサル地券書換

○地券證印稅上納方 明治十八年九月二十四日  
大藏省第六拾八號府縣(沖繩縣ヲ除ク)へ達

自今地券證印稅ハ地券書換願書進達ノ際直チニ上納セシムヘシ

但明治十三年五月三十一日舊地租改正事務局總裁連署達ハ取消ス

右相達候事

●同指令

●地券書換證印稅徵收ノ儀ニ付福岡縣ヨリ大藏省へ伺 十六年七月廿四日

地所賣買讓渡(代替ヲ除ク)等ニ依リ地券書換出願中破約セシヲ以テ下戻ヲ請フニ郡役所ニ於テハ既ニ書換ヲ畢ヘタ  
ル後ナレハ又之カ書換ヲ爲サヘルヲ得ス斯ノ如キモノ、證印稅ハ最初ノ書換ハ(賣買讓渡ノ名義ヲ以テ結了シタルモ  
ノナレハ)券面代價ニ據リ徵收シ再度ノ書換ハ(破約ニ歸シタル後至ク更正ノ書換ナレハ)一通三錢徵收スヘキヤ又ハ  
前後兩度トモ三錢宛徵收シ然ルヘキヤ右相伺候也

指令 十六年八月八日

最後書換ニ係ル証印稅三錢ヲ徵收スルニ止ムヘキ儀ト可相心得事

●証印稅徵收方ノ儀ニ付兵庫縣ヨリ大藏省ヘ伺 十七年四月二十三日

戶主死亡跡甲家督相續シ地券書換ノ後シ其相續ヲ不當ナリトシ出訴裁判ノ末シ相續人ニ確定シ地券書換出願セハ替  
通代替讀與ノ例ニ據リ印稅徵收シ然ルヘキヤ又ハ甲相續ノ際相當ノ手續ヲ經テ書換タル地券ナルニ其後彼我ノ爭ヒ  
ヨリ得タルヲ以テ親族讀與ノ例ニ據リ印稅徵收シ然ルヘキヤ

指令 十七年五月五日

前段申出ノ通

〔第八十三〕 北海道諸產物出港稅則並各港船改所規則 明治十年八月十一日

明治八年二月第十四號布告北海道諸產物出港稅則並各港船改所規則別冊ノ通改正本年九月一

日ヨリ施行候條此旨布告候事

別冊

北海道諸產物出港稅則並各港船改所規則

第一條 北海道諸產物 蠶繭類酒類麻卵 各府縣へ輸送ノ節ハ官私用品ヲ除クノ別ナク出港

稅トシテ其原價百分ノ四ヲ貨主ヨリ下條ニ掲載スル一ノ船改所ニ納ムヘシ

但本文ノ稅金ハ船長ニ於テ取纏メ送外國船ヲ以輪送ノ節ハ貨主納入ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條 船改所有之各港

渡島國龜田郡函館港 同 國松前郡福山港 同 國檢山郡江差港

後志國小樽郡小樽港 同 國壽都郡壽都港 同 釧路國厚岸郡厚岸港

根室國根室郡根室港

左ノ十一ヶ所ニ於テ毎年五月ヨリ十月マテノ間船改派出所ヲ置キ船改所同條ノ事務ヲ取扱  
フヘシ 十三年第三十三號布告ヲ以テ本文(十ヶ所)トアルヲ(十一ヶ所)トシ(石狩)ノ次(増毛)ノ一  
ノ一項ヲ加ヘ(同)第五十一號布告ヲ以テ各港ノ部(根室港)ノ一項ヲ加ヘ(派出所)ノ部(根室  
島郡吉岡)ヲ(松前郡吉岡)ニ上磯郡當別ヲ(上磯郡石別)津輕郡江長町ヲ(松前郡江長町)ト改メ十  
八年第四號布告ヲ以テ船改派出所ノ部ニ釧路花咲ノ二箇所ヲ増シ同年第十九號布  
達ヲ以テ各港ノ部室蘭港ヲ廢シ更ニ余市鬼鹿利尻ノ三箇所へ船改派出所ヲ増設ス

渡島國松前郡吉岡 同 國上磯郡石別 同 國松前郡江長町

同 國爾志郡熊石 後志國古平郡古平 同 國岩内郡岩内

同 國余市郡余市 石狩國石狩郡石狩 天鹽國増毛郡増毛

同 國留萌郡鬼鹿 日高國浦河郡浦河 北見國利尻郡利尻

釧路國釧路郡釧路 同 國厚岸郡厚岸 根室國花咲郡花咲

千島國振別郡振別

第三條 諸產物ノ原價ハ右各港ニ於テ每月上中下旬三度賣買相場ヲ蒐集シ之ヲ査定スヘシ  
但相場詳ナラサル物品ハ賣買仕切狀ヲ檢査シテ之ヲ定ムヘシ

第四條 諸船舶各府縣下ヨリ北海道へ入船スルルハ船免狀或ハ船稅鑑札ヲ添へ第一號書式  
ノ通其港津船改所或ハ地方役所又ハ區戶長役へ速ニ届出ヘシ

第十一類 租稅及貨紙幣公債

但北海道産物ニ類似ノ品物ヲ青森秋田兩縣下等ヨリ回漕スル分ハ其品名數量ヲ詳記シタル仕出場ノ送狀或ハ賣買仕切狀ヲ添届出ヘシ

第五條 北海道各港津ヲ回漕スル諸船舶ハ出帆ノ節甲港船改所或ハ地方役所へ申出改所役所ニ於テハ第二號書式ニ法リタル檢印帳ヲ付與シテ回漕セシムヘシ其船乙港へ入津セハ乙ノ船改所或ハ役所へ速ニ檢印帳ヲ納メ置キ出帆ノ節乙港ノ檢印ヲ乞フテ携帶スヘシ丙港ノ出入モ亦之ニ準ス

但回漕數月ニ涉ル船モ該年中ハ一ノ檢印帳ヲ用ヒシメ翌年ハ更ニ之ヲ付與スヘシ

第六條 諸船舶北海道内ヨリ各府縣へ向ケ回漕ノ節ハ第二條ニ掲クル各港ノ内何レカ一港へ入船シテ其船改所へ檢印帳ヲ還納シ第三號甲ノ書式ニ法リタル出港稅納目錄二通ヲ差出シ產物積載セサル節ハ第四號甲書式ノ出帆届二通ヲ差出スヘシ改所ニ於テハ審査ノ上產物積載セタルハ定則ノ税金ヲ領收シ第三號乙ノ書式ニ法リ產物積載セサルハ第四號乙ノ書式ニ法リ與書シテ一通ハ留置キ一通ヲ下付シテ出帆差許スヘシ

但許可ヲ得タル後都合ニ依リ三日以内ニ出帆セサル船ハ更ニ其旨ヲ届ケ出ツヘシ

第七條 船改所ナキ地方ヨリ產物積取直ニ各府縣へ輸送セント欲スルモノハ其積受ノ地へ航行ノ節第二條ニ掲クル各港ノ内何レカ一港へ入津シ豫メ其積取ルヘキ產物ノ高ヲ計算シ第三號甲ノ書式ニ法リタル出港稅納目錄二通ヲ差出シ船改所ニ於テハ前納目錄ノ高ニ從ヒ定則ノ税金ヲ領收シ同號乙ノ書式ニ法リ與書シテ一通ハ留置キ一通ヲ下付シテ直

艫差許スヘシ

但本條許可ヲ得テ其地ニ到リ產物積取ノ節ハ其地方役所ニ申立檢査ヲ受クヘシ役所ニ於テハ出港稅前納濟ノ目錄ニ照較シテ之ヲ檢査シ若シ產物不足ノ節ハ其由ヲ詳記セル書面ヲ右目錄ニ添ヘテ船長へ下附シ船長之ヲ翌年七月迄ニ彙キニ納稅ノ船改所へ差出スニ於テハ過納ノ金額下戻スヘシ

第八條 出港稅納濟ノ諸物産都合ニ依リ第二條ニ掲クル各港ノ内へ揚陸スルキハ該港船改所へ願出ヘシ改所ニ於テハ現品審査ノ上稅納濟ノ目錄ヲ引上ケ税金下戻スヘシ

但出港稅ヲ收納シタル港内ニ於テ難破ノ災ニ罹リ稅納濟ノ產物流没シタル分ハ實際檢査ノ上税金下戻スヘシ

第九條 各港船改所及役所ハ休日ヲ除クノ外毎日午前九時ヨリ午後四時迄船舶出入ノ事務取扱フヘシ尤諸貨物船積卸ハ日出ヨリ日没迄ヲ限リトス

但臨時出入港ノ手數ヲ請ヒ或ハ時限外ニ貨物ヲ積卸セント欲スル者ハ其事由ヲ具シ船改所或ハ役所へ願出ヘシ

第十條 諸船舶出港稅未納或ハ納稅目錄外ノ產物ヲ窃ニ積載各府縣へ輸送セント謀リ又ハ府縣下ニ於テ陸揚スルモノハ科料トシテ船長ヨリ其物品原價其發露スル地方賣買ノ十分ノ二及出港稅ヲ徵收スヘシ

第十一條 各港船改所及役所ニ於テハ每船ノ出入ヲ審査シ若シ此規則ニ循ハサルモノアリ

テ其踪跡詳ナラサルキハ開拓使ヨリ直ニ其船主ノ本管廳へ通報シ本管廳ニ於テハ出港税及科料ヲ徵收シ其事由ヲ詳記シタル書面ヲ添へ同使函館支廳へ送付スヘシ

但北海道回漕中暴風等ノ難ニ罹リ止ヲ得スシテ直ニ府縣下へ入船スルモノハ本條ノ限ニアラサル故其事由ヲ具シ檢印帳ヲ添へ速ニ其地方廳へ届出ヘシ地方廳ハ事實篤ト取糺ノ上疑ナキニ於テハ其現存スル物品ノ出港税價格ヨリ其運賃ヲ除キ之ヲ定ムヲ徵收シテ本文同様送付スヘシ

第十二條 出入港ノ届及檢印帳ノ納受ヲ等閑ニスルモノ或ハ許可ヲ得スシテ時限外ニ荷物ヲ積卸シスルモノハ左ノ算則ニ從ヒ船長ヨリ科料ヲ徵收スヘシ

日本形船 五十石マテ 金拾五錢

五十一石以上十石コトニ壹錢ヲ加フ

外國形汽船 三十噸マテ 金五拾錢

三十一噸以上十噸コトニ拾七錢ヲ加フ

同風帆船 三十噸マテ 金三拾錢

三十一噸以上十噸コトニ拾錢ヲ加フ

第十三條 總テ犯則ノ者ヲ他ヨリ訴出ル時ハ犯人科料ノ半額ヲ賞トシテ與フヘシ

(書式畧ス)

○根室縣下拾昆布税及函館縣下帆立身税 明治十七年二月十六日 第四號布告

根室縣下千島國及北見國秋別郡網走斜里ノ四郡ニ於テハ拾昆布稅收獲高ノ現品一割ヲ徵收シ函館縣下渡島國松前郡ニ於テハ帆立身稅收獲高ノ現品二割ヲ徵收ス但本年五月一日ヨリ施行ス 右奉 勅旨布告候事

○北海道ニ於テ納稅スヘキ水產物ヲ取獲シ又ハ水產物ヲ有稅品ニ製造セントスルモノハ其地ノ管廳へ願出許可ヲ受クヘシ違フモノハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其物品ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徵ス 十八年第三號布告ヲ以テ(取獲)ノ下(シ)又ハ(製造)ノ十三字ヲ追加ス 右奉 勅旨布告候事

○北海道ニ於テ臘虎並臘脚獸ノ獵獲ヲ禁ス 明治十七年五月二十三日 第拾六號布告 自今北海道ニ於テ臘虎并臘脚獸ヲ獵獲スルヲ禁ス犯ス者ハ刑法第三百七十三條ニ照シテ處斷シ仍ホ其獵獲物ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス 但農商務卿ノ特許ヲ得タル者ハ此限ニアラス 右奉 勅旨布告候事

○北海道各津船舶貨物積卸手續ヲ定ム 明治十一年七月八日 關稅使甲第七號布達 昨明治十年第五拾六號御布告北海道諸產物出港稅則並各港船政所規則第四條第五條第六條ニ據リ廻漕ノ諸船舶北海道各港津ニ於テ貨物積卸檢査ノ手續左ノ通相定候條此旨布達候事

第一條 諸船北道各港津ニ於テ積貨物積卸ノ節ハ其積卸前貨物ノ總目録積荷目録アルトヲ船長ヨリ其港船改所或ハ地方役所又ハ區戶長役へ提出シ改所役所ハ右目録ニ照シ波止場ニ於テ其品目數量ヲ検査スヘシ尤船船幅濶ノ節ハ艀船毎ニ切符ヲ附與シ本船ノ積卸ヲ監視スルコトアルヘシ

第二條 各港津ニ於テ定メタル波止場ノ外ニ於テ積貨物ヲ積卸シ或ハ船移シスヘカラス尤已ヲ得サル事故アルトキハ其事由ヲ具シ其港船改所或ハ地方役所へ願出ヘシ

但北海道諸產物ニ限リ日没ヨリ日出マテノ間ハ積卸及船移シスルヲ許サズ

第三條 北海道内廻漕ノ船船第一條ノ手續ニ隨ヒ各港津ニ於テ検査済ノ北海道產物ヲ積卸セントキハ其港船改所或ハ地方役所ニ於テ出港稅則第五條ニ據テ付與スル檢印帳へ其品目數量ヲ加書スヘシ尤其船府縣へ廻漕ノ節ハ右檢印帳ニ據リ出港稅則第六條ノ手續ヲナスヘシ

但出港稅收納ノ際船改所ニ於テ檢印帳ヲ検査シ本船ニ積載セタル產物ノ數量ト差違ノ疑ヒアルモノハ其現品ヲ揚陸セシメテ之ヲ検査スヘシ

第四條 各港津ニ於テ定メタル波止場ト雖トモ總目録及檢印帳ニ記載セサル貨物ヲ積卸スルモノ或ハ許可ヲ得スシテ波止場外ノ海岸ニ於テ積卸シ及船移シスルモノ等北海道諸產物ハ出港稅則第六條其他ノ物品ハ同第六條ニ據リ檢載セシメテ之ヲ徵收スヘシ

沿革領要

明治元年十二月廿日和館產物問屋仲買ノ名目ヲ改メ和館產物賣捌人ト稱シ大坂兵庫敦賀等ニ於テ會所取建引請取扱候ニ付會所ノ取扱ヲ經スシテ賣買スルコトヲ禁ス○八年二月第十四號布告ヲ以テ北海道產物出港稅則及船改所規則ヲ定ム○十年八月第五十六號布告ヲ以テ前令ヲ改正ス○十七年二月第四號布告ヲ以テ根室縣下千島國及北見國四郡ニ於テ拾昆布稅ヲ徵シ函館縣下渡島國ニ於テ帆立身稅ヲ徵ス○同年五月第十二號布告ヲ以テ北海道ニ於テ納稅スヘキ水產物ヲ收獲セントスル者出願手續及罰例ヲ定ム○同年第十六號布告ヲ以テ北海道ニ於テ鷹虎並臨貳獸ノ獵獲ノ禁ヲ犯ス者處分ヲ定ム

八年第百六十  
三號布告ヲ以  
テ西洋形日本  
船各開港場出  
入規則ヲ定ム  
〔第三十四〕

外國形日本船輸出入稅未納內外貨物廻漕規則

明治八年二月七日  
第貳拾號布告

外國形日本船輸出入稅未納內外貨物廻漕規則別冊ノ通相定本年四月一日ヨリ施行候條此旨  
布告候事

(別冊)

外國形日本船輸出入稅未納內外貨物廻漕規則

第一條 日本郵船會社其他日本船ニテ日本沿海廻漕免許ヲ得タル外國形船舶ニ限リ自今國內各開港場間ニ輸入稅未納ノ外國貨物并ニ貨主外國人ニテ輸出稅未納ノ內國貨物廻漕差許候就テハ從來内外交涉密賣買ノ儀ハ嚴禁ノ處尙右ニ類スル所業有之候テハ不相濟儀ニ付廻漕規則ヲ設ルコト左ノ如シ

第二條 凡ソ外國形ノ日本船舶ハ都テ出入港手數并ニ諸貨物船積船卸共各開港場ニ於テハ稅關ノ所轄トス

第三條 前條ノ船滯港中ハ稅關ヨリ監吏乘勤スヘシ

第四條 前條ノ船貨物ヲ船積シ或ハ船卸スルハ日出ヨリ日没迄ニ限ルヘシ若シ夜中竊ニ貨物ヲ積卸スル時ハ其現品ヲ沒收シ且其品價同額ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ但日没ヨリ日出迄ハ船中ノ艀口ヲ固封シ置ヘシ若シ勝手ニ開封スル時ハ其船長或ハ其



會社ニ金六十圓ノ罰金ヲ課スヘシ

第五條 甲港ヨリ乙港ニ廻漕スル前條ノ船ニ未納稅内外貨物ヲ積入レ乙港ニ輸送セント欲スル時ハ其貨主或ハ其引受人ヨリ差出書各稅關ニ用フルニ貨物ノ品種箇數記號番號元價等詳細相認メ積送ノ儀稅關ヘ願出貨物檢査濟ノ上積送免狀ヲ受ケ積入ルヘシ若シ此手數ヲ經スシテ積入ルヘ時ハ其現品ヲ沒收ス故ニ其船長或ハ會社タル者ハ必ス右免狀ヲ點視シ之ニ照シテ其品ヲ積入ルヘシ若シ無免狀ノ貨物ヲ積積セハ事ノ成否ヲ問ハス其會社或ハ其船長ヘ其品價同額ノ罰金ヲ課スヘシ

第六條 甲港ニ碇泊スル外國船ヨリ都合ニヨリ直ニ貨物ヲ船移シ乙港ニ積送ラント欲スル時ハ其貨主或ハ其引受人ヨリ船移廻漕ノ差出書各稅關ニ用フルニ貨物ノ品種箇數記號番號等詳細相認メ船移ノ儀稅關ヘ願出右免狀ヲ受ケ船移スヘキ儀ナレハ其船長或ハ會社タル者ハ右免狀ヲ點視シ之ニ照シテ其品ヲ船移スヘシ若シ無免狀又ハ免狀外ノ貨物ヲ船移スル時ハ其現品ヲ沒收シ且其品價同額ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ

第七條 前條ノ船舶ヨリ輸出稅未納內國貨物ヲ外國船ヘ積移スルヲ許サス若シ密ニ之ヲ船移シ又ハ船移セント謀ラハ事ノ成否ヲ問ハス其貨物ヲ沒收シ且其會社或ハ其船長ニ其品價同額ノ罰金ヲ課スヘシ

第八條 前條ノ船貨物積入レ甲港ヲ出港セント欲スル時ハ其船長或ハ其會社ヨリ第壹號ノ如ク積送貨物ノ總目錄貳枚壹枚ハ甲港稅關ヘ送キ壹枚ハ乙港稅關ヘ送達スヲ認メ稅關ヘ差出シ出港免狀ヲ受ケ

出港スヘシ若シ此手數ヲ經スシテ出港スル時ハ總目錄ニ記載スヘキ品價同額ヲ罰金トシテ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ

但瀛船ハ出港前壹時帆船ハ出港前二十四時ヲ隔テ、此手數ヲナスヘシ

第九條 前條ノ船甲港ヨリ乙港ニ通港中風順ニヨリ不開港場ヘ入津スルニ輸入稅未納ノ外國貨物或ハ貨主外國人ニシテ內國品ヲ船卸スヘカラス若シ船卸スル時ハ密商スルト否トヲ問ハス其現品ヲ沒收シ且其品價同額及金壹千圓ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ

第十條 前條ノ船乙港ニ入港セハ其稅關ヘ第貳號書式ノ如ク未納稅内外貨物ノ輸入總目錄壹通ヲ差出スヘシ尤此手數ハ入港下碇後休日ヲ除キ四拾八時間ニ爲スヘシ此時間ヲ過ル時ハ一日毎ニ金六拾圓ノ罰金ヲ課スヘシ

第十一條 前條ノ輸入貨物總目錄中若シ誤脱アルヲ覺知セハ休日ヲ除キ二十四時間ニ更正スルヲ得ヘシ若シ此期限ヲ過キ更正スル時ハ金拾五圓ノ罰金ヲ課スヘシ

第十二條 前條ノ輸入貨物總目錄ヲ甲港ヨリ已ニ廻達アリシ積送貨物總目錄ニ照會シ過不足アル時ハ其事由ヲ糺明シ條理判然セサレハ不足ノ貨物ハ甲乙兩港間ニ於テ密商セシ者ト看做シ其品物同價ノ金額并ニ金一千圓ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ若シ貨物過ナル時ハ其現品ヲ沒收シ且其品價同額ヲ罰金トシテ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ

第十三條 前條ノ船入港手數ノ上未納稅内外貨物ヲ陸揚スル時ハ其貨主或ハ其引受人ヨリ差出書各稅關ニ用フルニ貨物ノ品種箇數記號番號元價等詳細相認メ陸揚ノ儀稅關ヘ願出貨

物検査済ノ上陸揚免狀ヲ受ケ陸揚スヘシ若シ無免狀或ハ免狀外ノ貨物ヲ船卸セハ事ノ成否ヲ問ハス其貨物ヲ没收ス故ニ其船長或ハ會社タルモノハ右免狀ヲ點視シ之ニ照シテ其品ヲ船卸スヘシ若シ無免狀或ハ免狀外ノ貨物ヲ船卸セント謀ラハ事ノ成否ヲ問ハス其會社或ハ其船長ヘ其品價同額ノ罰金ヲ課スヘシ

但外國貨物ハ輸入税上納ノ上陸揚免狀ヲ受ケ陸揚スヘシ

第十四條 前條ノ船舶便利ニヨリ此規則ニ關係スル貨物ヲ互ニ船移スル時ハ税關ヘ願出免許ヲ受クヘシ若シ無免狀又ハ免狀外ノ貨物ヲ船移スル時ハ其現品ヲ没收シ且其品價同額ヲ罰金トシテ雙方ノ船長或ハ雙方ノ會社ニ課スヘシ

第十五條 各港税關ハ祝日祭日及ヒ日曜日ヲ除クノ外毎日午前十時ニ開キ午後四時ニ閉スヘシ故ニ此規則ニ揭示シタル時限ト税關ノ開閉時限トヲ謀リ以テ其期限ヲ愆ルヘカラス

第十六條 此他會社或ハ船長タル者貨主又ハ代人ニ與スルト否トヲ問ハス故ラニ税金ヲ脱セント謀リ若クハ其他諸般ノ方略ヲ以テ脱税ヲ謀ル者アレハ金壹千圓ヨリ多カラサル罰

金ヲ課スヘシ若シ其事過失ニ出テ犯則ニ涉ル者アレハ此規則ニ照シテ罰スヘシ

第十七條 總テ事犯則ニ涉ル者其二犯俱發スル者ハ重キニ就テ處分スヘシ

第十八條 若シ此規則ヲ變更スルコトアレハ一箇月前之ヲ布告スヘシ

(書式略ス)

第八十五 酒造税則 明治十三年九月二十七日

第四拾號布告

今般酒造税則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行シ從前ノ酒類税則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告候事

(別冊)

酒造税則

第一章 免許鑑札 税率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出酒造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

一類 醸造酒

清酒 濁酒 其他醸造酒

二類 蒸溜酒

燒酎 酒 精 再 溜 酒 精 其他 (十五年第十七號布告ヲ以テ燒酎ノ下六字ヲ加フ)

三類 再製酒

蒸溜酒 燒酎 酒 精 再 溜 酒 精 其他 (十五年第十七號布告ヲ以テ燒酎ノ下六字ヲ加フ)

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許税及造石税ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ 十五年第六十一號布告ヲ以テ全條改正

酒造免許税

酒造場一箇所ニ付 金三拾圓

酒類造石税

一類壹石ニ付 金四圓

二類壹石ニ付

金五圓

三類壹石ニ付

金六圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セズヲ以テ本項以下追加

清酒

百石

濁酒

拾石

一類 清酒濁酒 二類 三類 五石

新ニ酒造營業ヲナサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ

第五條 酒造營業人不在又ハ事故アル時ハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシム

ヘシ十五年第十七號布告ヲ以テ本條ヲ刪除  
同第六十一號布告ヲ以テ更正追加

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシキハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章 納税 造石検査

第八條 免許税ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條 造石税ハ左ノ二期ニ納ムヘシ十五年第十七號布告ヲ以テ(第一期中ヨリ)ノ下(三月三十一日)ヲ  
(二月中)(第二期四月)ヲ(三月)(六月三十日)ヲ(六月中)ト更正ス

第一期 四月三十日限

十月一日ヨリ二月中検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第二期 七月三十一日限

三月一日ヨリ六月中検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第三期 九月三十日限

七月一日ヨリ皆造検査済石數ニ係ル税額并前納額ノ殘數

第十條 造酒ノ石數ハ總テ管廳ヘ申出検査ヲ受クヘシ

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其節管廳ヘ申出検査ヲ受ケ現石數ニ付納税スヘシ十五年第六十一號布告ヲ  
以テ本項但書共追加ス

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許ノ者其一箇所以上ヲ廢シ尙存セ

ル酒造場ヘ其酒類ヲ移ス時ハ管廳ヘ届出且製成ノ上検査ヲ受クヘシ

第十一條 前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳ノ検査ヲ受ケ其

造石税ヲ納ムヘシ

第十三條 検査未済ノ酒類ヘ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石税ハ總

石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十四條 検査未済ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製第一章第二條中一類ノ酒ヲニ  
類ニ二類ヲ三類ニ變製スル時

ハ造石税ハ其變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十一類 租税及貨紙幣公債

十六年第四十  
三號布告ヲ以  
テ租税官吏ニ  
於テ租税ノ場  
所ニ立入證憑  
取調ノ處分ヲ  
爲スルハ第九  
十五

第十五條 検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石數ニ係ル造石税ヲ納メ更ニ變製ノ石數ニ就テ造石税ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳ヘ届出テ検査ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ検査ヲ受クヘシ

第十六條 皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ直ニ管廳ヘ申出検査ヲ受クヘシ第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石税ヲ納ムヘシ其製成スルヲ得サル者及ヒ廢棄シタル者ハ其石數ニ係ル造石税ヲ免除ス

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許税ヲ納ムヘシト雖モ造石税ハ之ヲ免除ス

第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハス其仕込タル酒もど其他仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ検査ヲ受クヘシ

第二十條 酒造用諸器械ハ使用以前管廳ヘ申出検査ヲ受ケ其賣買讓與貸借ハ其時々管廳ヘ届出ツ可シ十六年第六號布告ヲ以テ全條改正

造酒着手後造石税完納以前ニ於テハ管廳ノ許可ヲ得スシテ諸器械ヲ酒造場外ヘ移スヲ許サス

酒造用諸器械ヲ賣與讓與貸與及所持主ヘ返却スルトキハ第九條ノ納期ニ拘ハラヌ検査済ニ係ル造石税ヲ完納スヘシ

第三章 禁令 雜令

第二十一條 酢及ヒ酒もどヲ販賣スルヲ許サス

但事故アリテ酒もどノ不用ニ屬シタルモノヲ同業ノ者ニ限り賣渡スハ此限ニ非ス十七號布告ヲ以テ但書追加

第二十二條 他ノ依托ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒造場ヲ貸スヲ許サス十五年第六十一號布告ヲ以テ全條改正

第二十三條 検査未済ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス同 検査既済ノ酒類ヘ検査未済ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス

第二十四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス 第二十五條 造酒搾リ器械ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スルキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳ヘ届出再封ヲ請フヘシ

第二十六條 免許ヲ受タル者ハ其節管廳ヘ該一期造酒見込ノ種目石數并ニ其造リ方法共届出ヘシ

但種目變換并見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ 第二十七條 酒造ニ屬スル倉庫納屋并ニ諸器械共豫テ管廳ヘ届出ヘシ 但増減ハ其時々届出ヘシ

第二十八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書載シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四章 罰令

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ沒收シ免許稅額ニ倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ

但シ本文酒類并ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徴スヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許稅相當ノ金額ヲ科スヘシ

第三十一條 酒類石數ノ檢査ヲ受ケスシテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與シタル者ハ其代價ヲ追徴シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

但第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第三十二條 酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

十五年第十七號布告ヲ以テ但書ヲ刪除シ同第六十一號布告ヲ以テ本條ヲ改正ス

第三十三條 檢査未済ノ酒類ヲ自用ニ消費シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 第十四條ノ届出ヲ怠リタル者第五條第七條第二十八條ヲ犯シタル者ハ壹圓以

上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス十五年第六十一號布告ヲ以テ全條ヲ改正シ十六年第六號布告ヲ以テ第十四條ノ下六字ヲ削除ス

第三十五條 第六條第二十五條第二十六條第二十七條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス十五年第六十一號布告ヲ以テ追加ス

第二十條第一項ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス

十六年第六號布告ヲ以テ第六號布告ヲ以テ本項改正ス

第二十六條 第十條第二項第二十一條第二十二條第二十三條第二項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ

但第二十三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒收ス十五年第六十一號布告ヲ以テ本條以下ヲ追加ス

第二十七條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒ

第二十八條 酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

酒造稅則附則

第一條 自家用料ノ酒類(飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ)ヲ製造スル者ハ管廳ヘ届出製造免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ムヘシ十五年第六十一號布告ヲ以テ附則ヲ改正追加ス

第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高壹石(二種以上製造スル者)ヲ超ユルヲ

得ス若シ之ヲ超ユル時ハ總テ本則ニ從フヘシ

第四條 自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家ノ外ニ於テ之ヲ製造スルヲ得ス

第五條 自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第六條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ申出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第七條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ検査スヘシ

第八條 第一條第三條第四條第五條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ

第九條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

○**酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ該稅則ニ準據ス**

明治十六年十二月十八日

第四拾貳號布告

酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造稅則中第三條免許稅第四條第二項

第三項ヲ除クノ外該稅則ニ準據スヘシ

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ検査未済ノ酒類ヲ以テ酢ヲ製造スルヲ

許サス犯ス者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收ス其已ニ賣捌

キタル者ハ代價ヲ追徴ス

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ届出ヘシ違フ者ハ壹圓以上壹圓九

拾五錢以下ノ料科ニ處ス

右奉 勅旨布告候事

○**酒造制限石高ヨリ減却セシモノハ翌期營業ヲ許サス** 明治十六年十月二十三日  
大藏省第六拾九號府縣(根室札幌沖繩ノ三縣  
ヲ除ク)  
ノ達

酒造稅則第四條第二項ニ據リ酒類製造免許ヲ受タル後非常ノ災害ニ罹リ酒類釀造元米諸開械等ヲ減損スルノ類ニシテ  
實際止ヲ得サルノ事故アルモノヲ除クノ外徒々ノ口實ヲ設ケ制限石高ヨリ減却セシモノハ翌期營業ノ免許ヲ與  
ヘサル儀モ可有之候條詳細其事由ヲ具シ見込相立稟議スヘシ此旨相達候事

●**同指令**

●**酒造免許鑑札記載方ノ儀ニ付愛媛縣ヨリ大藏省ヘ伺** 十六年六月廿七日

客年第六拾一號公布以前免許ヲ受ケタル酒造營業人ニ限リ稅則第四條第二項三項適用ニ及ハサルニ付テハ其區分分明  
ナラシメン爲メ同第六條第七條ニ仍リ鑑札書換又ハ再渡ヲ要スルトキハ其鑑札面ニ何年何月日免許何年何月日書換  
又ハ再渡ト記入シ可然ヤ

但第六拾一號公布以後免許ノ者ト雖モ本文同様記入スヘキヤ

右相伺候也

指令 十六年七月十四日

伺之趣六拾一號公布以前免許ノ者ト新規營業者トノ區別ハ鑑札面記入ニ及ハス帳簿上ニ於テ分明ナラシムル儀  
ト可相心得事

但新規營業者ト雖モ翌期引續ノ者ハ稅則第四條三項ノ制限ニ據ラシムルニ及ハス

●**酒造營業引續ノ儀ニ付滋賀縣ヨリ大藏省ヘ伺** 十六年九月五日

第十一類 租稅及貨紙幣公債

酒造營業鑑札ヲ返納セスシテ居タルモノ翌期中ニ引續キ營業出願スルトキハ新規ト見做スノ限ニ非スヤ右相伺候也

指令 十六年九月七日

十月一日迄ニ出願スルモノニ非サレハ引續キ營業ト爲スノ限ニ非スニ日以後ニ出願スルモノハ新規營業ト心得  
ヘシ

●水戸始審裁判所檢事ヨリ酒造稅則其他ノ儀ニ付司法省へ請訓 十六年八月廿日

第一條 酒造稅則第三十一條及第三十六條中賣捌代金追徴ノ明分有之右追徴金ハ本犯已ニ之ヲ費消シ完納スル能ハサルハ其實力取調ノ上身代限ノ處分ニ及フヘキ哉

第二條 檢察官ノ上告ニ係リ保釋ヲ得タル犯人又罪ヲ犯シ審問ノ爲メ拘留セラレ尋テ刑ノ旨渡ヲ受テ其執行ヲ終リタル後上告ニ係ル事件判決トナリ其刑重キヲ以テ已ニ役過スル日數ヲ控除スル時右審問ノ爲メ拘留セラレタル日數モ亦刑期ニ通算スヘキ哉刑法第五十一條第二項上告中拘禁ヲ受ケタル日數ヲ刑期ニ通算スルハ畢竟犯人原裁判ニ服從シ上告中原裁判旨渡ノ爲メ拘留セラレハ犯人ノ自ラ求ムル所ニアラサルヲ以テノ故ナラン然ラハ則上告中他ノ犯罪ノ爲メニ拘留セラレハ素原裁判旨渡ニ因ルニアラスモ上告ノ事件ニ關セサルモノニ即犯人自ラ求ムル所ナリ尋常上告中拘留セラレタルモノトハ大ニ性質ヲ異ニシ其日數ハ刑期ニ通算スヘキモノニアラサル様  
思考致候得共疑義ニ涉リ候條此段仰御内訓候也

右内訓 十六年九月十八日

第一條 本犯既ニ追徴スヘキ金額ヲ費消シ完納スル能ハサルハ檢事ヨリ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求ス  
ヘシ

第二條 前段見解之通

●福島始審裁判所平支廳檢事ヨリ酒造規則ノ儀ニ付司法省へ請訓 十六年九月十日

第一條 酒造稅則附則第三條ニ自家用料酒ハ一期製造高壹石ヲ超過スルヲ得ス若シ之ヲ超ユルハ總テ本則ニ從フ  
ヘシ

ヘシトアレハ壹石以上ノ釀造免許稅造石稅其他總テ本則營業者同様ノ規則ニ依ルヘキ者ニ御座候哉

第二條 自飲酒壹石以上釀造免許ヲ得本則ノ規則ニ依ルト雖モ名義ハ自飲酒ナレハ賣ルヲ得サル者ニ御座候哉

第三條 自飲酒壹石以下釀造免許ヲ得タル者尙カニ壹石以上釀造シタル者ヲ發見シタルハ已ニ免許ヲ得タル壹石以下ヲ引去リ假令其密造シタル石高ハ壹石以上ニ及フモ附則第八條ニ照シ罰料沒收等ノ所分ヲ爲スヘキ者ニ御座候哉

第四條 或ハ前第三條ノ如キ犯罪者ハ其超過スル石高壹石以上ハ本則ニ依リ壹石以下ハ附則ニ照シ罰スヘキ者ニ御座候哉

第五條 或ハ自家用料酒壹石以上釀造ノ免許ヲ得タル者ハ本則ノ規則ニ依ルト雖モ密造ヨリ營業者ニアラサレハ其罰則ハ總テ附則第八條ニ照シ罰スヘキ儀ニ御座候哉

右ハ先般ヨリ數度相伺候得共何分不了解ノ賸有之重テ奉仰内訓候也

内訓 十六年十月六日

第一條 見込ノ通

第二條 營業者ト同一ノ免許ヲ得本則ニ從ヒタル以上ハ固ヨリ賣捌クヲ得ヘキ者トス

第三條 初ヨリ賣捌クノ目出テサル者ハ見込ノ通

第四條 前條指令ニ因リ了解ス可シ

第五條 自家用料ノ目出タルト雖モ壹石以上ヲ製造セントスル者ハ免許ヲ得且檢査ヲ受クル等總テ本則ニ從ハサルヲ得サル者ニ付既ニ免許ヲ得タル以上ハ其犯罪則ニ付テモ亦本則ニ依ラサルヘカラス  
右及内訓候也

●滋賀縣ヨリ司法省へ酒造器械ノ封緘ヲ破棄シタルモノ法律適用ノ儀司法省へ請訓 十六年十月廿五日

酒造營業者ニシテ同稅則第二十五條ニ據リ酒造器械へ主任官吏施シタル封緘ヲ私ニ破棄シタルモノハ刑法第七十

四條ヲ適用シ過誤等ニテ封緘ヲ毀損シ夫レカ届出ヲ怠リ再封ヲ請ハサルモノハ酒造稅則附則第三十五條ヲ適用スヘクヤ或ハ酒造開械ノ破棄ハ總テ同稅則ヲ以テ論スヘキモノナルヤ疑團ヲ生シ候間仰御明示候也

內訓 十六年十一月七日

請訓ノ趣後段見解ノ通

十六年十月十二日

●酒造稅則附則違犯者處分方之儀ニ付愛媛縣ヨリ司法省ヘ伺

第一條 甲者自家用料酒製造免許ヲ受ケ自分制限以内ヲ製造シ尚若干之餘石アルヲ以テ乙丙ノ乞フニ任セ自家ニ於テ製造爲致タルモノアリ 甲乙丙之製造石高ヲ合算シ丙ハ免許ヲ受ケスシテ製造シタルモノニ付酒造稅則附則第一條違犯者トシ同則第八條ニ照シ處分スヘキハ勿論ニ候得共甲ハ免許證札ヲ得自家ニ於テ製造シタルモノナルヲ以テ同則中之ヲ處罰スヘキ正條ナシ刑法第百九條ニ據ントスルモ甲者ニ於テ器具ヲ給與シ又誘導指示シタルモノニアラス右處分方如何相心得可然哉

但甲者ニ於テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シタル片ハ下條ニ仍リ處分スヘキ哉

第二條 甲乙丙竝ニ組合ヲ爲シ甲ノ名面ヲ以テ自家用料酒製造ノ免許ヲ受ケ甲家ニ於テ制限以内ノ酒類ヲ製造シタル片ハ甲ヨリ器具ヲ給與又ハ誘導指示シタルト否ヲ不問甲ハ刑法第百九條ニ乙丙ハ附則第一條ニ照シ處分スヘキモノト相心得可然哉

右至急御指揮ヲ仰キ候也

指令 十六年十一月十三日

伺ノ趣第一條第二條共甲乙丙ト共ニ酒造稅則附則第八條ニ依リ處分セサルヘカラス但第一條ハ甲ニ於テ製造ニ關係セス單ニ自家ニテ製造センメシノミ止マレハ刑法第百九條ニ依リ乙丙ノ從犯トシテ處分ス可キ者トス

●滋賀縣ヨリ自家用料酒ノ儀ニ付司法省ヘ請訓 十六年十一月十九日

本月十五日第百十六號官報中愛媛縣ヨリ貴省ヘ伺乃チ別紙寫之通揭ケ有之右御指令ニ甲乙丙ト共ニ酒造稅則附

則第八條ニ據リ處分セサルヘカラスト有之其甲者ハ該附則第何條ノ違犯者ニシテ第八條ノ罰令ニ該ルモノナルヤ疑團ヲ生シ候間御指令ノ御旨趣請訓候條御明示被下度候也

內訓 十六年十二月十二日

請訓ノ趣甲乙丙カ無鑑札ニテ製酒スルニ加功セシ者ナルニ因リ乙丙ト共ニ同稅則附則第一條ニ違背セシ者ニシテ第八條ニ依リ處分ス可キ者ト心得ヘシ此旨及內訓候也

別紙

愛媛縣ヨリ酒造稅則附則違犯者處分方ノ儀ニ付伺

第一條 甲者自家用料酒製造免許ヲ受ケ自分制限以内ヲ製造シ尚若干之餘石アルヲ以テ乙丙ノ乞フニ任セ自家ニ於テ製造爲致タルモノアリ 甲乙丙ノ製造石高ヲ合算シ丙ハ免許ヲ受ケスシテ製造シタルモノニ付酒造稅則附則第一條違犯者トシ同則第八條ニ照シ處分スヘキハ勿論ニ候得共甲ハ免許證札ヲ得自家ニ於テ製造シタルモノナルヲ以テ同則中之ヲ處罰スヘキ正條ナシ刑法第百九條ニ據ントスルモ甲者ニ於テ器具ヲ給與シ又誘導指示シタルモノニアラス右處分方如何相心得可然哉

但甲者ニ於テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シタル片ハ下條ニ仍リ處分スヘキヤ

第二條 甲乙丙竝ニ組合ヲ爲シ甲ノ名面ヲ以テ自家用料酒製造ノ免許ヲ受ケ甲家ニ於テ制限以内ノ酒類ヲ製造シタル片ハ甲ヨリ器具ヲ給與又ハ誘導指示シタルト否ヲ不問甲ハ刑法第百九條ニ乙丙ハ附則第一條ニ照シ處分スヘキモノト相心得可然哉

右御指揮ヲ仰候也

指令 十六年十一月十三日

伺之趣第一條第二條共甲乙丙ト共ニ酒造稅則附則第八條ニ依リ處分セサルヘカラス但第一條ハ甲ニ於テ製造ニ關係セス單ニ自家ニテ製造センメシノミ止マレハ刑法第百九條ニ依リ乙丙ノ從犯トシテ處分スヘキ者トス



●自家用料酒廢棄ノ儀ニ付山形縣ヨリ大藏省ヘ伺 十六年十二月十八日

自家用料酒類非常(風水火廢)ノ災害或ハ腐敗ニ罹リタル石數其期中代料トシテ再ヒ製造スルヲ得ヘキヤ將タ過誤ニ出ル流失棄損ニ屬スル分ハ前交ニ據ラサルヤ右ハ目下調査上疑似ニ涉リ候條至急御指揮相成度候也

指令 十七年一月九日

申出ノ通

但非常災害ノ實況及ヒ腐敗酒トモ検査ヲ受ケシムヘシ

●酢造營業者ノ儀ニ付京都府ヨリ大藏省ヘ伺 十七年一月廿九日

第一條 酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造場一ヶ所毎ニ免許鑑札ヲ下付スヘキ儀ニ有之哉果シテ然ラハ該鑑札ハ府廳ニ於テ國稅徵收費ノ内ヲ以テ調製シ下付シ可然哉

第二條 前條酒類造石稅ハ第一類相當課稅シ可然哉

第三條 酢元ニ供スル酒類製造スル者酢製成ノ上届出シハ田置候迄ニシテ其石數ノ検査ヲ要スルニ不及儀ト相心得可然哉

第四條 酒造營業人ヨリ検査清腐敗酒造石稅 免除買入酢元酒類ニ活用スル場合ニ於テハ其石數ヲ査定シ課稅致シ可然哉

指令 十七年二月十三日

第一條 前段申出ノ通後段鑑札ノ儀ハ酒造免許鑑札ニ酢元用ノ三字ヲ冠ラセ下付スヘシ

第二條 酒造稅則第二條中ノ各類別ニ據リ課稅スヘシ

第三條 申出ノ通

第四條 課稅ノ限ニアラス

但其腐敗酒ヲ燒酎等ニ燻製シテ酢造元ニ供スルモノハ此限ニアラス

●兵庫縣ヨリ大藏省ヘ酒造稅則第十三條及第二十三條第二項ノ儀ニ付十六年一月十三日付伺第五條但替ニ對シ同年

四月十二日付ヲ以テ指令及ヒ置キシ處右ハ混和ノ所爲過誤ト故造トヲ問ハス各本條ニ據リ處分スト更正スル旨ヲ本月五日(十七年六月)同省ヨリ更ニ該縣ヘ達シタリ

右參照

兵庫縣ヨリ大藏省ヘ酒造稅則第十三條第二十三條第二項ノ所爲處分方ノ儀ニ付伺(節錄)

第五條 稅則第十三條検査未済ノ酒類(検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石稅ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ)第二十三條第二項(検査済ノ酒類(検査未済ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス)ハ事實相似タル所爲ニシテ甲ハ總石數ノ納稅ニ止リ乙ハ罰金ニ處シ仍ホ其酒類ヲ沒收セラル、ヲ以テ假令第二十三條ノ所爲アルモ第十條ノ所爲ニ申供スルハ必然ナリ且検査済酒類ノ桶瓶等既ニ入替變換セシ上ハ検査上他ニ證左ノ識別スヘキモノナシ此場合ニ於テハ一ニ酒造人ノ申立ニ任セ處分スヘキヤ  
但本分甲乙其犯情故意ト過誤トノ別ナク各本條ニ據リ處分スヘキヤ

明治十六年一月十三日

指令

検査ノ上其實證ナキモノハ申出ノ通

但書隱蔽ヲ謀ルノ故意ヲ以テ検査済未済ノ酒類ヲ混和シタル者ハ稅則第三十二條(酒類ヲ隱蔽シタルモノハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ)ニ據リ其他ハ申出ノ通

明治十六年四月十一日

●酒類造石稅前納ノ儀ニ付新潟縣ヨリ大藏省ヘ伺 十八年三月四日

爰ニ酒造營業人アリ税金納期日前酒類造石稅一時即納(例ハ一期中二三期ヲモ併セテ納ムルノ類)致度旨出願スル片ハ期屆總テ一期へ領收シ不苦哉

指令 十八年三月十三日

第十一類 租稅及貨紙幣公債

伺之趣申出ノ通取計不苦候事

但收納ニ係ル諸証書切符等ニハ都テ第何期へ一時上納ト加書スヘシ

●沿革要領

明治元年五月廿九日酒造鑑札ヲ渡シ百石ニ付二十兩ノ上納金ヲ定ム○同年九月四日布告ヲ以テ酒造萬百石未滿ノ者ハ百石マテ増造スルヲ許ス○四年七月布告ヲ以テ清酒濁酒醪酒類並醬油醸造株鑑札渡方并稅則ヲ定メ從前ノ株鑑札ヲ廢シ取締方ヲ設ク○八年二月第廿六號布告ヲ以テ四年七月布告酒造取締并稅則及追々増補等ノ條共相廢シ更ニ酒類稅則ヲ定ム○十三年九月第四十號布告ヲ以テ酒造稅則ヲ制定シ從前ノ酒類稅則ヲ廢ス

第八十六 舊酒造營業稅則

明治十二年九月二十七日 第四拾壹號布告

舊酒造營業稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

(別冊)

舊酒造營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 凡ソ舊酒造營業稅ノ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

舊酒造營業稅 金五拾圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月二十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ管廳ニ納ムヘシ

十六年第四十三號布告看參  
第九十五

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管廳へ届出ヘシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數并ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管轄へ差出シ検査ヲ受クヘシ

管轄及ヒ仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ検査スヘシ十五年第六十二號布告以テ本項ヲ追加ス

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ舊酒造捌所ト書シタル標札へ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

第二章 禁令 罰令

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條 免許鑑札ヲ受ケス舊酒造營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數并ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ

第十二條 舊酒造營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣舊酒造受賣酢造營業ヲ爲シ又ハ酒類舊酒造ヲ製造スルヲ許サス同本條以下四條ヲ追加ス

第十三條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品

第十一類 租稅及貨紙幣公債

及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ  
 第十四條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス  
 但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス  
 第十五條 營業業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者  
 ヲ處罰ス

●沿革要領

明治六年四月大藏省第六十七號達ヲ以テ舊稅額ヲ定メ營業者ニ鑑札ヲ付與ス○八年二月第廿六  
 號布告但書ヲ以テ該稅ヲ廢ス○十三年九月第四十一號布告ヲ以テ再ヒ舊稅營業稅額ヲ定ム

第八十七 烟草稅則

明治十五年十二月二十七日  
 第六拾三號布告

明治八年<sup>十</sup>月<sup>二</sup>第百五拾號布告烟草稅則別紙ノ通改定シ來十六年七月一日ヨリ施行ス

但明治十年<sup>二</sup>第拾四號布告第一項ハ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

(別紙)

烟草稅則

第一章 烟草營業

第一條 烟草營業者ヲ分テ左ノ三種トス

烟草製造人

烟草仲買人

烟草小賣人

第二條 刻烟草又ハ卷烟草等ヲ製造スル者ヲ烟草製造人トス但賃銀ヲ受ケテ他ノ製造人ノ  
 烟草ヲ製造スル者ハ此限ニ在ラス

第三條 未製造ノ烟草ヲ買入レ之ヲ製造人又ハ同業者へ賣渡シ及製造烟草ヲ買入レ之ヲ小  
 賣人又ハ同業者へ賣渡ス者ヲ烟草仲買人トス

第四條 製造烟草ヲ自用者へ賣捌ク者ヲ烟草小賣人トス

第二章 營業鑑札

第五條 烟草營業者ハ管轄廳へ願出營業鑑札ヲ受ク可シ但製造仲買及小賣ヲ兼業スル者ハ  
 各其營業鑑札ヲ受ク可シ

第六條 烟草營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲ストキハ管轄廳ニ願出仕入  
 又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帶ス可シ

第七條 烟草營業者ハ鑑札ヲ受クルトキ左ノ通鑑札料ヲ納ム可シ

烟草營業鑑札料 壹枚ニ付金貳拾錢

烟草仕入鑑札料 壹枚ニ付金拾錢

烟草出賣鑑札料 壹枚ニ付金拾錢

第八條 鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セシトキハ之ヲ管轄廳ニ届出其再渡又ハ書換

ヲ請フ可シ但前條ノ通鑑札料ヲ納ム可シ

第九條 營業人廢業スルトキハ管轄廳へ届出鑑札ヲ還納ス可シ

第十條 鑑札ハ貸借賣買及讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三章 營業稅

第十一條 烟草營業者ハ左ノ通營業稅ヲ納ム可シ但兼業スル者ハ各其營業稅ヲ納ム可シ

烟草製造營業稅 壹個年 金拾五圓

烟草仲買營業稅 壹個年 金拾五圓

烟草小賣營業稅 壹個年 金五圓

第十二條 烟草營業稅ハ年々兩度ニ區分シ前半年分ハ一月卅一日限後半年分ハ七月卅一日

限管轄廳ニ納ム可シ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受ル節其半年分ノ營業稅ヲ納ム可シ

第四章 印稅

第十三條 烟草製造人刻烟草ヲ製造スルトキハ左ノ量目ニ從ヒ玉造紙包又ハ箱詰ニ裝置シ

相當ノ印紙ヲ用フ可シ

量目 印稅卸賣定價百匁ニ付二十五錢未滿ノ分

五匁 二厘

十匁 四厘

十五匁 六厘

同卸賣定價百匁ニ付二十五錢以上五拾錢未滿ノ分

三厘

六厘

九厘

同卸賣定價百匁ニ付五拾錢以上ノ分

四厘

八厘

一錢二厘

十六年第四十  
一號布告ヲ以  
テ三十匁及五  
十匁ノ次各一  
項ヲ追加ス

二十匁 八厘

三十匁 一錢二厘

四十匁 一錢六厘

五十匁 二錢

八十匁 三錢二厘

百匁 四錢

一錢二厘

一錢八厘

二錢四厘

三錢

四錢八厘

六錢

一錢六厘

二錢四厘

三錢二厘

四錢

六錢四厘

八錢

第十四條 刻烟草ヲ玉造ニ爲ストキハ帶印紙ヲ以テ結束シ其封緘ノ箇所及印紙ノ彩紋ヘカ  
ケ製造人ノ印章ヲ以テ消印シ箱詰又ハ紙包ハ封緘ノ要部ニ印紙ヲ貼用シ製造人ノ印章ヲ  
以テ之ニ消印ス可シ

第十五條 刻烟草ヲ五匁以下崩シ賣ニ爲ストキハ二厘ノ帶印紙ヲ以テ結束ス可シ

第十六條 刻烟草ヲ玉造又ハ崩シ賣ニ爲ストキハ帶印紙ノ外他ノ紙類ヲ以テ之ヲ結束スル

コトヲ得ス

第十七條 外國へ輸出スル烟草ニ限リ輸出ノ節稅關ニ於テ戻稅トシテ印稅相當ノ金額ヲ輸

出人へ下付ス可シ

第十八條 烟草印紙ノ種類價格左ノ如シ

帶印紙 黑色 一枚 二厘

同 淡赭色 同 三厘

第十一類 租稅及貨紙幣公債

同	黃色	同	四厘
同	赭色	同	六厘
同	萌黃色	同	八厘
同	淡青色	同	九厘
同	茶褐色	同	一錢二厘
同	淡紅色	同	一錢六厘
同	桔梗色	同	一錢八厘
同	橙黃色	同	二錢
同	老綠色	同	二錢四厘
同	濃青色	同	三錢
同	淡黑色	同	三錢二厘
同	黃綠色	同	四錢
同	嬌栗色	同	四錢八厘
同	紫色	同	六錢
同	朱色	同	六錢四厘
同	赤色	同	八錢

第十九條 烟草印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スル

十六年第四十一號  
布告ヲ以テ追加ス

コトヲ得ス

第二十條 印紙貼用ノ細則ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

第五章 雜則

第二十一條 刻烟草ハ每個必ス製造人ノ氏名住所ヲ附記ス可シ

第二十二條 烟草營業者ハ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ所持スルコトヲ得ス仕入出賣ヲ爲ス者モ亦同シ

第二十三條 烟草營業者ハ左ノ帳簿ヲ調製ス可シ其記載方ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

烟草製造人

烟草仲買人

烟草買入帳

烟草賣渡帳

烟草小賣人

烟草買入帳

第二十四條 烟草營業者ハ管轄廳ニ願出印紙買入鑑札ヲ受ケ印紙買入ヲ爲ス毎ニ其鑑札ヲ携帶シ印紙賣捌人ニ示ス可シ

第二十五條 印紙賣捌人ハ印紙買受人ノ鑑札ヲ照査シテ其賣渡高及買受人ノ氏名住所賣渡ノ年月日ヲ帳簿ニ登記ス可シ

第十一類 租稅及貨紙幣公價

第二十六條 烟草營業者ハ烟草印紙ノ買受高其買入場所及使用高ヲ帳簿ニ登記ス可シ

第二十七條 烟草營業者ハ前年七月一日ヨリ其年六月卅日迄ノ烟草買入高賣捌高製造高并印紙買入高及六月卅日ノ烟草并印紙ノ現在高ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ届出ツ可シ

第二十八條 印紙賣捌人ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ印紙賣捌高并買受人ノ氏名住所ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ届出ツ可シ

第二十九條 烟草營業者ハ營業ノ標札ヲ戶外ニ掲出スヘシ但書式ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

第三十條 印紙買入鑑札ハ貸借賣買及讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 未製造ノ烟草ハ烟草營業者ニアラサル者ニ賣渡スコトヲ得ス但貸與讓與ノ名義ヲ以テスルモ亦同シ

第六章 検査

第三十二條 烟草營業者ノ帳簿及其所持ノ烟草ハ主任官隨時之ヲ検査ス可シ

第三十三條 検査官吏ハ検査ノ時官ノ印章ヲ携帯シ營業者ノ求ニ應シテ之ヲ示ス可シ

第七章 罰則

第三十四條 營業鑑札ヲ受ケスシテ烟草營業ヲ爲ス者ハ營業稅逋脱ニ係ル金高三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ烟草ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

第三十五條 烟草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ所持シ又ハ賣渡シタル者ハ

十六年第四十三號布告參看  
〔第九十五〕

拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其賣渡代價ヲ追徴ス之ヲ貸與讓與シタル者モ同ク其罪ヲ論ス

第三十六條 帳簿ノ登記ヲ詐テ脱稅ヲ謀リ若クハ脱稅ノ便ヲ與ヘタル者又ハ届書ニ詐偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 烟草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ買受ケタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス之ヲ借受讓受ケタル者モ同ク其罪ヲ論ス

第三十八條 第六條第十四條第十五條第二十一條第二十四條ニ違犯シタル者及第二十三條ニ違犯シテ帳簿ノ調製ヲ怠ル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル烟草ハ之ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

第三十九條 管轄廳ノ許可ヲ得スシテ印紙ヲ發賣スル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其印紙ヲ沒收ス之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 未製造ノ烟草ヲ烟草營業者ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第十三條ノ烟草裝置區分ニ違フ者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル烟草ヲ沒收ス

第四十二條 鑑札ヲ賣買貸借又ハ讓受讓渡シタル者及第二十五條第二十六條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 烟草自用者ニシテ未製造ノ烟草又ハ無印紙ノ刻烟草ヲ買受ケタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十四條 第八條第九條第二十七條第二十八條ノ届出ヲ怠リタル者及第二十九條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十五條 第二十条第二十三條第二十九條ニ依リ定メタル布達ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十六條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十七條 烟草營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

明治十年二月四日

○自用人ノ購求ニ宛ツル製造烟草ハ前以テ印紙貼用セシム

第拾四號  
布告第一

一製造烟草ノ儀ハ自用人ノ人へ賣渡ス節印紙貼用可致成規ニ有之候處爾來自用人ノ購求ニ宛テ候製造烟草ハ前以テ印紙貼用致シ可置尤臨時官員派出調査候儀可有之事

右布告候事

○烟草稅則施行ニ付心得方 明治十六年六月四日  
第拾八號布達

明治十五年<sup>十二</sup>月<sup>十二</sup>日第六拾三號布告烟草稅則本年七月一日ヨリ施行候ニ付左ノ通心得ヘシ

烟草仲買人小賣人ニシテ稅則施行前ヨリ製造烟草ヲ所持スル者ハ本年限リ其所持人ニ於テ稅則第十三條ニ據リ印紙ヲ

貼用スルヲ得但此場合ニ於テハ所持人ハ稅則第二十一條ノ製造人ニ準シ自己ノ氏名住所ヲ附記スヘシ

稅則施行前既ニ裝罝セル製造烟草ハ本年限リ其裝罝ノ儘賣捌コトヲ得尤稅則第十三條ニ照シ不足ニ係ル印紙ハ增加貼用スヘシ

印紙ハ舊長印紙及ヒ拾錢印紙ヲ除クノ外當分新舊取交セ使用スヘシ

舊長印紙及ヒ拾錢印紙ハ印紙賣捌所ニ就テ引換ヲ乞フヘシ

右布達候事

○烟草稅則中心得方 明治十六年六月十一日  
第拾號布達

明治十五年<sup>十二</sup>月<sup>十二</sup>日第六拾三號布告烟草稅則中左ノ通心得ヘシ

- 第一項 稅則第二條製造人ハ未製造ノ烟草ヲ耕作人又ハ仲買人ヨリ買入レ之ヲ製造シ仲買人又ハ小賣人へ賣渡スヲ云フ
- 第二項 稅則第三十一條烟草(營業者)トアルハ製造人仲買人ノミヲ云フ
- 第三項 稅則第二十條烟草印紙ノ貼用ハ第一號雜形ノ通之ヲ貼用シ其價格及量目ヲ付記スヘシ帶印紙ハ結束ノ上兩端ニ餘紙アルモ之ヲ截斷スヘカラス
- 第四項 稅則第二十一條製造人ノ氏名住所ハ箱帶紙包ハ其見易キ箇所帶印紙ハ其印紙彩紋ノ側面ヘ記載スヘシ
- 第五項 稅則第十四條烟草印紙ノ消印ハ七分以上ノモノヲ用非黒肉ヲ以テ押捺スヘシ
- 第六項 稅則第十七條ニ據リ輸出烟草ノ戻稅ヲ請フ者ハ第十三條ノ印稅區別ニ依リ裝罝種類ヲ分子個數量目及ヒ印紙稅金額ヲ仕譯ケタル書面ヲ以テ其輸出港ノ稅關ヘ願出シ檢査ヲ受クヘシ
- 第七項 稅則第二十三條ノ帳簿ニハ左ノ件々ヲ記載スヘシ

製造人

烟草製造帳

年月日種類及ヒ未製造烟草何程ヲ何某ヨリ買入レ何程ニ製造シ其裝罝種類定價區別量目個數代價及ヒ賣渡ノ數等ヲ記スヘシ

仲買人

烟草買入帳

年月日種類價格量目及賣主ノ氏名住所ヲ記スヘシ  
但未製造烟草ト製造烟草トハ帳簿若クハ記入口譯ヲ異ニスヘシ已下之ニ準ス

同

烟草賣渡帳

年月日種類價格量目及買主ノ氏名住所ヲ記スヘシ  
但書前ニ同シ

小賣人

烟草買入帳

未製造品買入ノコトヲ除クノ外總テ仲買人ノ帳簿ト同シ

第八項 稅則第二十七條第二十八條ノ届出ヲ爲ストキハ第二號離形ニ倣ヒ之ヲ調製スヘシ

第九項 稅則第二十九條營業人ノ標札ハ第三號離形ニ倣ヒ各自之ヲ調製スヘシ

第十項 烟草製造人ハ其製造所及ヒ器械ノ員數増減其時々管轄廳へ届出ヘシ但賃切リニ付スルモノハ其賃切人ノ氏  
名住所并使用スル器械ノ員數及ヒ増減トモ其時々管轄廳へ届出ヘシ

第十一項 仲買人小賣人ニシテ裝置烟草ヲ五匁以下前賣ニ爲ストキハ稅則第十五條ニ據リ結束スヘシ但此場合ニ於テ  
ハ仲買人小賣人ハ第四項第五項ニ據リ自己ノ氏名住所ヲ付記スヘシ

右布達候申

(離形略ス)

○稅則第六條ノ雇人トハ雇主ノ家ニアル者ニ限ル 明治十七年六月十日  
大藏省第三拾九號府縣へ達

明治十五年十二月第六拾三號布告烟草稅則第六條ニ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲ストキハ云々ト有之右雇人トハ  
雇主ノ家ニアルモノニ限ル儀ト可相心得此旨相達候申

●同指令

●烟草小賣ノ儀ニ付滋賀縣ヨリ大藏省へ伺 十六年六月十一日  
烟草製造人ヨリ貨銀ヲ受ケ自家ニ於テ製造スル者烟草小賣ノ免許ヲ受ケ其店頭ニテ販賣スルハ裝置及消印等ニ據

リ自他ノ區別ヲ立ツヘシト雖モ實際曖昧ニ涉リ弊害ヲ生スヘキニ付前條小賣ハ許可セサル方可然ヤ右相伺候也

指令 十六年六月廿二日

願出ニ任セ免許スヘシ

●卷烟草ノ儀ニ付京都府ヨリ大藏省へ伺 十六年六月十八日

卷烟草ハ印紙貼用ニ及ハス且ツ烟草營業人ノ外ニ於テ賣買スルモ不苦哉右相伺候也

指令 十六年六月廿三日

前段申出ノ通後段營業人ノ外販賣不相成

●烟草營業者自宅外ニ於テ烟草ヲ製造セシムルノ儀ニ付長崎縣ヨリ大藏省へ伺 十六年  
六月廿九日

六月廿九日

賃切人ニ付シ烟草製造セシムルハ營業者自宅ノ外ニテモ差支ナキヤ右相伺候也

指令 十六年六月卅日

本年第二十號布達第十項ノ手續ヲ經タルモノハ申出之通

●卷葉ノ儀ニ付福岡縣ヨリ大藏省へ伺 十六年七月五日

稅則第十三條ノ裝置區分ニ刻實トノミ明文アリ刻マサル卷葉ハ如何スヘキヤ右相伺候也

指令 十六年七月七日

裝置區分ヲ爲サシムルノ限ニアラス

●製造人ニ於テ買入タル葉烟草賣買ノ儀ニ付鳥取縣ヨリ大藏省へ伺 十六年六月廿八日

製造人ニ於テ買入レタル葉烟草ヲ他ノ製造人仲買人ニ賣渡ス義ハ不相成哉相伺候也

指令 十六年六月三十日

第十一類 租稅及貨紙幣公債



仲買免許ヲ得サレハ相成ラス

●烟草印紙買入鑑札ノ儀ニ付京都府ヨリ大藏省へ伺 十六年七月五日

烟草營業同印紙賣捌兼業ノモノト雖モ印紙買入鑑札下付スヘキヤ右相伺候也

指令 伺之通 十六年七月十七日

●烟草鑑札下附並ニ區分方ノ儀ニ付山形縣ヨリ大藏省へ伺 十六年七月十四日

烟草引續小賣及ヒ廢業ノ者稅則改定施行前ヨリノ殘業煙草賣捌ニ鑑札下付スヘキヤ

煙草仕入出賣ノ鑑札表面ハ姓名ノ上ニ營業ノ區分アルニ付キ單ニ仕入出賣ト而已區分スヘキヤ

右相伺候也

指令

殘業煙草賣捌ノ者仲買鑑札下附及仕入出賣鑑札表面記載方ハ渾テ申出ノ通

●烟草製造人ノ儀ニ付大坂府ヨリ電報ヲ以テ大藏省へ伺 十六年七月廿七日

烟草製造免許ヲ受ケタルモノ耕作人ノ自宅ニ於テ耕作人ノ自用烟草ヲ製造スルハ差支ナキヤ右相伺候也

指令 十六年七月三十日

烟草製造人ハ製造場外ニ於テ製造スルヲ得ス

●烟草崩賣ノ儀ニ付茨城縣ヨリ大藏省へ伺 十六年七月廿三日

刻烟草五匁以下崩賣ニ爲スハ五匁ノミニ限ルヤ將タ稅則第拾三條ニ據リ裝置セシ内何レヲ崩賣ニナスモ妨ケナキヤ右相伺候也

指令 後段申出ノ通 十六年七月三十日

●烟草小賣人賃切ノ際箱詰玉造ヲモ爲シ得ヘキヤ否ノ儀ニ付富山縣ヨリ大藏省へ伺

十六年七月廿八日

官報第壹號滋賀縣何烟草小賣人賃切ヲ受ケ自家ニ於テ製造トアルハ箱詰玉造ヲモ爲スヲ得ヘキヤ右相伺候也

指令 十六年八月一日

賃切人ノ自家ニ於テ刻マシメタル烟草ヲ箱詰玉造紙包ミ等ニ裝置スルハ製造人ニ於テ爲スヘキモノト心得ヘシ

●烟草印紙貼用ノ儀ニ付山形縣ヨリ大藏省へ伺 十六年七月三十一日

烟草稅則改正前ヨリ裝置ノ儘持越タル玉造八角印紙ヲ貼用スルモ差支ナキヤ右相伺候也

指令 申出ノ通 十六年八月三日

●烟草稅則ノ儀ニ付宮城縣ヨリ大藏省へ伺 十六年八月一日

烟草營業者出店ヲ設クルトキハ其店毎ニ鑑札下付シ可然ヤ右相伺候也

指令 申出ノ通 十六年八月六日

●烟草印紙へ量目并烟草銘附記ノ儀ニ付静岡縣ヨリ大藏省へ伺 十六年八月六日

第一條 本年太政官第貳拾號布達第三項ニ量目ヲ附記スヘシトアリ然ルニ帶印紙ニハ何勿用ノ文字其彩紋中ニ刷出シアルヲ以テ帶印紙ヲ用ル者ニ限リ特ニ量目ヲ附記スルニ及ハスヤ

第二條 煙草稅則第十四條ニ係リ結束セシ帶印紙面へ烟草銘(圖分ト記スルノ類)ヲ附記致度旨申出ルモノアリ右ハ販賣上必要ト云フト雖モ印紙ヲ汚損スルニ似タリ就テハ假令餘白タリトモ烟草銘ヲ附記スルハ相成ラスヤ右相伺候也

指令 十六年八月十七日

第一條 帶印紙ニ何勿用ノ文字刷出シアルモ猶量目ヲ附記スヘシ

第二條 申出之通

但烟草銘ヲ小紙片ニ記載シ印紙彩紋ノ側面へ貼附スルハ苦シカラス

●烟草印紙消印ノ儀ニ付三重縣ヨリ電報ヲ以テ大藏省ヘ伺 十六年八月十四日  
煙草印紙ハ實印又ハ任切判ヲ以テ消印スヘキヲ其他ノ印ヲ用フルトキハ後來ヲ戒メ既ニ消印セシ分ハ再貼セシムルニ及ハスヤ右相伺候也

指令 十六年八月十八日  
製造人ノ印章ニシテ其印面七分以上ノモノナレハ何等ノ印ヲ用フルモ差支ナシ

●烟草定價附記ノ儀ニ付山形縣ヨリ大藏省ヘ伺 十六年八月廿七日  
本年第二十號布達煙草稅則中心得第三項ニ價格及量目ヲ附記スヘシトアリ右價格トハ稅則第十三條ノ定價ニ據リ價格何十錢以上何十錢未滿ノ分ト附記スルカ又ハ價格即チ定價何十何錢ト附記スル儀ナルカ右相伺候也

指令 十六年九月八日  
後段申出ノ通一個ノ定價ヲ附記スヘシ

●煙草稅則違犯者取扱方ノ儀ニ付兵庫縣ヨリ司法省ヘ伺 十六年八月七日  
煙草製造人ニシテ製造シタル刻ミ煙草ヲ稅則第十三條ノ裝置區分ニ違ヒ 例ハ制限外ノ量目則チ百五十匁又ハ八十匁紙ヲ用ヒタル類同則第四十一條ニ該ルモノ右煙草ノ現在スル片ハ該條ニ照シ沒收スヘキモノナリト雖モ既ニ賣渡シ仲買人小賣人ニ於テ所持スルモ其仲買小賣人ハ之ヲ買請ケタル罰令ナキヲ以テ其煙草ハ沒收スルヲ得サルヘシ果シテ然ラハ右製造人ハ第四十一條ノ罰金ノミニ止リ仲買小賣人ハ不問ニ措キ該煙草ハ其儘賣買スルヲ得ヘキ儀ニ候哉右差掛リタル件ニ付速ニ電報ヲ以テ御指揮有之度此段相伺候也

令指(報) 十六年九月二十七日  
八月七日付何煙草稅則違犯ノ儀ハ見込ノ通但該煙草ハ製造人ニ返付シ改造セシムル歟若クハ稅則第十五條ニ依リ崩賣ニ爲スニ非サレハ販賣スルヲ得ス

●煙草帶印紙消印之儀ニ付靜岡縣ヨリ大藏省ヘ伺 十六年九月廿五日

帶印紙ニテ結束セシ煙草其封緘ノ箇所ヨリ彩紋ヘ掛ケ消印スルモノハ覺ケ所ニテ差支ナキヤ右相伺候也

指令 申出ノ通 十六年十月五日

●煙草印稅規則中疑儀ニ付靜岡縣ヨリ司法省ヘ伺 十六年十月廿日  
煙草仲買人小賣人ニシテ稅則施行前ヨリ製造煙草ヲ所持スル者ハ本年限リ其所持人ニ於テ稅則第十三條ニ據リ印紙ヲ貼用スルヲ得ル云々等本年太政官第十八號布達第一項ニ掲記有之右ハ舊製造ニ掛ル煙草ニ印紙ノ貼用方等ヲ指示セラレタル儀ニ付若仲買人小賣人ニシテ舊製造煙草ヘ印紙ヲ貼用セサルモノアルカ又ハ印紙ヲ貼用スルモ稅則第廿一條ニ準シ氏名住所ヲ記載セサルカ若クハ稅則第十三條ニ照シ印紙ヲ不足スル等ノ場合ニ於テハ其據リト云ヒ或ハ準スト云ヒ又ハ照スト云フモ皆同一ノ意義ニシテ各其規則本條ニ依リ罰セラルヘキ筋ナルヤ又ハ之ヲ違犯スル者ハ十八號ノ布達則其特典ニ違背シタル者ニテ稅則施行后ノ製造ニ掛ル者ノ規則ヘ直ニ據リ所罰スルハ法ノ由テ起ル所ノ根據ヲ越ヘ枝葉ヘ走リタル疑ヒナキヲ不得就テハ十八號布達ニ違背スル者ノ罰令無之上ハ縱令違犯スル者ヲルモ罰スヘキノ限リニ無之哉右實際取扱上疑儀相生シ候條至急電報ニテ御指揮有之度此段相伺候也

指令(報) 十六年十月廿五日

本月廿日附煙草稅則ノ件ハ前段伺之通

●煙草稅則取扱方ニ付長野縣ヨリ大藏省ヘ伺 十六年十二月十八日

第一條 煙草製造人ニシテ仲買又ハ小賣人ノ賣子トナルヲ得ヘキ哉果シテ然ラハ自己ノ販賣品ト賣親 仲買人又ヨリ 附托セラレタル販賣品トヨ併帶出賣スルモ苦シカラスヤ  
第二條 前條之越雇人タルノ資格ト自己本分ノ職業トヲ混スルモノナレハ差許サ、ル可キヤ若シ差許サ、ルモノトスル片ハ一家族中甲乙貳人ノモノ製造ト小賣ト一業ツ、鐵札申受ケ甲ハ乙ノ賣子トナリ乙ハ甲ノ賣子トナランヲ出願スルモ許可スヘカラサルヤ

指令 十七年一月十五日

第十一類 租稅及貨紙幣公債

第二條出賣ハ自己又ハ家族雇人ニ限ル儘ニ付製造人ニシテ仲買小賣人ノ爲メニ出賣スルハ相成ラス  
第二條一家族中甲シノ者各々一業ツ、願受ルニ於テハ互ヒニ其賣子トナルモ苦シカラス

●烟草稅則實施上疑議之廉熊本縣ヨリ大藏省ヘ伺 十六年十月廿六日

國立銀行其他ニ於テ烟草稅則改定施行以前滞貨金ノ抵當質トシテ取置タル未製造煙草ノ流込トナリタルヲ所持スルモノ有之トキ該烟草ハ賣却ノ途ナキモノ、如シ然レトモ此場合ニ於テハ仲買營業ノ免許ヲ與ヘ賣却セシメ可然哉此段相伺候也

指令 伺之通 十六年十二月十日

●烟草稅則上疑義ノ件ニ付滋賀縣ヨリ大藏省ヘ伺 十七年九月八日

犯則ニ由リ官没トナリタル刻煙草ヲ裁判所ニ於テ公賣ニ付スルハ其煙草ノ現在ノ裝置規則ノ適否ニ拘ハラズ製造人ノ外仲買人小賣人ニ於テハ買受クルヲ得サル乎果シテ然ラハ製造人其買受タル煙草へ更ニ裝置相當ノ印紙貼用スヘキハ勿論ニシテ之ヲ爲サ、ルモノハ規則第三拾五條(煙草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙草ヲ所持シ又ハ賣渡シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス云々)ノ違犯者トシ又仲買小賣人ニ於テ之ヲ買受ケ更ニ量目五匁以下ニ裝置シ二厘印紙ヲ貼用シタルモ素ト買受クルヲ得サルモノヲ買受タルモノナルヲ以テ同規則第三拾七條(煙草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙草ヲ買受ケタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス云々)ノ違犯者トシ告發スヘキ乎右ハ今般檢査上發見ノ者之レアリ候ニ付此段相伺候也

指令 十七年十月六日

伺ノ趣稅則ニ適スル刻煙草ハ何人ヲ問ハス買受クルヲ得ヘシト雖モ其適セサルモノハ製造人ニ限リ買受ケ改裝スルヲ得ル儘ト可相心得事

但仲買又ハ小賣人ニシテ既ニ稅則ニ適セサル煙草ヲ買受ケタル者アラハ此度限リ將來ヲ誠諭シ其煙草ハ崩賣トナサシムヘシ 十八年一月二十三日  
指令ヲ改正ス

●烟草規則上疑義ノ件ニ付滋賀縣ヨリ大藏省ヘ伺 十七年九月八日

犯則ニ由リ官没トナリタル刻煙草ヲ裁判所ニ於テ公賣ニ付スルハ其煙草ノ現在ノ裝置規則ノ適否ニ拘ハラズ製造人ノ外仲買人小賣人ニ於テハ買受クルヲ得サル乎果シテ然ラハ製造人其買受タル煙草へ更ニ裝置相當ノ印紙貼用スヘキハ勿論ニシテ之ヲ爲サ、ルモノハ規則第三拾五條(煙草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙草ヲ所持シ又ハ賣渡シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス云々)ノ違犯者トシ又仲買小賣人ニ於テ之ヲ買受ケ更ニ量目五匁以下ニ裝置シ二厘印紙ヲ貼用シタルモ素ト買受クルヲ得サルモノヲ買受タルモノナルヲ以テ同規則第三拾七條(煙草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙草ヲ買受ケタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス云々)ノ違犯者トシ告發スヘキ乎右ハ今般檢査上發見ノ者之レアリ候ニ付此段相伺候也

指令 十七年十月六日

伺ノ趣製造人ハ申出之通仲買小賣人ハ之ヲ買受クルヲ得サル儘ト可相心得事

但仲買小賣人ニシテ既ニ之ヲ買受ケタルモノアラハ此度限リ將來ヲ誠諭シ其煙草ハ崩賣トナサシムヘシ

●十七年十月十三日官報第三百八拾九號伺指令欄内滋賀縣ヨリ煙草稅則上疑義ノ儘ニ付大藏省ヘ伺ノ指令今同左ノ通改正ス 十八年一月二十三日

伺ノ趣稅則ニ適スル刻煙草ハ何人ヲ問ハス買受クルヲ得ヘシト雖モ其適セサルモノハ製造人ニ限リ買受ケ改裝スルヲ得ル儘ト可相心得事

但仲買又ハ小賣人ニシテ既ニ稅則ニ適セサル煙草ヲ買受ケタル者アラハ此度限リ將來ヲ誠諭シ其煙草ハ崩賣トナサシムヘシ

●沿革要領

明治八年二月第廿八號ヲ以テ來九年一月一日ヨリ煙草ニ稅ヲ課スル旨ヲ布告ス○同年十月第百五十號布告ヲ以テ煙草稅則ヲ定ム○十年二月第十四號布告ヲ以テ煙草印紙ハ自用者ニ賣渡ス品ニ限リ前以テ之ヲ貼用シ置カシム○十五年十二月第六十三號布告ヲ以テ八年第百五十號布告煙草稅則ヲ改定

第十一類 租稅及貨紙幣公債

ス

第八十八 證券印稅規則 明治十七年五月一日

第拾壹號布告

明治七年<sup>七</sup> 第八拾壹號布告 證券印稅規則別冊ノ通改正シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治八年<sup>七</sup> 第百貳拾號布告ハ同日ヨリ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

證券印稅規則

第一條 凡ソ財産ノ授受及ヒ契約ノ證明ニ用フル證書帳簿ハ此規則ニ循ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 證書帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ如シ

第一類

- 左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラズ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ
- 但當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ稅印ノ押捺ヲ請フコトヲ得
- 一當座預リ金引出小切手 印稅五 厘 一委任狀 同 五 厘
- 一金高記載ナキ約定証文 同 壹 錢 一遺金証文 同 壹 錢
- 一跡式讓証文 同 壹 錢 一讓與証文 同 壹 錢

- 一期限ヲ定メサル預リ金証文 同 壹 錢 一耕地小作証文 同 壹 錢
- 一雇人請合狀 同 壹 錢 一金高記載ナキ諸物品預リ証文同 壹 錢
- 一金高記載ナキ諸物品借用証文同 壹 錢 一地主預リ証文 同 壹 錢
- 一諸物品切手 同 壹 錢 一借地証文 同 壹 錢
- 一賣買仕切書 同 壹 錢 一保險証文 同 壹 錢
- 一諸會社株券 同 壹 錢 一送金手形 同 壹 錢
- 一金 錢 通帳 一年以内 同 壹 錢 一金 錢 判取帳 同 貳拾 錢
- 一諸物品通帳 一冊ニ付 同 壹 錢 一諸物品判取帳 同 貳拾 錢
- 一結社約定書 同 壹 錢

但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ確定スル證書帳簿ハ金高記載ナシト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約證書ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ

左ニ掲クル所ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限リ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ  
一營業ニ關スル送狀 印稅壹 錢 一營業ニ關スル請取書 同 壹 錢  
右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以内一冊ニ付壹錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第二類

左ニ掲クル所ノ證書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ但爲替手形約束手形ハ手形用紙ヲ用フヘシ  
一金錢借用証文 一地主所賣買証文

第十一類 租稅及貨紙幣公債